

三芳町住民意識調査報告書

平成22年6月

三 芳 町

目 次

I 調査の概要	3
1. 調査実施の目的	3
2. 調査項目	3
3. 調査設計	3
4. 回収結果	3
5. 調査結果を見る上での注意事項	3
6. 調査回答者の特性	4
II 調査結果の概要	9
III 調査結果の詳細	13
1. まちの住みやすさ	13
(1) 居住理由	13
(2) 住みやすさ	15
(3) 住みやすいと感じる理由	17
(4) 住みにくいと感じる理由	20
(5) 以前と比べた三芳町の住みやすさ	23
(6) 定住意向	27
(7) 住み続けたくない理由	29
2. 町の現状についての満足度	32
(1) 町の現況に対する満足度	32
(2) 町に対する愛着	50
3. 地域内の様子について	52
(1) よりよい地域をつくっていく雰囲気や土壌	52
(2) 地域活動や交流への関心	54
(3) 自治会や町内会についての考え方	56
(4) 参加したい地域活動	58
4. 町政運営について	61
(1) 町政への関心	61
(2) 町政に関心がある理由	63
(3) 町政に関心がない理由	64
(4) 町政や町の行事の情報収集方法	65
(5) 町政に意向を伝える方法	67
(6) 行政運営に対する要望	69
(7) 力を入れるべき施策	71

5 町の将来イメージ	86
（1）現在の三芳町のイメージとこれからの三芳町のイメージ	86
（2）三芳町の誇りや宝、シンボル等	89
（3）第4次総合振興計画の重点施策の進捗状況について	92
（4）今後の土地利用のあり方全体について	95
（5）Aエリア周辺の今後の土地利用について	97
（6）B・Dエリア周辺の今後の土地利用について	99
（7）Cエリア周辺の今後の土地利用について	101
（8）自由意見	103

IV 参考資料	111
住民意識調査調査票	111

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査実施の目的

「三芳町住民意識調査」は、まちづくりの基本的な指針である「三芳町第4次総合振興計画」の進捗把握と後期5年間の計画見直しのための基礎資料として、施策への住民満足度や地域課題の現況を把握するために実施するものである。

2. 調査項目

- (1) まちの住みやすさ
- (2) 町の現状についての満足度
- (3) 地域内の様子について
- (4) 町政運営について
- (5) 町の将来イメージ

3. 調査設計

- (1) 調査地域 三芳町全域
- (2) 調査対象 三芳町に居住する20歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為に抽出
- (5) 調査方法 郵送法（郵送配布－郵送回収）
- (6) 調査時期 平成22年4月1日（木）～4月20日（火）

4. 回収結果

項目	内容
配布票数	2,000票
有効回収数	930票
有効回収率	46.5%

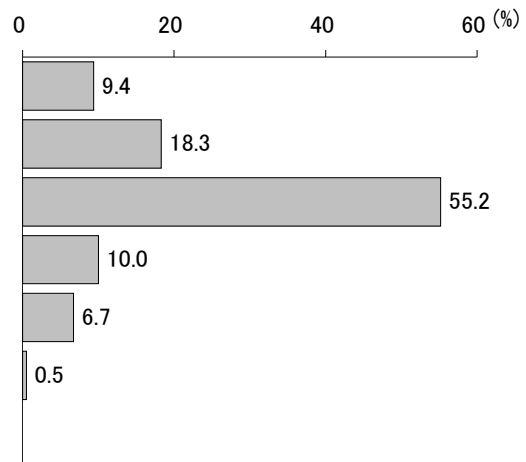
5. 調査結果を見る上での注意事項

- ・表、グラフ中の「n」は、各設問に対する回答者数を示している。
- ・百分率（%）の計算は、「n」を分母とし、小数第2位を四捨五入して表示している。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフ中は、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

6. 調査回答者の特性

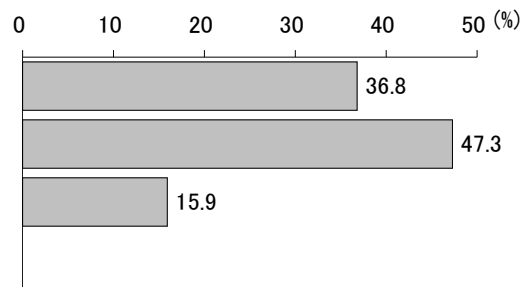
◆居住地区

	基数	構成比
上富地区	87	9.4%
北永井地区	170	18.3%
藤久保地区	513	55.2%
竹間沢地区	93	10.0%
みよし台地区	62	6.7%
無回答	5	0.5%
全 体	930	100.0%



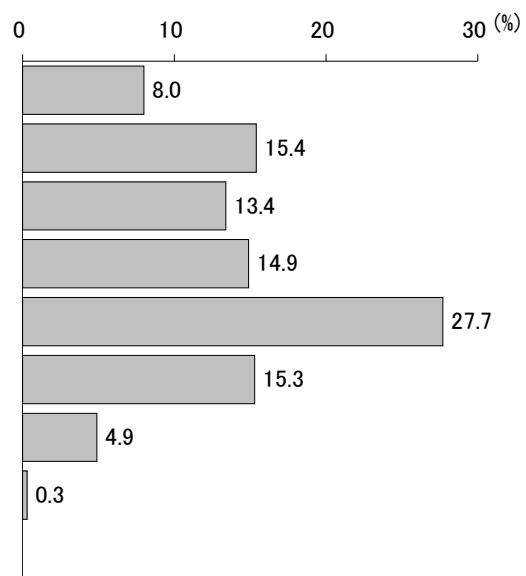
◆性別

	基数	構成比
男性	342	36.8%
女性	440	47.3%
無回答	148	15.9%
全 体	930	100.0%



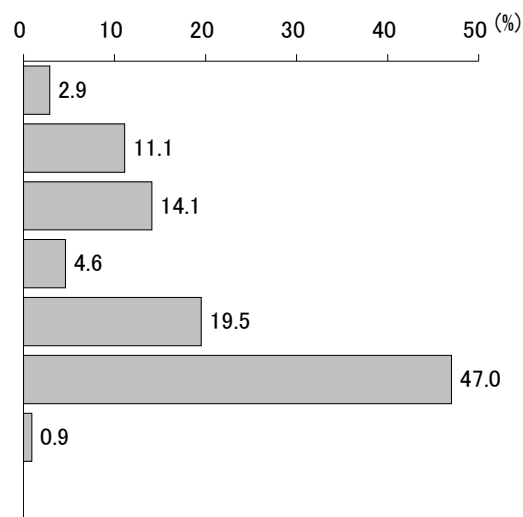
◆年齢

	基数	構成比
20～29歳	74	8.0%
30～39歳	143	15.4%
40～49歳	125	13.4%
50～59歳	139	14.9%
60～69歳	258	27.7%
70～79歳	142	15.3%
80歳以上	46	4.9%
無回答	3	0.3%
全 体	930	100.0%



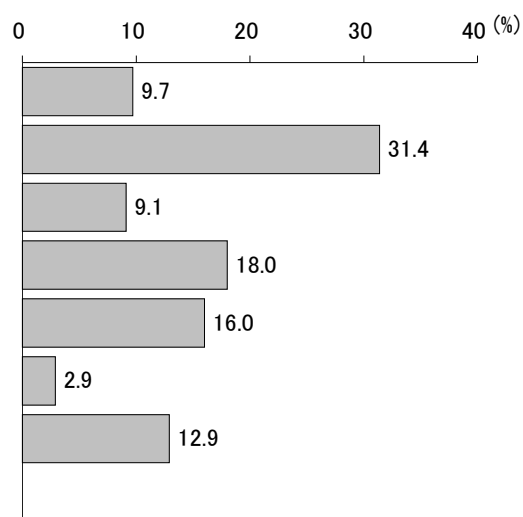
◆職業

	基数	構成比
農業	27	2.9%
製造業・建設業	103	11.1%
商業・サービス業	131	14.1%
公務・団体等勤務	43	4.6%
その他の職業	181	19.5%
無職(専業主婦・学生含む)	437	47.0%
無回答	8	0.9%
全体	930	100.0%



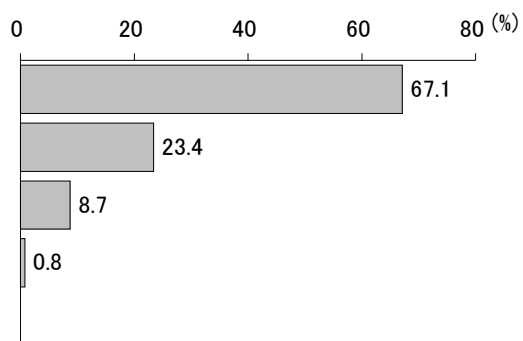
◆就業地・通学地

	基数	構成比
自宅(自営業・自宅就業など)	90	9.7%
自宅(無職または専業主婦)	292	31.4%
町内(自宅を除く)	85	9.1%
県内(三芳町を除く)	167	18.0%
東京都	149	16.0%
その他	27	2.9%
無回答	120	12.9%
全体	930	100.0%



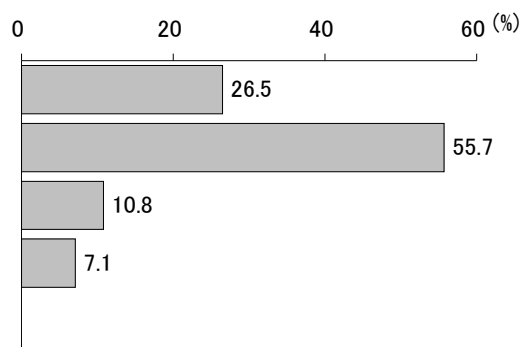
◆住宅

	基数	構成比
持家(一戸建)	624	67.1%
持家(共同住宅)	218	23.4%
借家(社宅等含む)	81	8.7%
無回答	7	0.8%
全体	930	100.0%



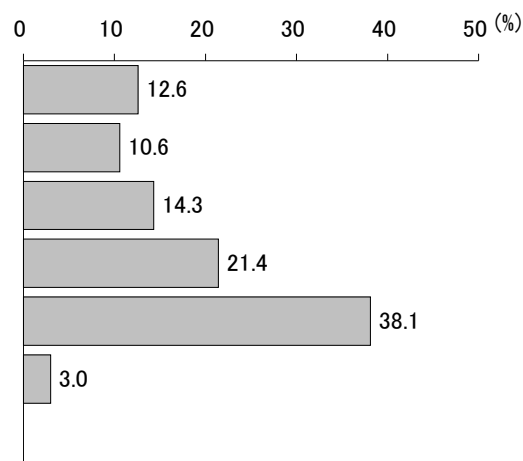
◆土地所有（家族所有を含む）

	基数	構成比
土地は所有していない	246	26.5%
自宅用の土地のみ所有している (店舗等兼用含む)	518	55.7%
自宅以外に土地を所有している(農地・林・事業所・倉庫など)	100	10.8%
無回答	66	7.1%
全 体	930	100.0%



◆三芳町での居住年数

	基数	構成比
5年未満	117	12.6%
5～9年	99	10.6%
10～19年	133	14.3%
20～29年	199	21.4%
30年以上	354	38.1%
無回答	28	3.0%
全 体	930	100.0%



Ⅱ 調査結果の概要

Ⅱ 調査結果の概要

1 まちの住みやすさ

三芳町の住みやすさについては、《住みやすい》が8割以上と多くなっており、前回調査（平成17年度）の7割台から着実に上昇している。住みやすいと感じる理由は、「生活が便利」が5割を超えている。以前と比べて住みやすくなったと感じる点は、道路が整備されたことや、買物の便がよくなったという回答が多く、生活環境の改善がうかがえる結果となった。しかし、その一方で、道路が整備されたことによる交通量の増加による渋滞や事故発生、緑（自然）の減少によって住みにくくなったと感じるという意見も多く見られる。

地区別にこれをみると、「マイホームを求めて」三芳町に住むようになった人が多いみよし台地区では、「生活が便利」という理由で《住みやすい》と答える人が多い。一方で、「生まれたときから住んでいる」という人が多い上富地区では、「長年住み慣れている」や「周辺の自然環境が良い」が半数を超えているが、「生活が便利」と答える人が他の地区に比べ極めて少ない。地域によって「住みやすい」と感じる理由はさまざまである。

三芳町への定住意向については、「住み続けたい」が8割を超え、住みやすさと同様に前回調査（平成17年度）から着実に上昇している。ただし、年代別にみると、20歳代、40歳代の定住意向は他の年代に比べてやや落ちている。

2 町の現状についての満足度

満足度は各分野の各項目で、前回の調査を概ね上回る結果となっている。平均評価点でみると、教育・文化、コミュニティほかの分野ではいずれの項目もプラス評価となっている。福祉は前回同様、中間的な評価にとどまっている。各分野の項目でみると、環境における「公園や緑地の整備」や「景観や街並み」および「自然環境の保全」、都市整備における「身近な生活道路の整備」や「土地区画整理など良好で安全な市街地形成」および「主要道路の整備」、安全対策における「防犯対策」、教育・文化における「スポーツ・レクリエーション施設や活動支援」、コミュニティほかにおける「公共施設の相互利用など周辺市町との広域サービス」で前回から大きく評価が上昇している。一方、都市整備における「バスなど公共交通網の整備」、安全対策における「自転車の放置防止や駐輪場の確保」、産業経済における「働く場所の確保や就労支援」は、前回に続きマイナスとなっている。

3 地域内の様子について

より良い地域をつくっていく雰囲気や土壌は、《あると思う》は全体で4割となっている。いずれの地区でも《あると思う》は多いが、上富地区と北永井地区はその中でも比較的多い。

また、地域活動や交流への《関心がある》と回答した人も4割となっており、いずれの地域でも《関心がない》よりも多くなっている。

4 町政運営について

町政への《関心がある》と答えた人は約6割となっている。関心がある理由は、「自分の暮らし向きに直接関係があるから」(67.1%)や「町をもっとよくしたいから」(43.5%)が多い。一方、《関心がない》理由は、「個人の意見は行政に反映されにくいと思うから」(36.9%)や「忙しくて町政のことを考える暇がないから」(34.6%)が多くなっている。町についての情報源としては、「広報みよし」をあげる人が9割近くと特に多くなっている。行政運営への要望では、「無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営」が6割近くと特に多い。

今後力を入れるべき分野は、環境分野では「公園や緑地の整備」(39.1%)や「自然環境の保全」(35.9%)および「景観や街並みの整備」(34.2%)、都市整備分野で「バスなど交通網の整備」(47.1%)と「生活道路の整備」(42.0%)、安全分野で「防犯対策」(54.1%)、福祉分野で「高齢者福祉の充実」(36.1%)と「医療・保健施設の整備」(31.6%)、産業経済分野で「雇用確保や就労支援」(37.7%)、教育・文化分野で「図書館・公民館・文化会館などの学習文化施設の充実」(38.3%)と「学校教育の充実」(37.7%)がそれぞれ多くなっている。なお、これらは概ね地区に共通しているが、その力点には地区による違いも生じている。

5 町の将来イメージ

現在の三芳町のイメージについては、「緑豊かな」(47.8%)と「自然環境がよい」(35.9%)が多い。期待するこれからの三芳町のイメージも「緑豊かな」(42.5%)と「自然環境がよい」(42.4%)が多く、将来も現在と変わらぬ自然環境についてのイメージが期待されていることがわかる。

第4次総合振興計画の重点施策の進捗状況を評価点でみると、「ぬくもりプロジェクト」が最も高く、「いきいきプロジェクト」で最も低い。他の「協働プロジェクト」、「みどりプロジェクト」、「あんしんプロジェクト」は中間的な評価となっている。また、各プロジェクトの評価は地区や年代により異なる評価がなされている。

今後の土地利用のあり方については、『農地や緑を保全する地区』と『開発を促進する地区』を分け、土地利用を誘導すべきである。人口は緩やかな増加がよい」が半数近くで最も多くなっている。

Ⅲ 調査結果の詳細

Ⅲ 調査結果の詳細

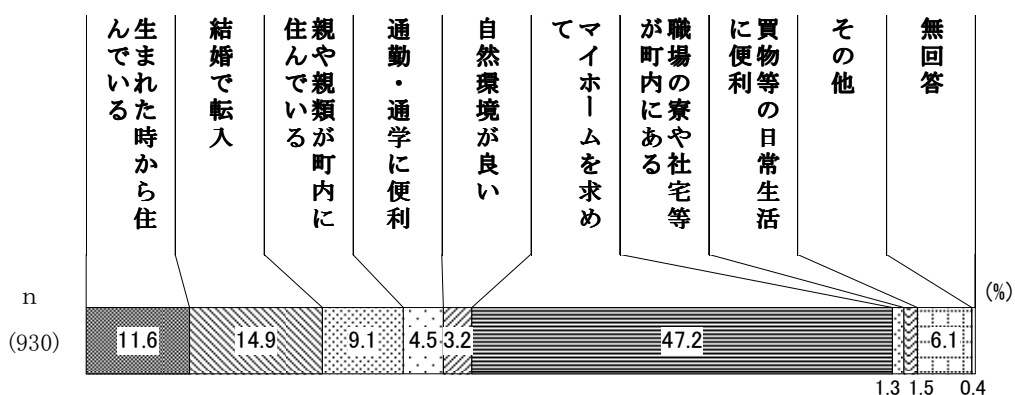
1. まちの住みやすさ

(1) 居住理由

◇「マイホームを求めて」が47.2%で最も多い

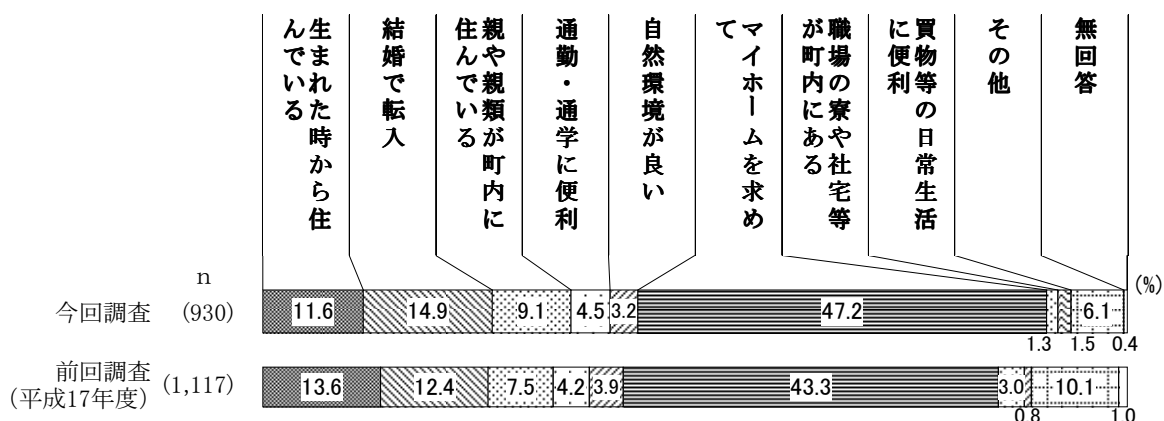
問2 あなたが三芳町に住むようになったのはどういう理由からですか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

図1-1



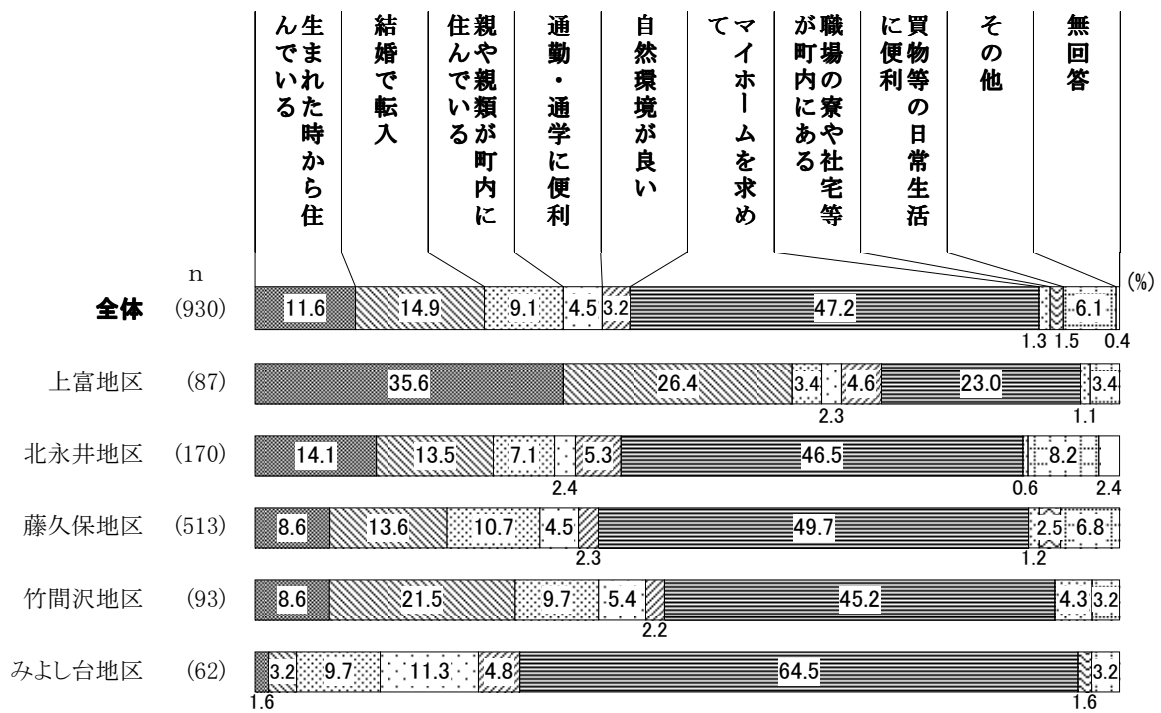
三芳町に住むようになった理由は、「マイホームを求めて」が47.2%で多くなっており、「結婚で転入」(14.9%)、「生まれた時から住んでいる」(11.6%)も1割台となっている(図1-1)。

図1-2 経年比較 居住理由



前回調査(平成17年度)との比較では特に大きな差はみられないが、「マイホームを求めて」、「結婚で転入」が前回調査よりやや増加している(図1-2)。

図1-3 地区別 居住理由



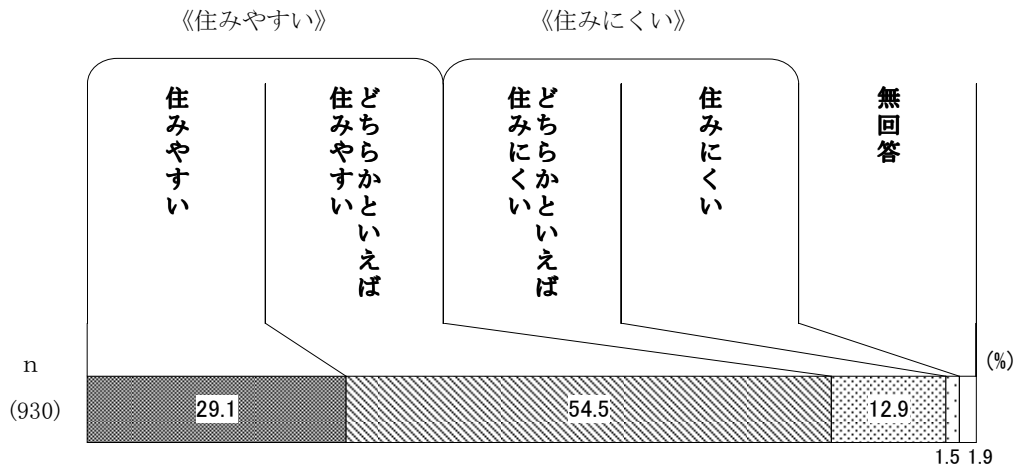
地区別にみると、「マイホームを求めて」は、みよし台地区、藤久保地区、北永井地区、竹間沢地区で多く、特にみよし台地区では64.5%となっている。上富地区では「生まれた時から住んでいる」(35.6%)が特に多くなっている。この他、「結婚で転入」は、上富地区(26.4%)と竹間沢地区(21.5%)で2割台と比較的が多くなっている(図1-3)。

(2) 住みやすさ

◇ 《住みやすい》が83.6%

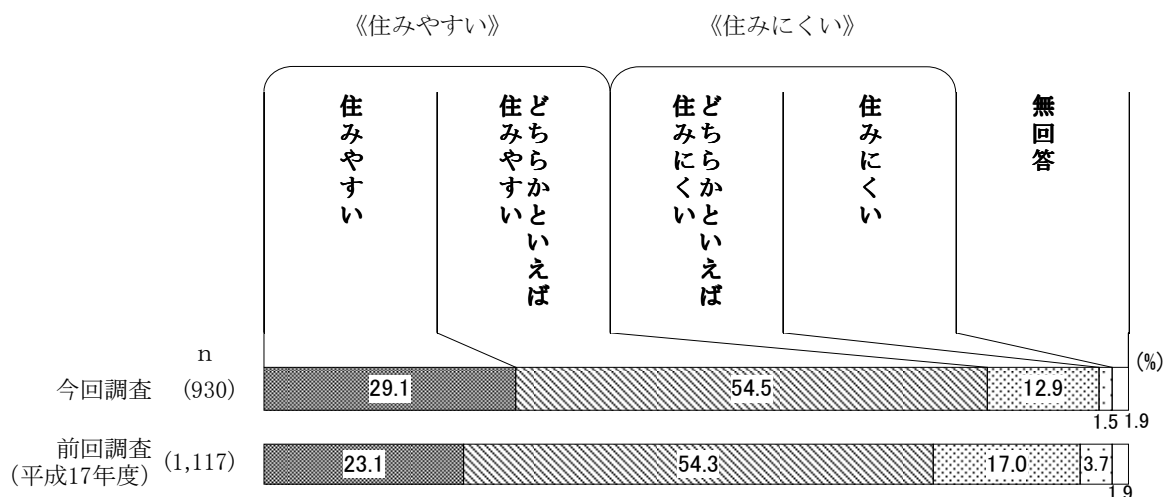
問3 あなたは、現在の三芳町の住みやすさについてどのように感じていますか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

図1-4



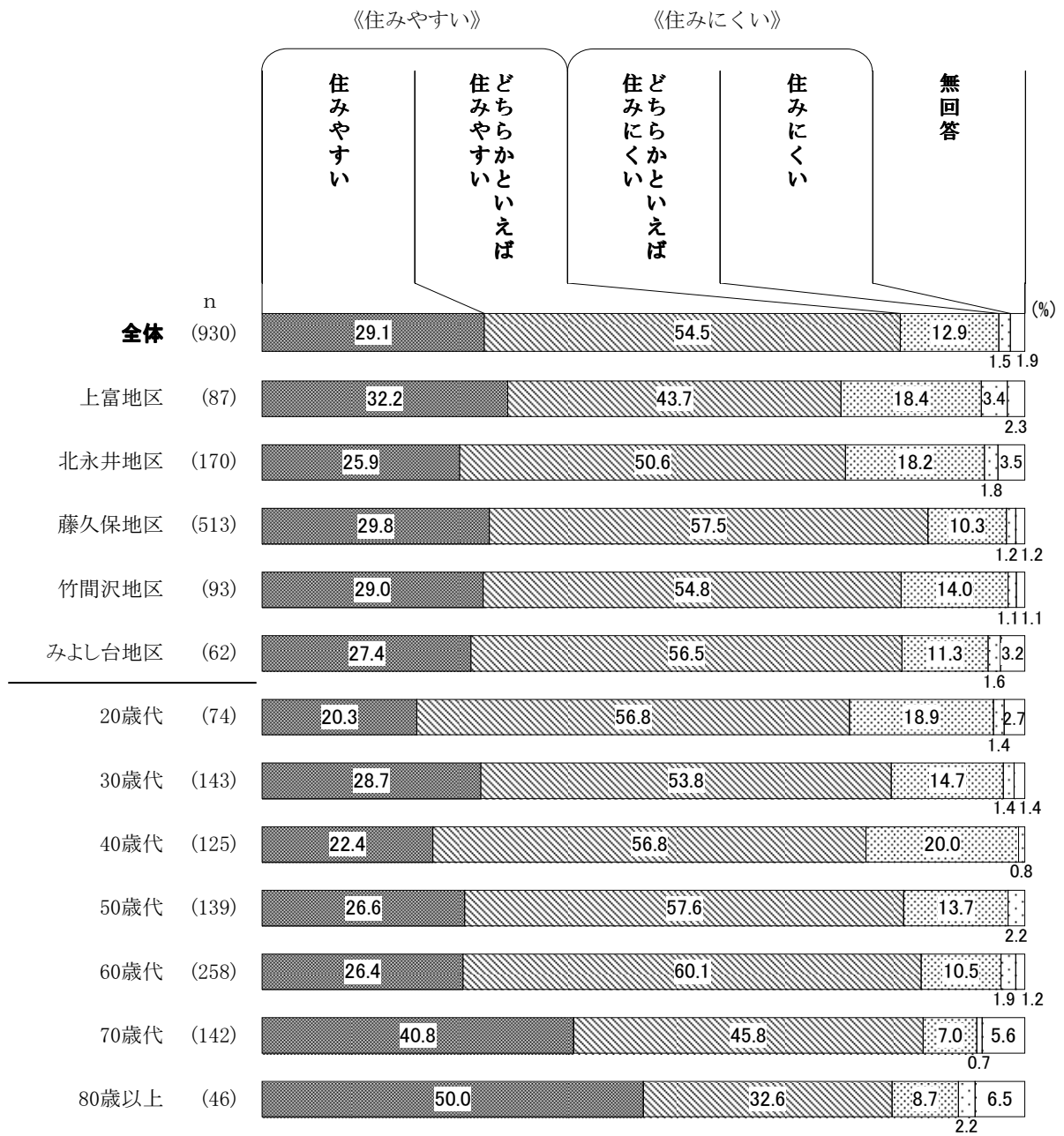
三芳町の住みやすさは、「住みやすい」(29.1%)と「どちらかといえば住みやすい」(54.5%)をあわせた《住みやすい》が83.6%となっている。また、《住みにくい》(「住みにくい」+「どちらかといえば住みにくい」)は14.4%となっている(図1-4)。

図1-5 経年比較 住みやすさ



前回調査(平成17年度)と比較すると、《住みやすい》(83.6%)が前回77.4%から6ポイント増加し、《住みにくい》(14.4%)は前回20.7%から6ポイント減少している(図1-5)。

図1-6 地区別、年代別 住みやすさ



地区別にみると、《住みやすい》は、藤久保地区、みよし台地区、竹間沢地区で8割台、北永井地区、上富地区では7割台となっている。

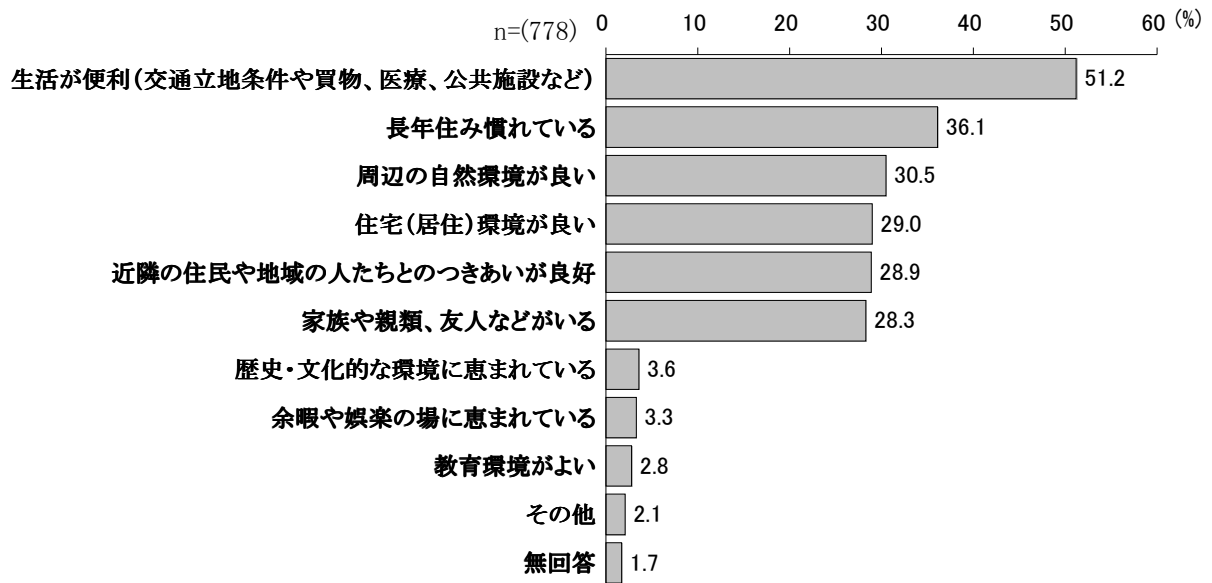
年代別にみると、《住みやすい》は、30歳代と50歳代以上で8割台、20歳代と40歳代では7割台となっている（図1-6）。

(3) 住みやすいと感じる理由

◇「生活が便利（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」が51.2%で最も多い

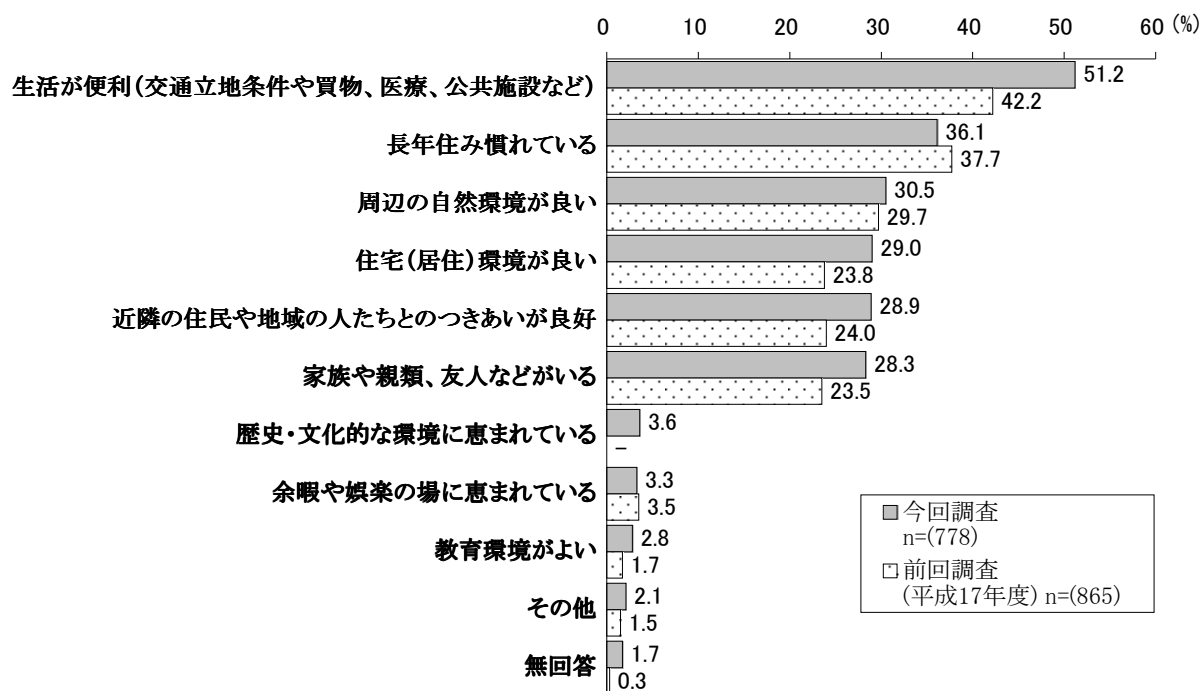
問3-① 前問（問3）で、「住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」に回答された方にお聞きします。三芳町が《住みやすい》と感じるのはどのような点でしょうか。次の中から選んで、番号に○をつけてください。（複数回答可）

図1-7



問3で《住みやすい》と回答した人の理由は、「生活が便利（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」が51.2%で最も多い。以下、「長年住み慣れている」が36.1%、「周辺の自然環境が良い」（30.5%）、「住宅（居住）環境が良い」（29.0%）、「近隣の住民や地域の人たちとのつきあいが良好」（28.9%）、「家族や親類、友人などがある」（28.3%）が3割前後で続いている（図1-7）。

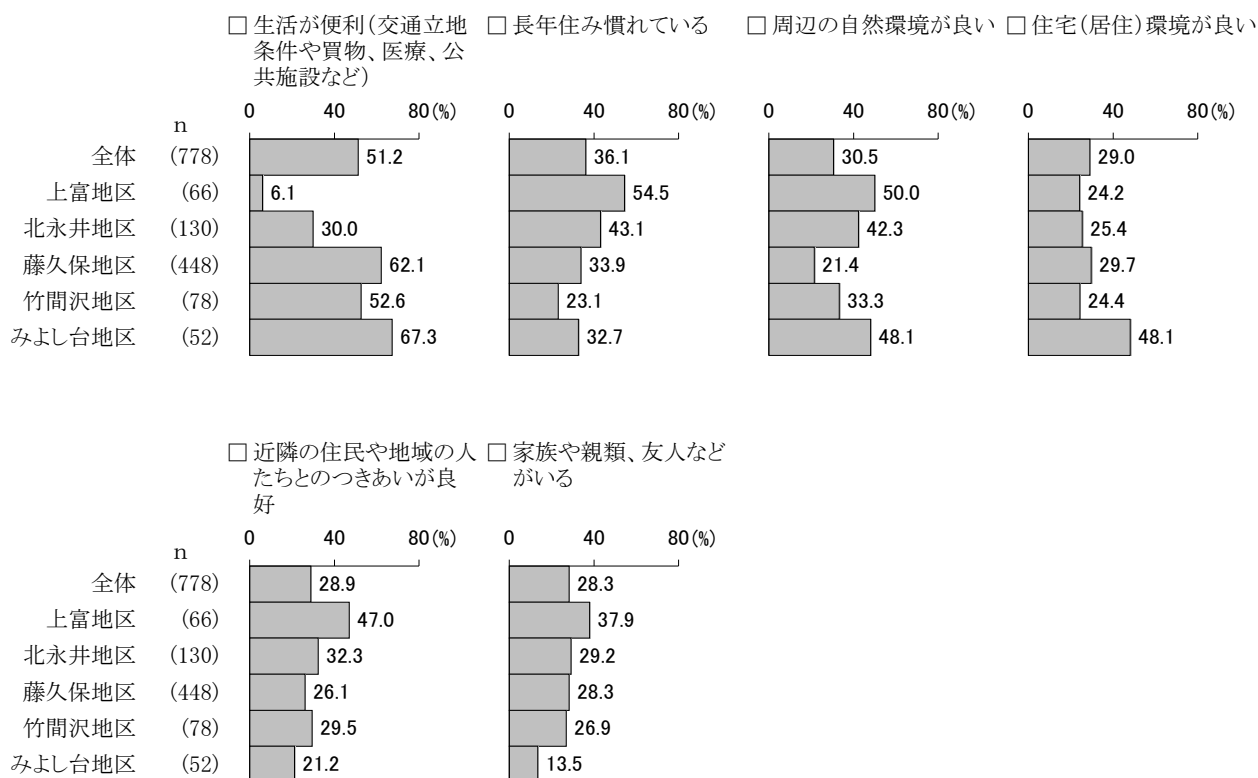
図1-8 経年比較 住みやすいと感じる理由



※「歴史・文化的な環境に恵まれている」は今回調査から

前回調査（平成17年度）と比較すると、上位項目の多くで前回より割合が増加しており、特に「生活が便利（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」（51.2%）は、前回42.2%から9ポイント増加している（図1-8）。

図1-9 地区別 住みやすいと感じる理由（上位6項目）



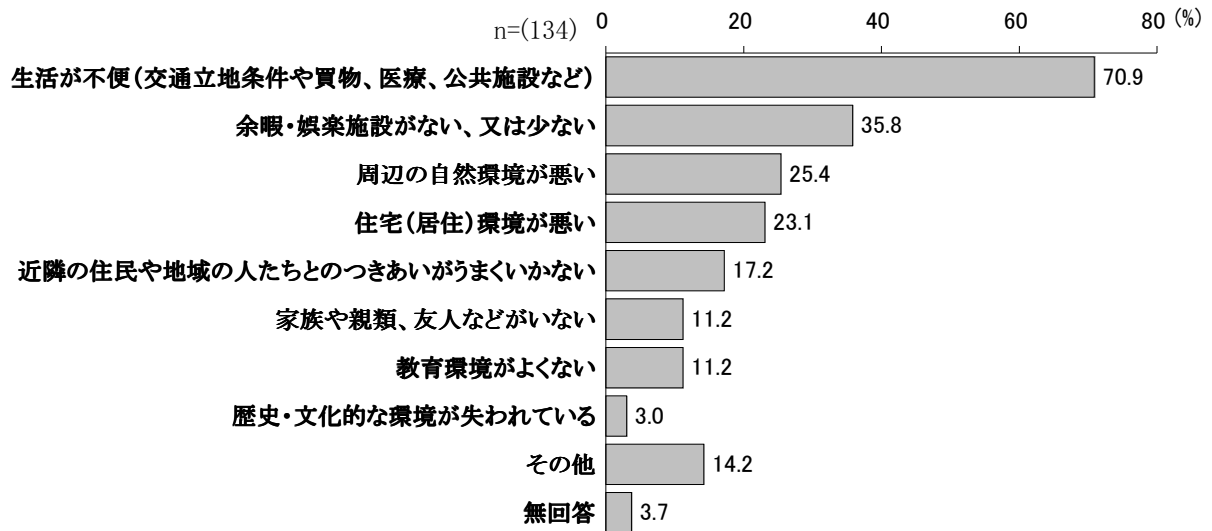
地区別にみると、「生活が便利（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」は、みよし台地区（67.3%）、藤久保地区（62.1%）で6割台と多くなっているが、北永井地区では30.0%、上富地区では6.1%と特に少なくなっており、地区によってばらつきがみられる。上富地区では、「長年住み慣れている」（54.5%）、「周辺の自然環境が良い」（50.0%）、「近隣の住民や地域の人たちとのつきあいが良好」（47.0%）、「家族や親類、友人などがいる」（37.9%）で他の地区より割合が多く、地域への愛着が大きな理由となっている。また、みよし台地区では、「住宅（居住）環境が良い」（48.1%）が他に比べて特に多くなっている（図1-9）。

(4) 住みにくいと感ずる理由

◇「生活が不便（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」が70.9%で最も多い

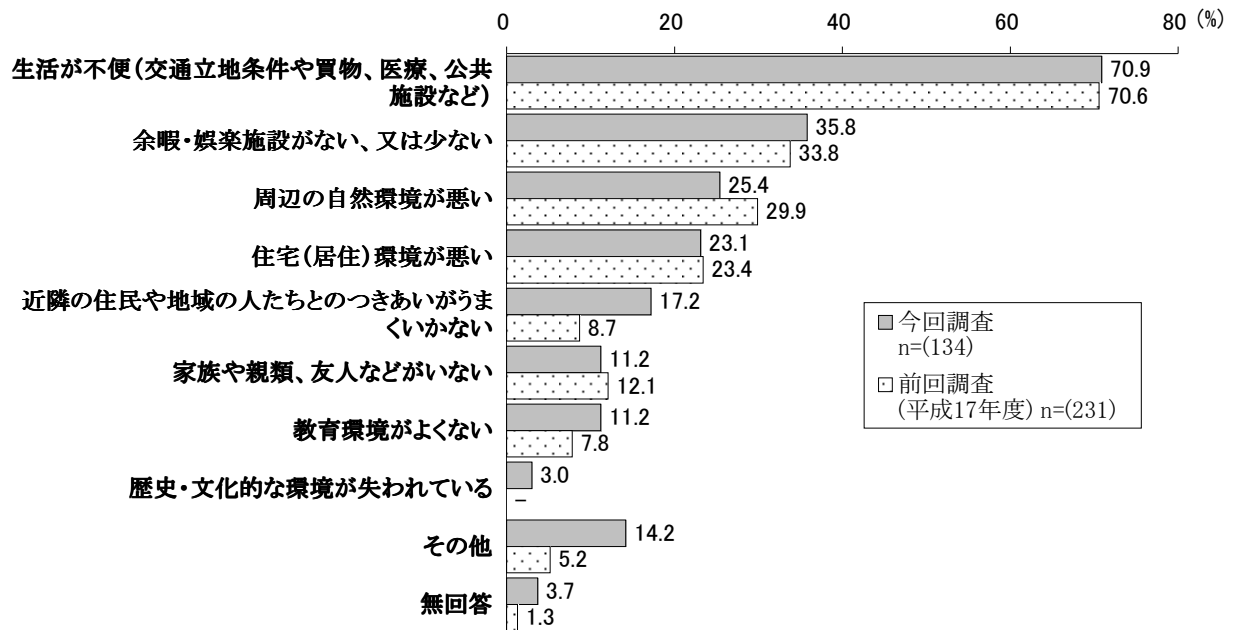
問3-② 前問（問3）で、「どちらかといえば住みにくい」または「住みにくい」に回答された方にお聞きします。三芳町が「住みにくい」と感ずるのはどのような点でしょうか。次の中から選んで、番号に○をつけてください。（複数回答可）

図1-10



問3で《住みにくい》と回答した人の理由は、「生活が不便（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」が70.9%で最も多くあげられている。以下、「余暇・娯楽施設がない、又は少ない」（35.8%）、「周辺の自然環境が悪い」（25.4%）、「住宅（居住）環境が悪い」（23.1%）などが続いている（図1-10）。

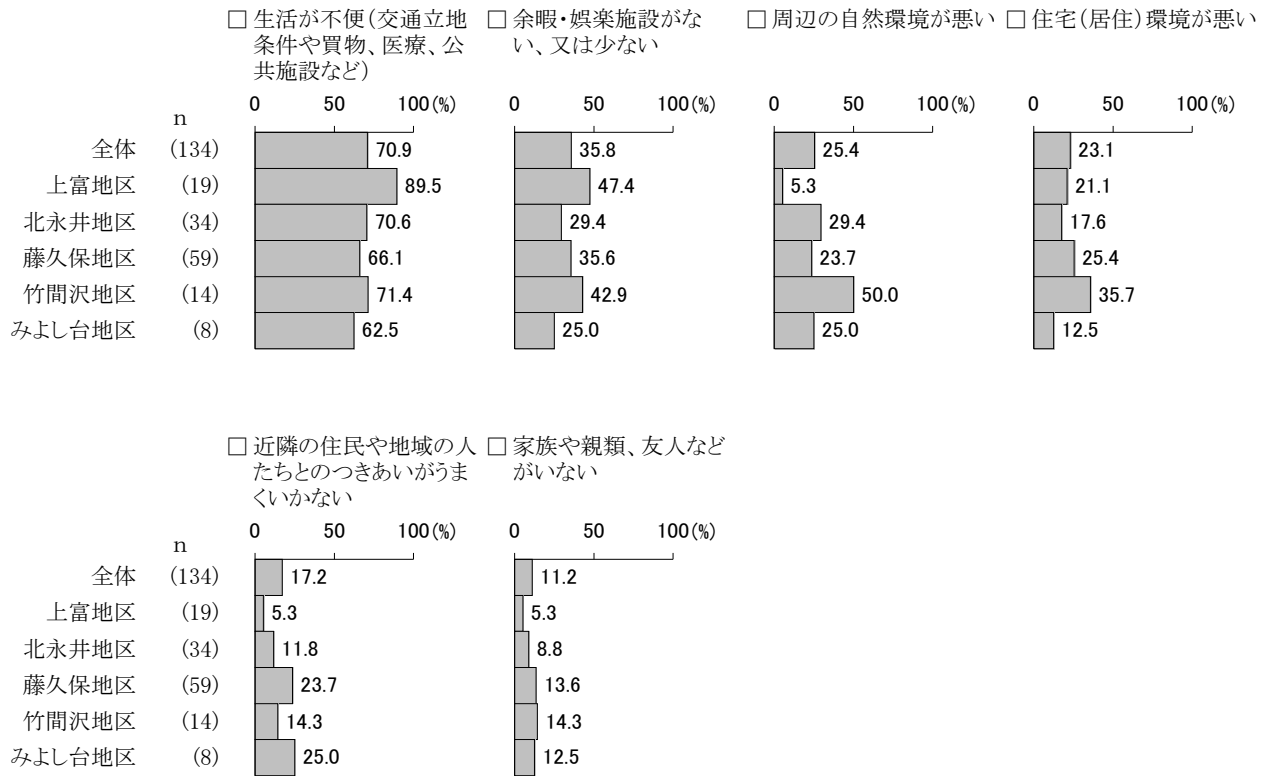
図 1-11 経年比較 住みにくいと感ずる理由



※「歴史・文化的な環境が失われている」は今回調査から
 「余暇・娯楽施設がない、又は少ない」は前回調査では「余暇・娯楽施設がない」

前回調査（平成17年度）と比較すると、「生活が不便」は前回同様最も多くあげられている。「周辺の自然環境が悪い」はやや減少し、「近隣の住民や地域の人たちとのつきあいがうまくいかない」（17.2%）が前回8.7%から9ポイント増加している（図1-11）。

図1-12 地区別 住みにくと感じる理由（上位6項目）



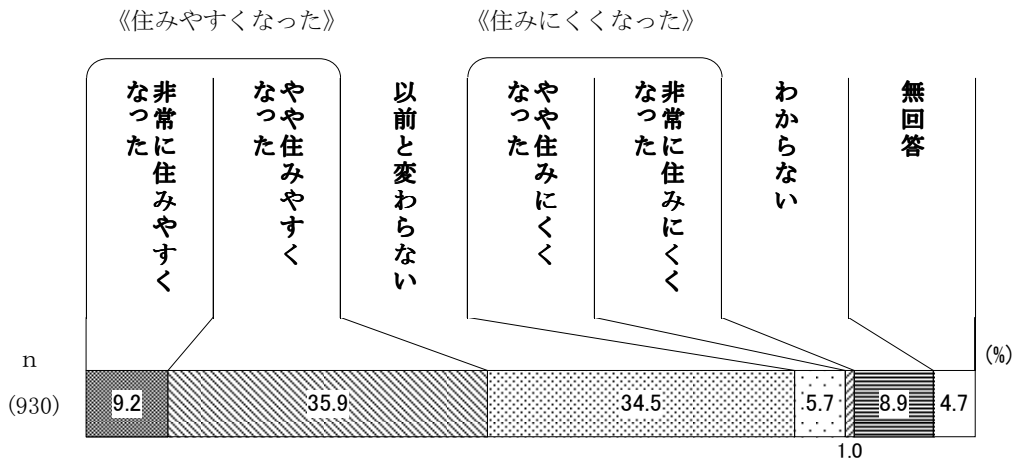
地区別にみると、「生活が不便（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」はいずれの地区でも6割以上で最も多く、特に上富地区では89.5%と多くなっている。「余暇・娯楽施設がない、又は少ない」は、上富地区（47.4%）と竹間沢地区（42.9%）で4割台と多くなっている。また、竹間沢地区では「周辺の自然環境が悪い」（50.0%）と「住宅（居住）環境が悪い」（35.7%）の環境に関する項目が比較的多くあげられている（図1-12）。

(5) 以前と比べた三芳町の住みやすさ

◇ 《住みやすくなった》が45.1%

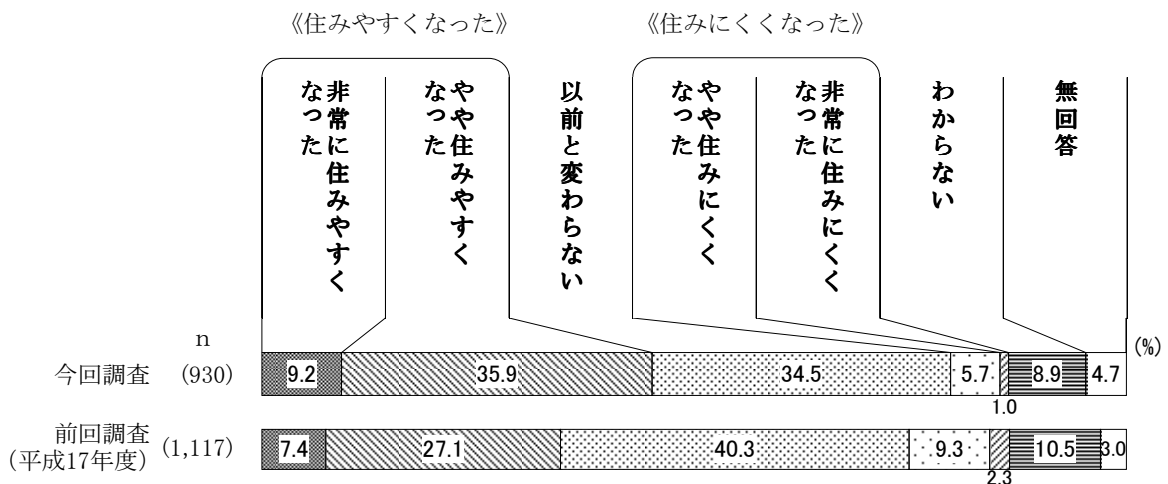
問4 以前と比べて、あなたにとって三芳町は住みやすくなりましたか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

図1-13



以前と比べて三芳町は「非常に住みやすくなった」が9.2%、「やや住みやすくなった」が35.9%で、これをあわせた《住みやすくなった》は45.1%となっている。《住みにくくなった》（「非常に住みにくくなった」+「やや住みにくくなった」）は6.7%と少ない（図1-13）。

図1-14 経年比較 以前と比べた三芳町の住みやすさ



前回調査（平成17年度）と比較すると、《住みやすくなった》（45.1%）は前回34.5%から11ポイント増加している（図1-14）。

問4-① 以前と比べて、三芳町が住みやすくなったと感じる点、住みにくくなったと感じる点について、あなたのお考えをご記入ください。

【住みやすくなったと感じる点】－5件以上の回答を抽出掲載

・道路が整備された	171
・スーパー、大型店舗が開店した	111
・店舗が増えた、買物が便利になった	67
・交通の便、首都圏へのアクセスが向上した	43
・公共施設が充実した	23
・医療機関が充実した	19
・緑が多く、自然が残っている	18
・生活環境が整備されてきた	15
・住民間のコミュニケーションがよくなった	13
・ライフバスが便利になった	12
・コンビニエンスストアができた	11
・下（上）水道が整備された	10
・体育施設が充実した	10
・三芳PAのETC等が便利になった	10
・文化施設が充実した	7
・住宅、建物が増えた、住民が増えた	6
・福祉が充実、高齢者を考慮している	6
・子ども医療費が充実している	6
・出張所があって役場まで行かなくても良い	5
・総合的に便利になった	5
・ゴミの回収状況がよくなった	5

【住みにくくなったと感じる点】－5件以上の回答を抽出掲載

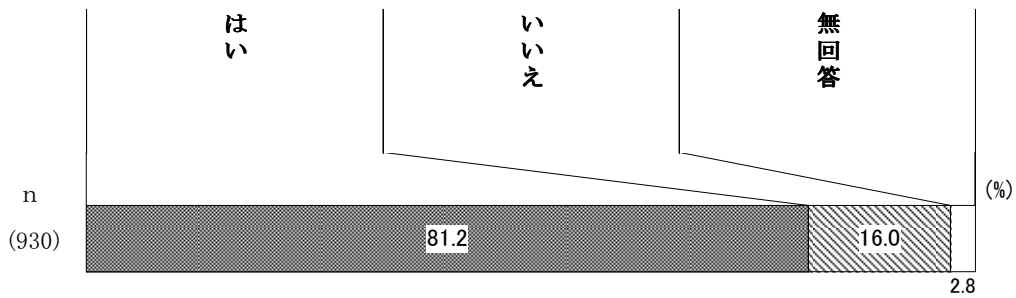
・交通量が増し、渋滞発生や事故等も多い／住宅街が抜け道代わりになっている	46
・緑（自然）が少なくなった	43
・交通機関が不便	31
・道路が狭いなど、整備が行き届いていない	26
・土埃がひどい	18
・住宅（人口）の急増による影響、環境悪化	18
・住民間のふれあいが減った、町のよさがなくなった	17
・歩道が整備されていない	13
・公園がない、子どもの遊び場がない	13
・ビル・マンション建設で環境悪化、日当たりが悪い	10
・治安が悪く、防犯面で不安	9
・店が少ない、買物不便	9
・住民マナーの低下	8
・公共・文化施設が充実していない、遠い	7
・医療機関が不足、遠い	7
・危険な道路の点検、標識、信号設置	6
・ゴミや空き缶の投げ捨て、放置が多くなった	6
・町会・自治会運営上の問題	6
・騒音が増した（車、工事、子供など）	5

(6) 定住意向

◇「はい（住み続けたい）」が81.2%

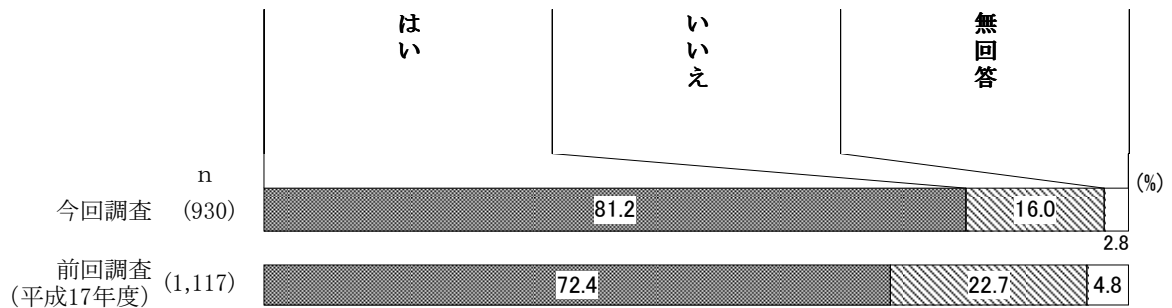
問5 あなたは、これからも三芳町に住み続けたいと思いますか。

図1-16



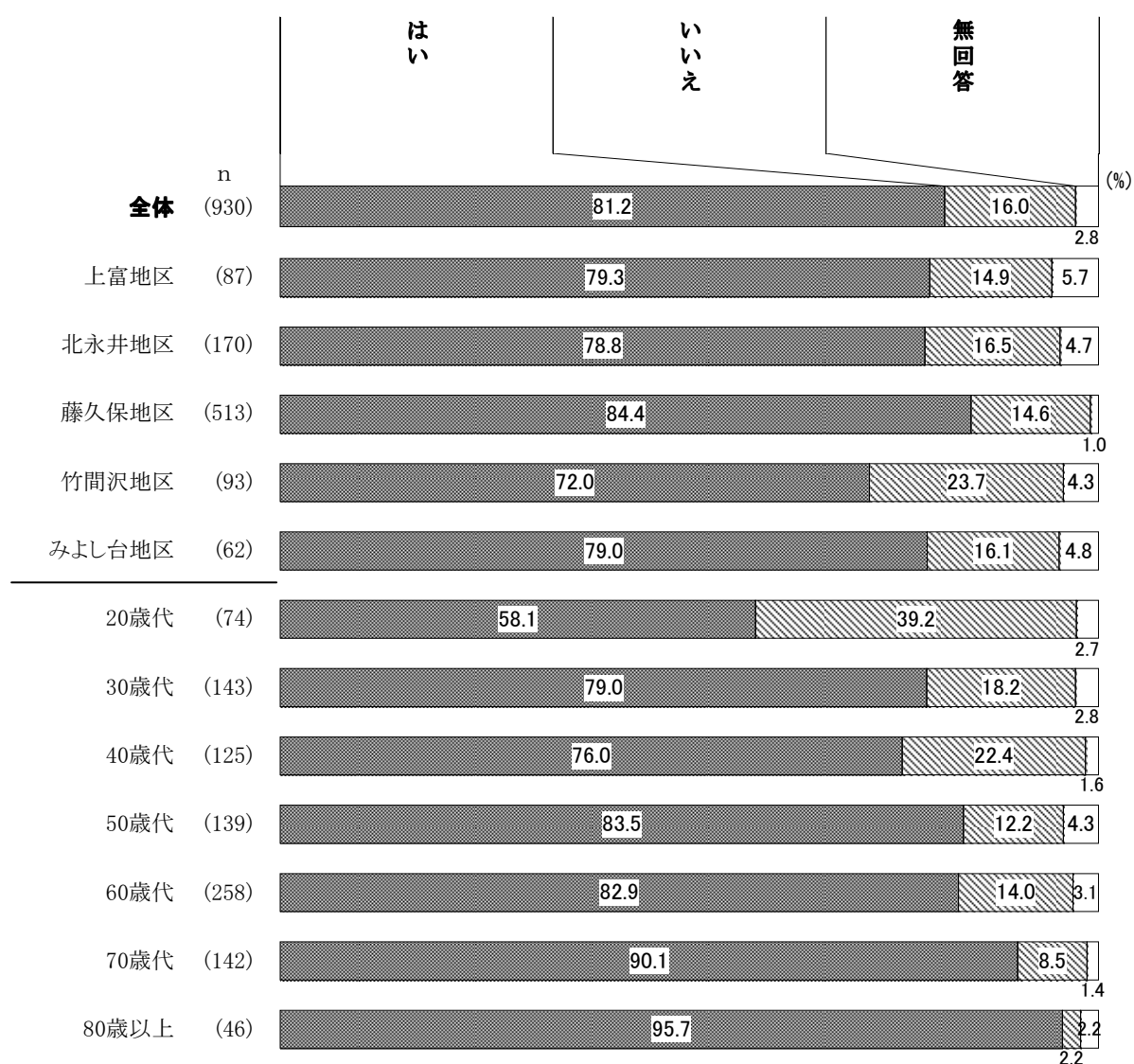
これからも三芳町に住み続けたいと思うかでは、「はい（住み続けたい）」（81.2%）が8割を超え、「いいえ（住み続けたくない）」（16.0%）を大きく上回っている（図1-16）。

図1-17 経年比較 定住意向



前回調査（平成17年度）と比較すると、「はい（住み続けたい）」（81.2%）は前回72.4%から9ポイント増加している（図1-17）。

図 1-18 地区別、年代別 定住意向



地区別にみると、「はい（住み続けたい）」は、特に藤久保地区で84.4%と多くなっている。他の地区でも8割近い地区が多いが、竹間沢地区では72.0%と比較的少ない。

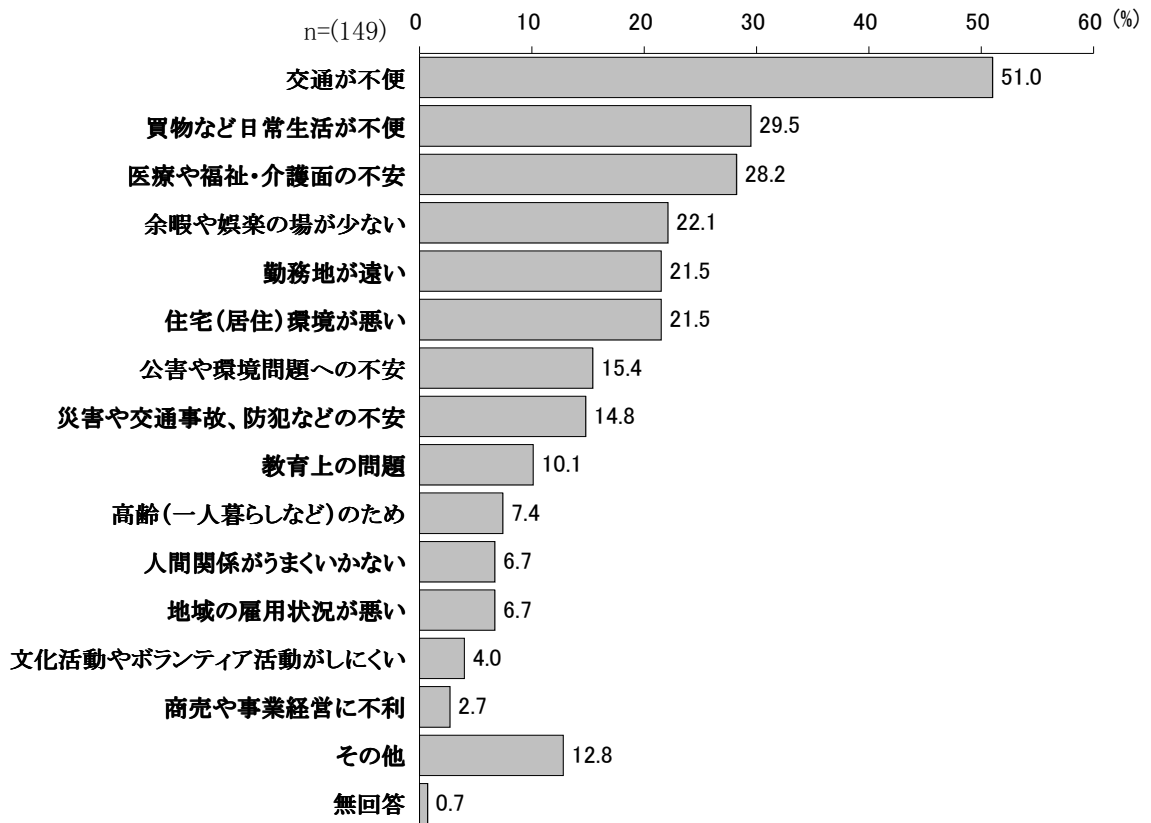
年代別にみると、「はい（住み続けたい）」は、30歳代以上は大半を占め、50歳代以上は8割を超えている。一方、20歳代では「はい（住み続けたい）」が58.1%にとどまり、「いいえ（住み続けたくない）」が4割を占める。また、40歳代でも「いいえ（住み続けたくない）」が2割台となっている（図1-18）。

(7) 住み続けたくない理由

◇「交通が不便」が51.0%で最も多い

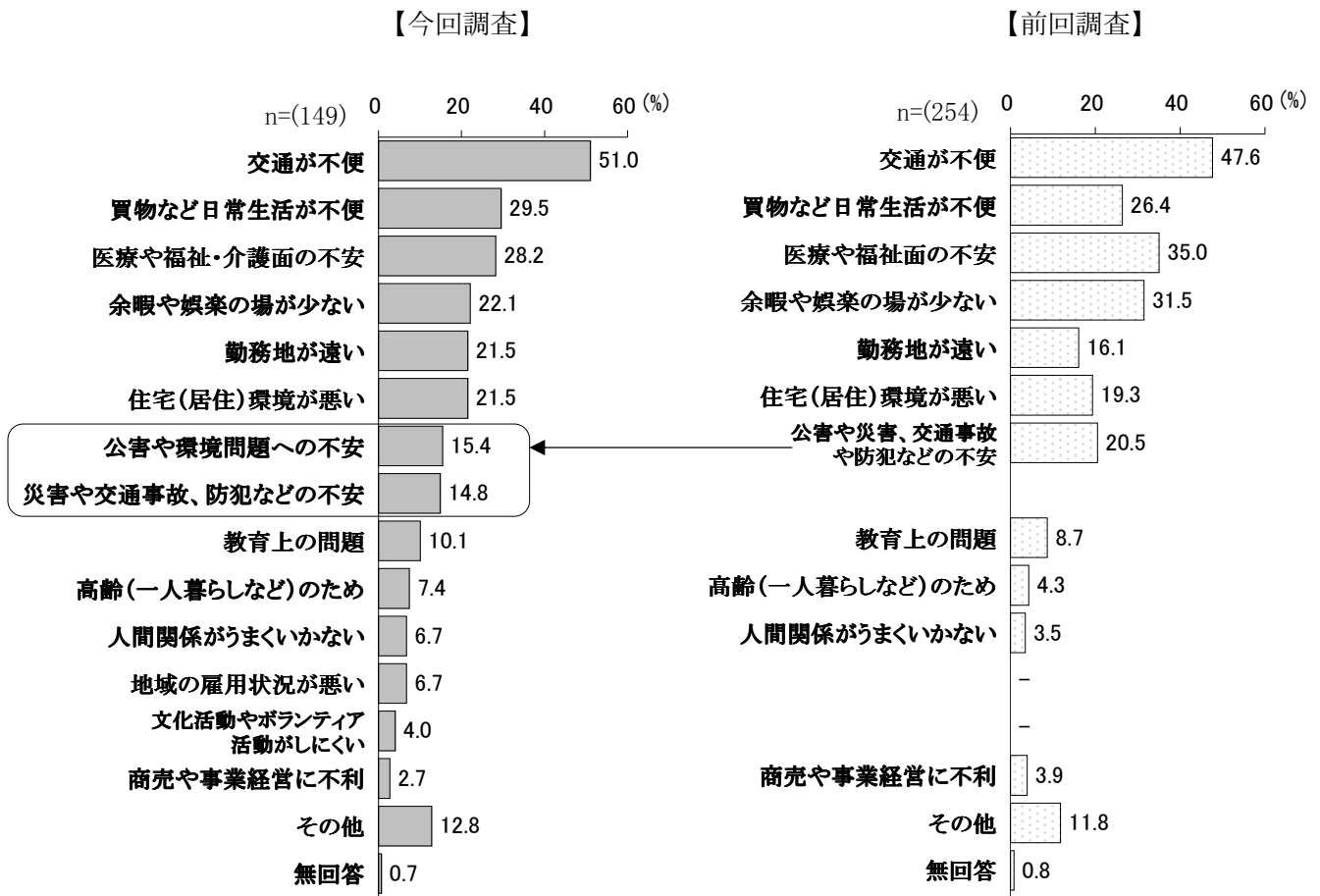
問5-① 前問（問5）で、「いいえ」と回答された方にお聞きします。今の場所から移りたいと思う主な理由はどのようなことでしょうか。次の中から選んで、番号に○をつけてください。（複数回答可）

図1-19



問5で「いいえ（住み続けたくない）」と回答した人の理由は、「交通が不便」が51.0%で最も多い。以下、「買物など日常生活が不便」（29.5%）と「医療や福祉・介護面の不安」（28.2%）が3割弱、「余暇や娯楽の場が少ない」（22.1%）、「勤務地が遠い」、「住宅（居住）環境が悪い」（ともに21.5%）が2割程度で続いている（図1-19）。

図1-20 経年比較 住み続けたくない理由

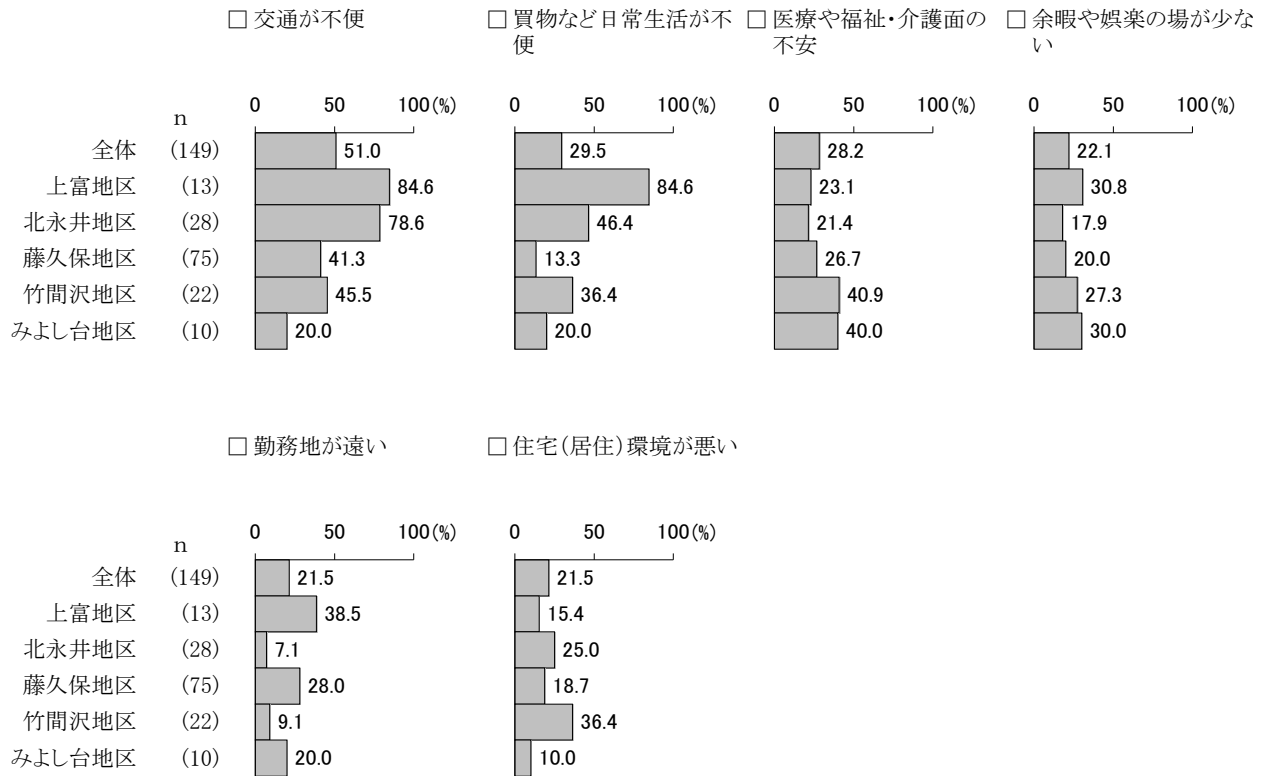


※「公害や環境問題への不安」および「災害や交通事故、防犯などの不安」は、前回調査では「公害や災害、交通事故や防犯などの不安」

「地域の雇用状況が悪い」、「文化活動やボランティア活動がしにくい」は今回調査から

前回調査（平成17年度）と比較すると、「交通が不便」が特に多く、「医療や福祉面の不安」、「余暇や娯楽の場が少ない」、「買物など日常生活が不便」が続く点は変わっていない。その中では、「余暇や娯楽の場が少ない」（22.1%）は前回31.5%から9ポイント、「医療や福祉面の不安」（28.2%）は前回（35.0%）から7ポイント減少している（図1-20）。

図 1-21 地区別 住み続けたくない理由（上位 6 項目）



地区別にみると、「交通が不便」と「買物など日常生活が不便」は上富地区と北永井地区で特に多く、上富地区はいずれも84.6%と特に多くなっており、利便性への不満が高い（図 1-21）。

2 町の現状についての満足度

(1) 町の現況に対する満足度

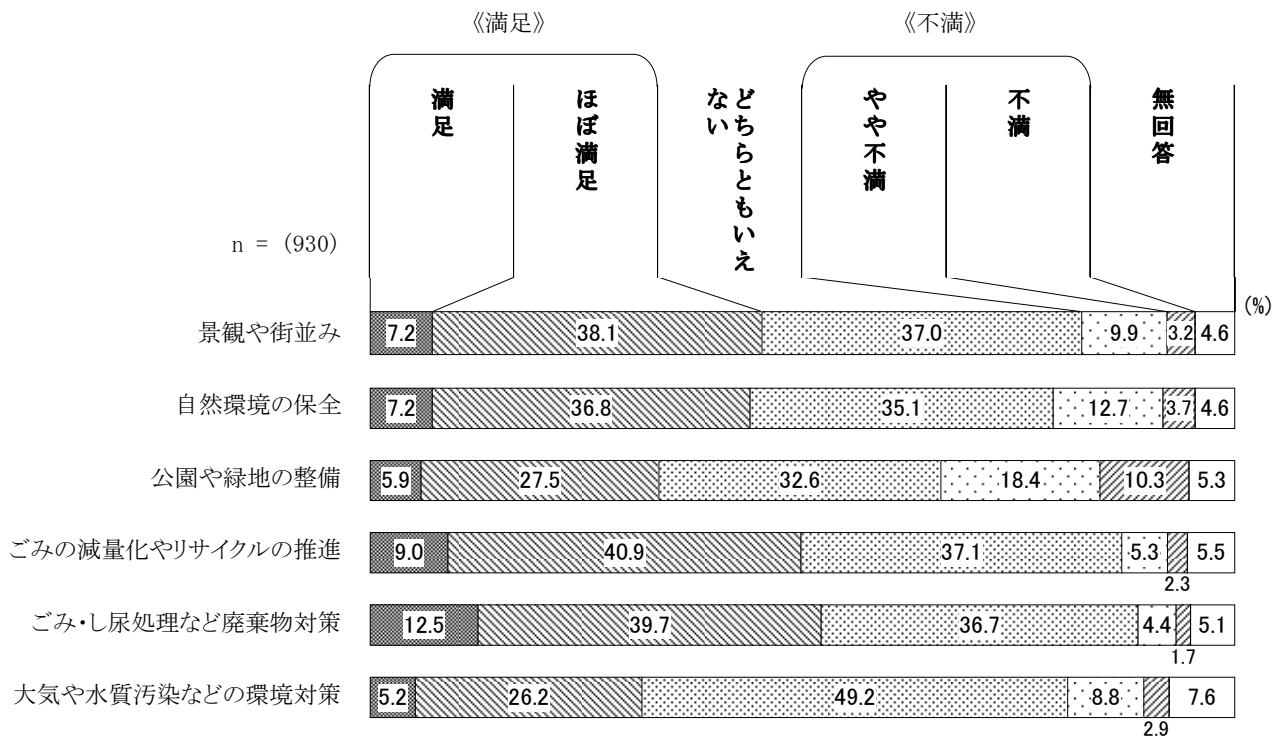
「環境」について

◇ “ごみ・し尿処理など廃棄物対策”で《満足》が52.2%

“公園や緑地の整備”で《不満》が28.7%

問6 あなたの住んでいる地域や三芳町の現況についてお聞きします。あなたは、日常生活を送るうえで、次の項目についてどの程度満足していますか。各項目の満足度について、それぞれ選んで、番号に○をつけてください。

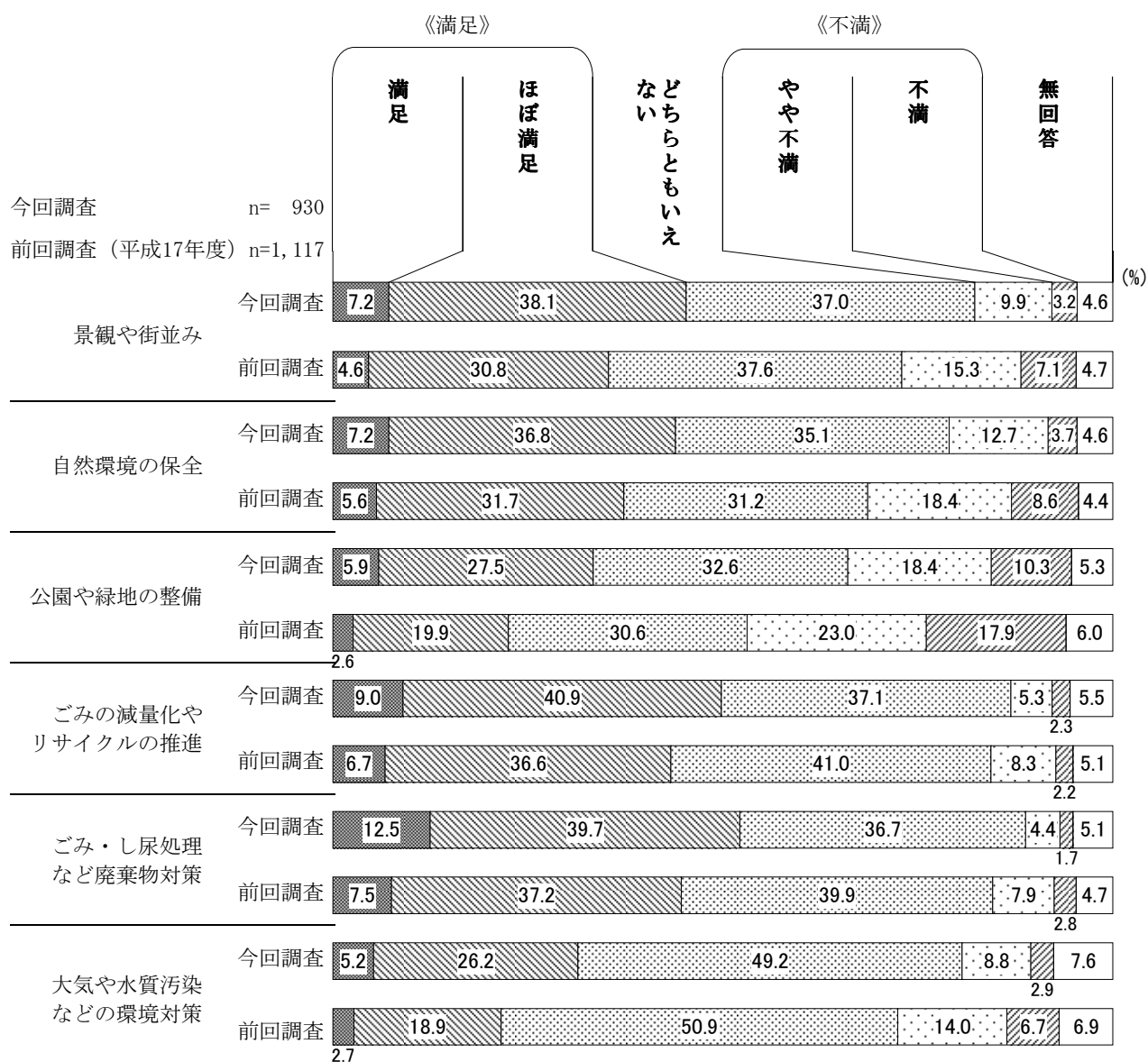
図2-1



環境の満足度をみると、《満足》（「満足」＋「ほぼ満足」）は、“ごみ・し尿処理など廃棄物対策”で52.2%と最も多く、“ごみの減量化やリサイクルの推進”（49.9%）、“景観や街並み”（45.3%）、“自然環境の保全”（44.0%）なども4割台となっている。

《不満》（「不満」＋「やや不満」）は1割程度のものが多いが、“公園や緑地の整備”は28.7%と比較的多くなっている（図2-1）。

図2-2 経年比較 町の現況に対する満足度「環境」



※「自然環境の保全」は、前回調査では「自然環境の保全と緑化」

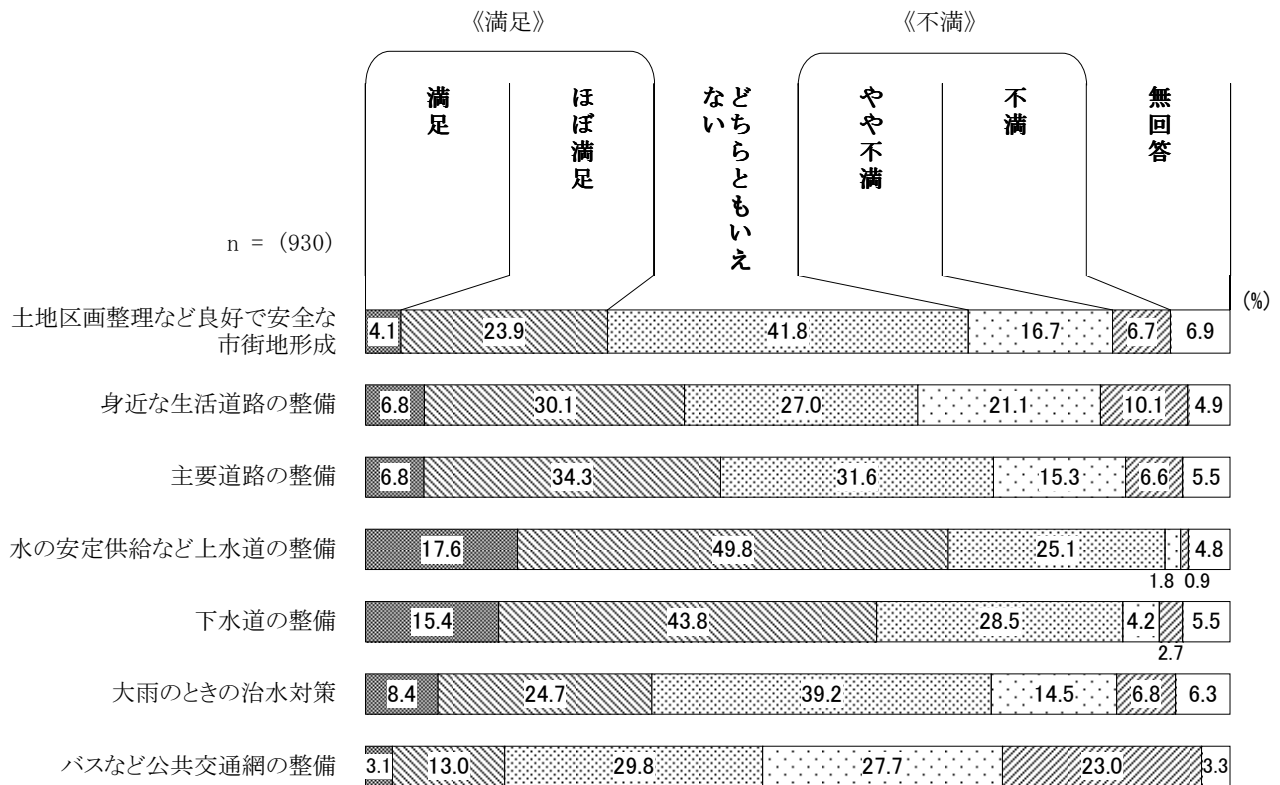
前回調査（平成17年度）と比較すると、《満足》はいずれの項目でも増加しており、“公園や緑地の整備”、“景観や街並み”、“大気や水質汚染などの環境対策”で10ポイント以上増加している。

《不満》は、いずれの項目でも減少しており、特に“公園や緑地の整備”、“自然環境の保全”、“大気や水質汚染などの環境対策”は9ポイント以上の減少となっている（図2-2）。

「都市整備」について

- ◇ “水の安定供給など上水道の整備”で《満足》が67.4%
- “バスなど公共交通網の整備”で《不満》が50.7%

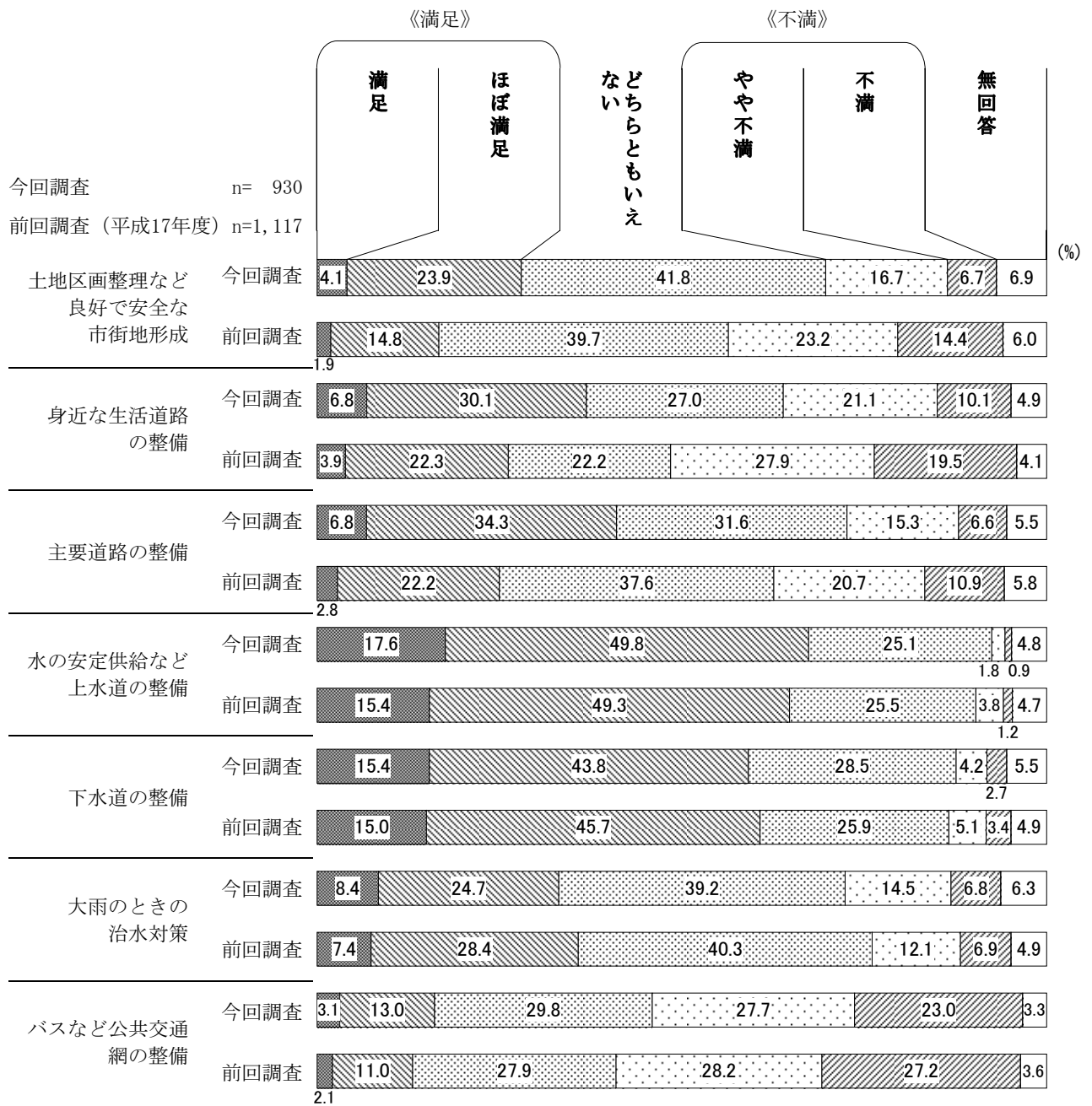
図 2 - 3



都市整備の満足度をみると、《満足》は“水の安定供給など上水道の整備”で67.4%と最も多く、“下水道の整備”で59.2%、“主要道路の整備”で41.1%となっている。

《不満》は、“バスなど公共交通網の整備”で50.7%と多く、唯一《満足》を上回っている（図 2 - 3）。

図2-4 経年比較 町の現況に対する満足度「都市整備」



※「主要道路の整備」は、前回調査では「幹線道路の整備」

前回調査（平成17年度）と比較すると、ほとんどの項目で満足は上昇しており、特に“主要道路の整備”（41.1%）で前回調査25.0%から16ポイント増加している。また、“土地区画整理など良好で安全な市街地形成”や“身近な生活道路の整備”でも11ポイント増加している。

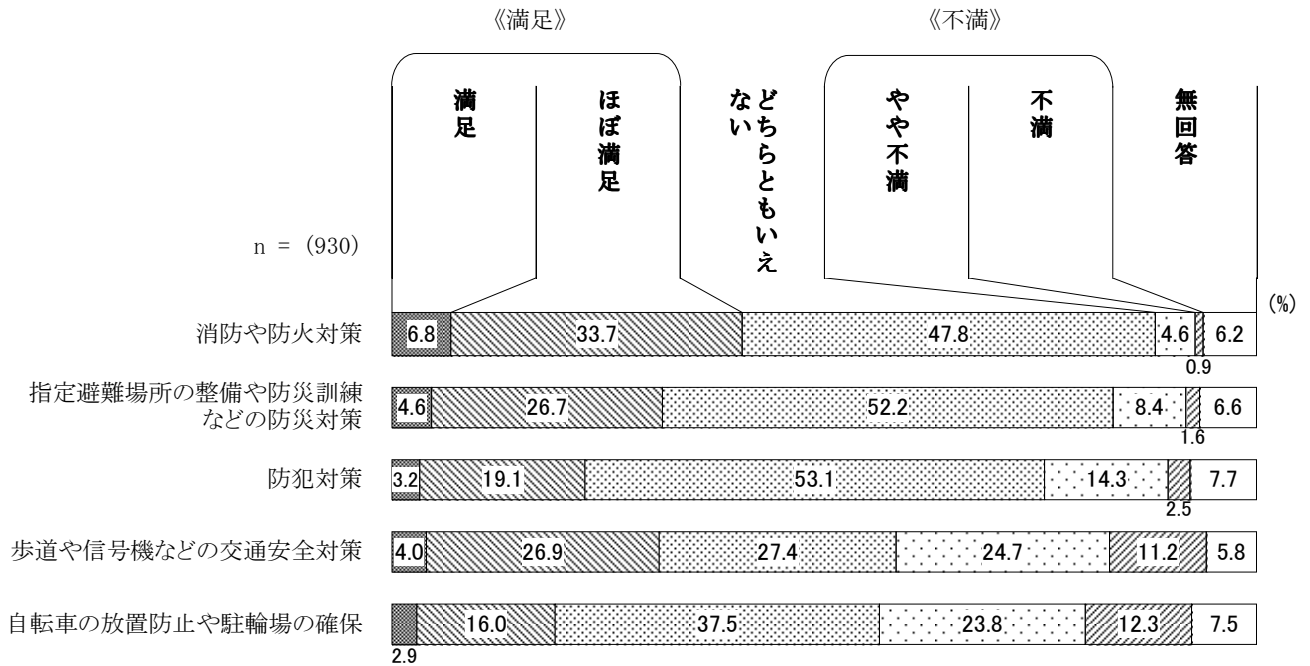
《不満》は、“身近な生活道路の整備”（31.2%）で前回調査47.4%から16ポイント、“土地区画整理など良好で安全な市街地形成”（23.4%）で前回調査37.6%から14ポイント、“主要道路の整備”（21.9%）で前回調査31.6%から10ポイント、それぞれ減少している（図2-4）。

「安全対策」について

◇ “消防や防火対策”で《満足》が40.5%

“自転車の放置防止や駐輪場の確保”、“歩道や信号機などの交通安全対策”で《不満》が3割台半ば

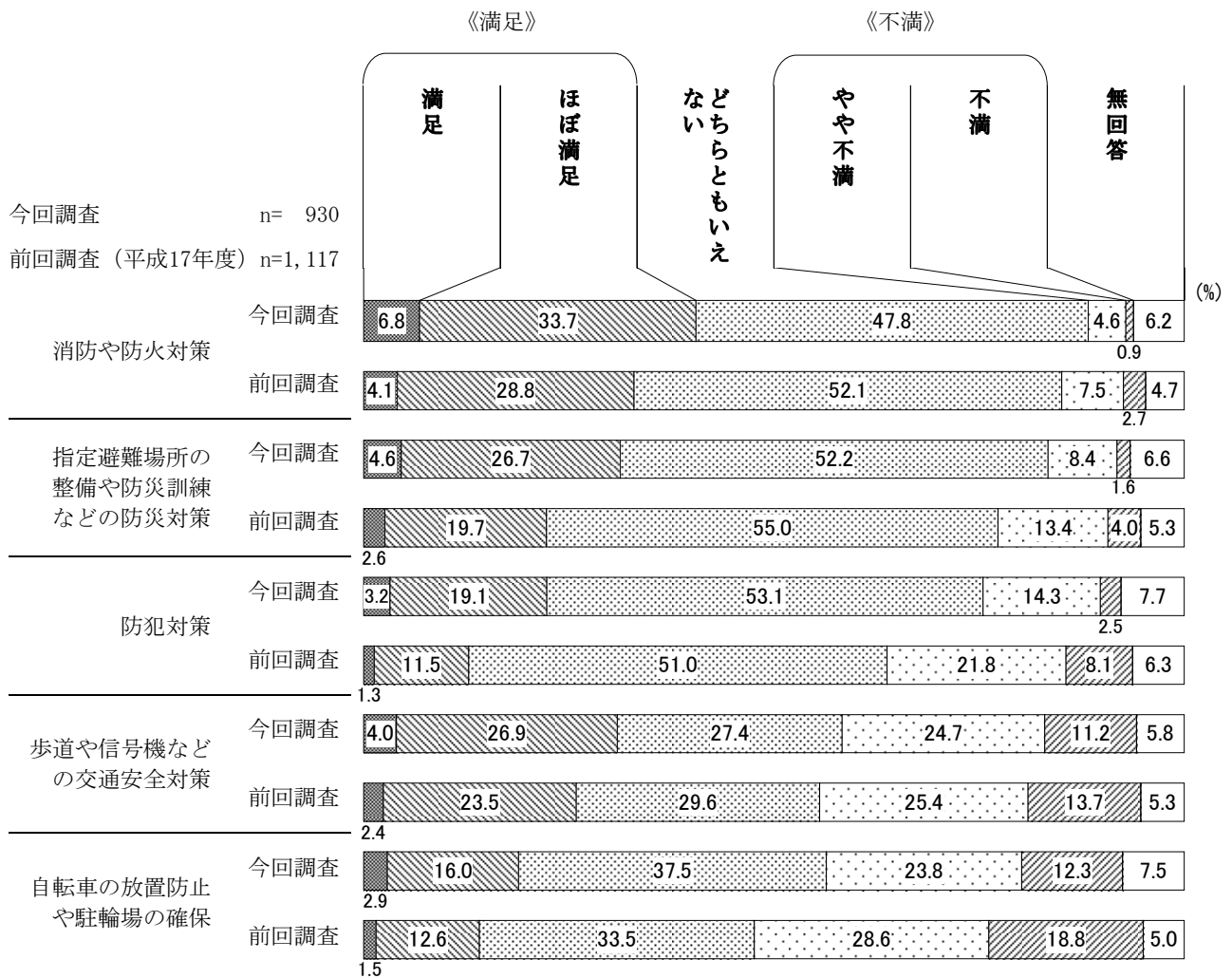
図 2 - 5



安全対策の満足度をみると、《満足》は“消防や防火対策”で40.5%と最も多くなっている。

《不満》は、“自転車の放置防止や駐輪場の確保”（36.1%）と“歩道や信号機などの交通安全対策”（35.9%）で3割台となり、《満足》を上回っている（図 2 - 5）。

図2-6 経年比較 町の現況に対する満足度「安全対策」



前回調査（平成17年度）と比較すると、《満足》はいずれの項目でも増加しており、特に“防犯対策”（22.3%）は前回12.8%から10ポイント増加している。

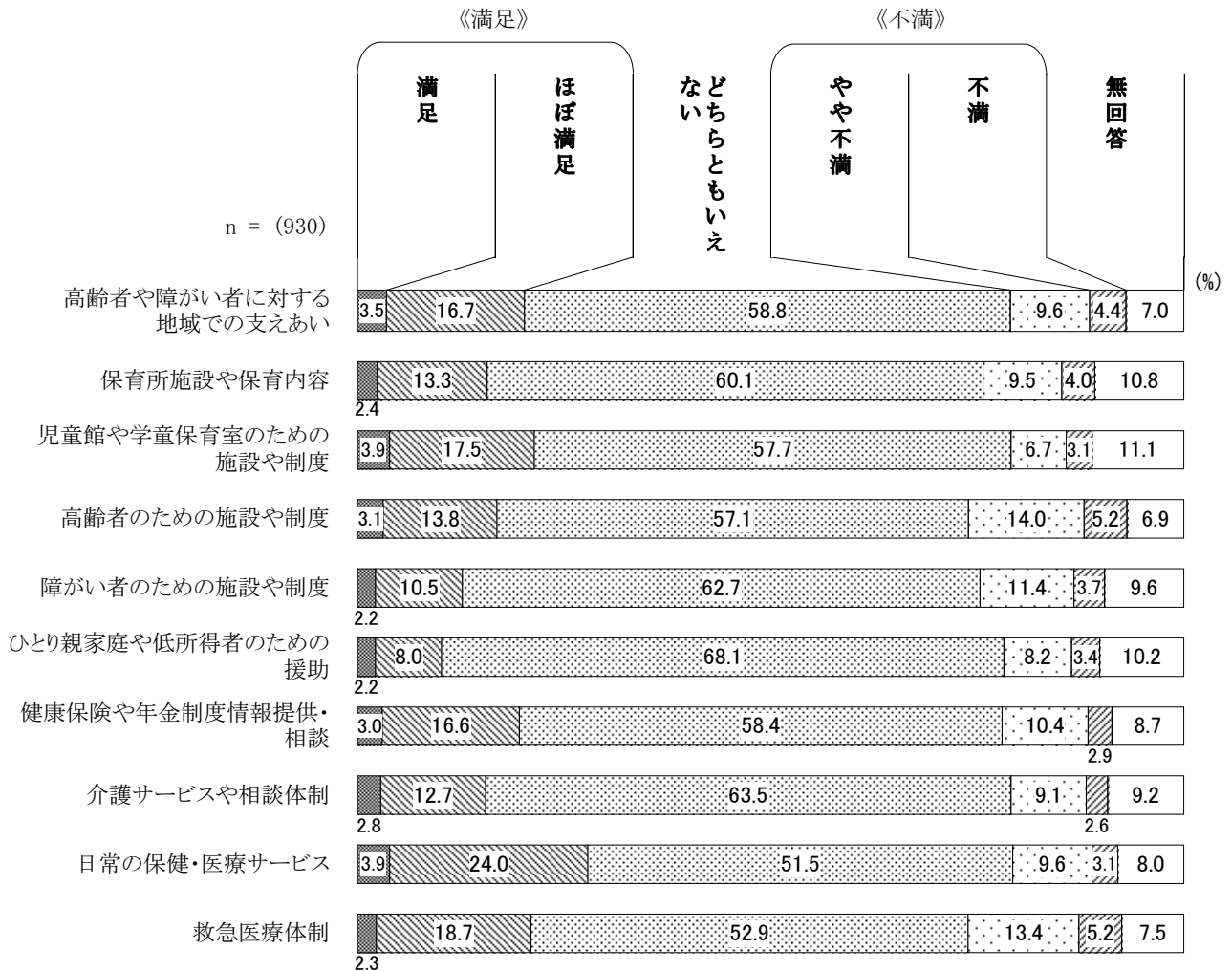
一方、《不満》はいずれの項目でも減少しており、特に“防犯対策”（16.8%）は前回29.9%から13ポイント、“自転車の放置防止や駐輪場の確保”（36.1%）は前回47.4%から11ポイント、それぞれ減少している（図2-6）。

「福祉」について

◇ “日常の保健・医療サービス”で《満足》が27.9%

“高齢者のための施設や制度”、“救急医療体制”で《不満》が2割弱

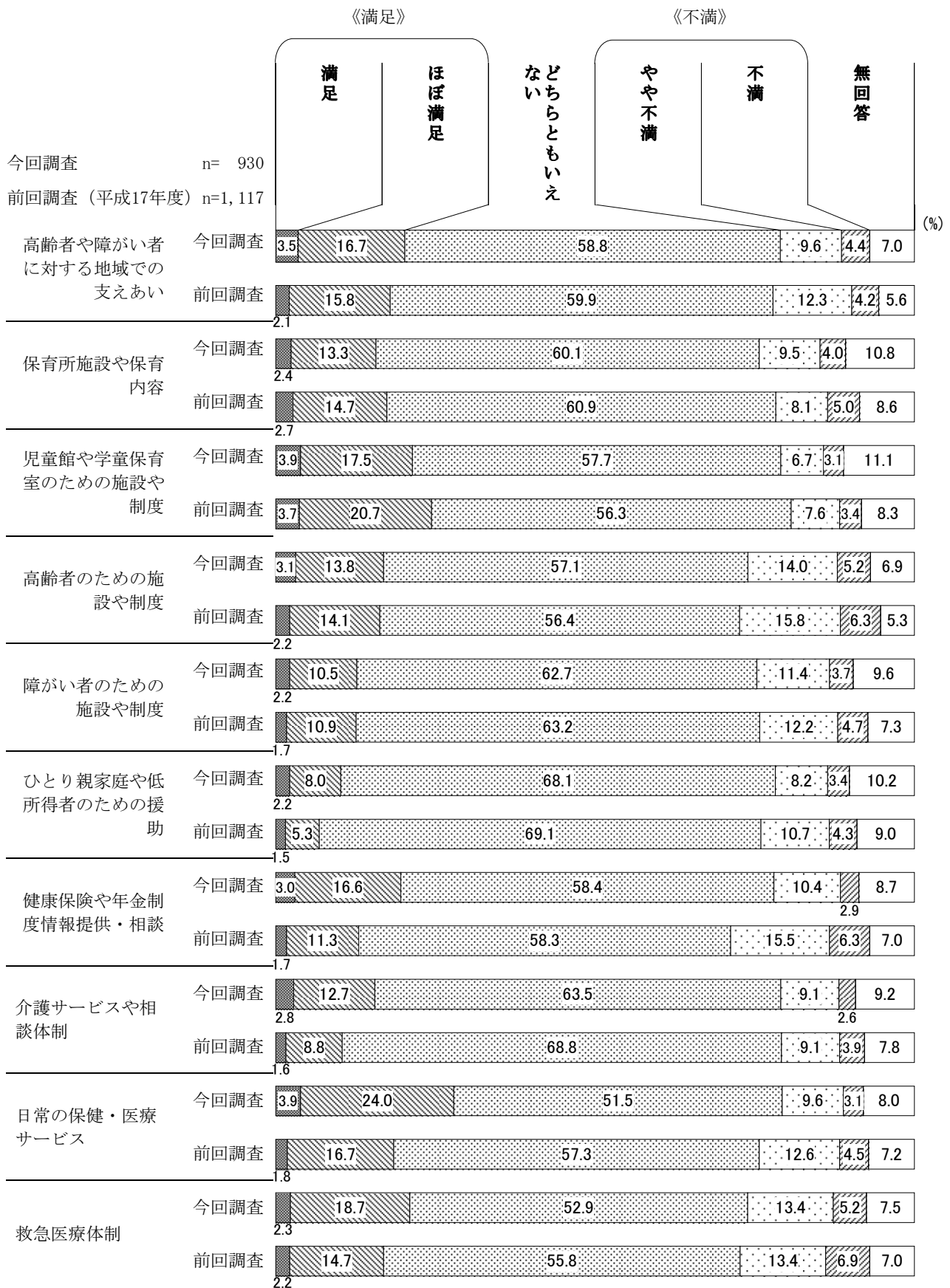
図 2-7



福祉の満足度をみると、《満足》は“日常の保健・医療サービス”で27.9%と最も多く、“児童館や学童保育室のための施設や制度”（21.4%）、“救急医療体制”（21.0%）、“高齢者や障がい者に対する地域での支えあい”（20.2%）、“健康保険や年金制度情報提供・相談”（19.6%）も2割前後となっている。

《不満》は、“高齢者のための施設や制度”（19.2%）、“救急医療体制”（18.6%）が2割弱となっている程度であり、「どちらともいえない」が多くなっている。他分野に比べ全般に《満足》が少ないが、一方で《不満》も少ない（図2-7）。

図2-8 経年比較 町の現況に対する満足度「福祉」



前回調査（平成17年度）と比較しても大きな違いはみられない。その中では、“日常の保健・医療サービス”（27.9%）は、前回18.5%から9ポイント増加している。

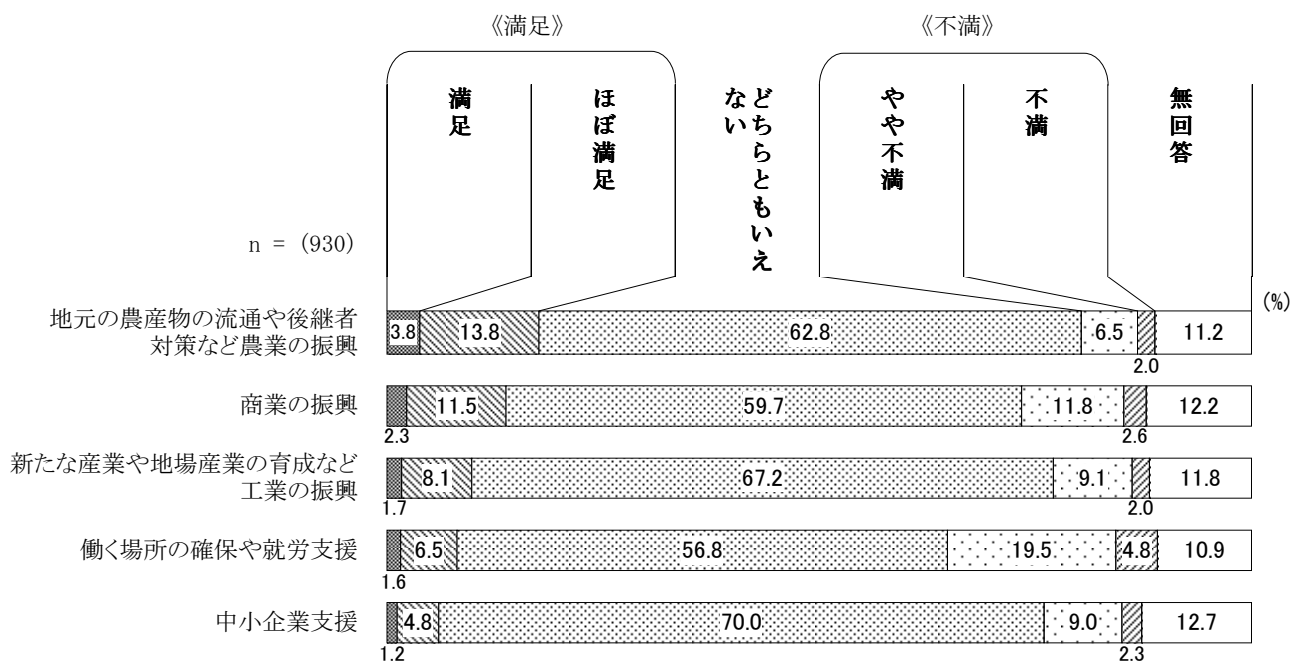
《不満》は、“健康保険や年金制度情報提供・相談”（13.3%）は、前回21.8%から9ポイント減少している（図2-8）。

「産業経済」について

◇ “地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興”で《満足》が17.6%

“働く場所の確保や就労支援”で《不満》が24.3%

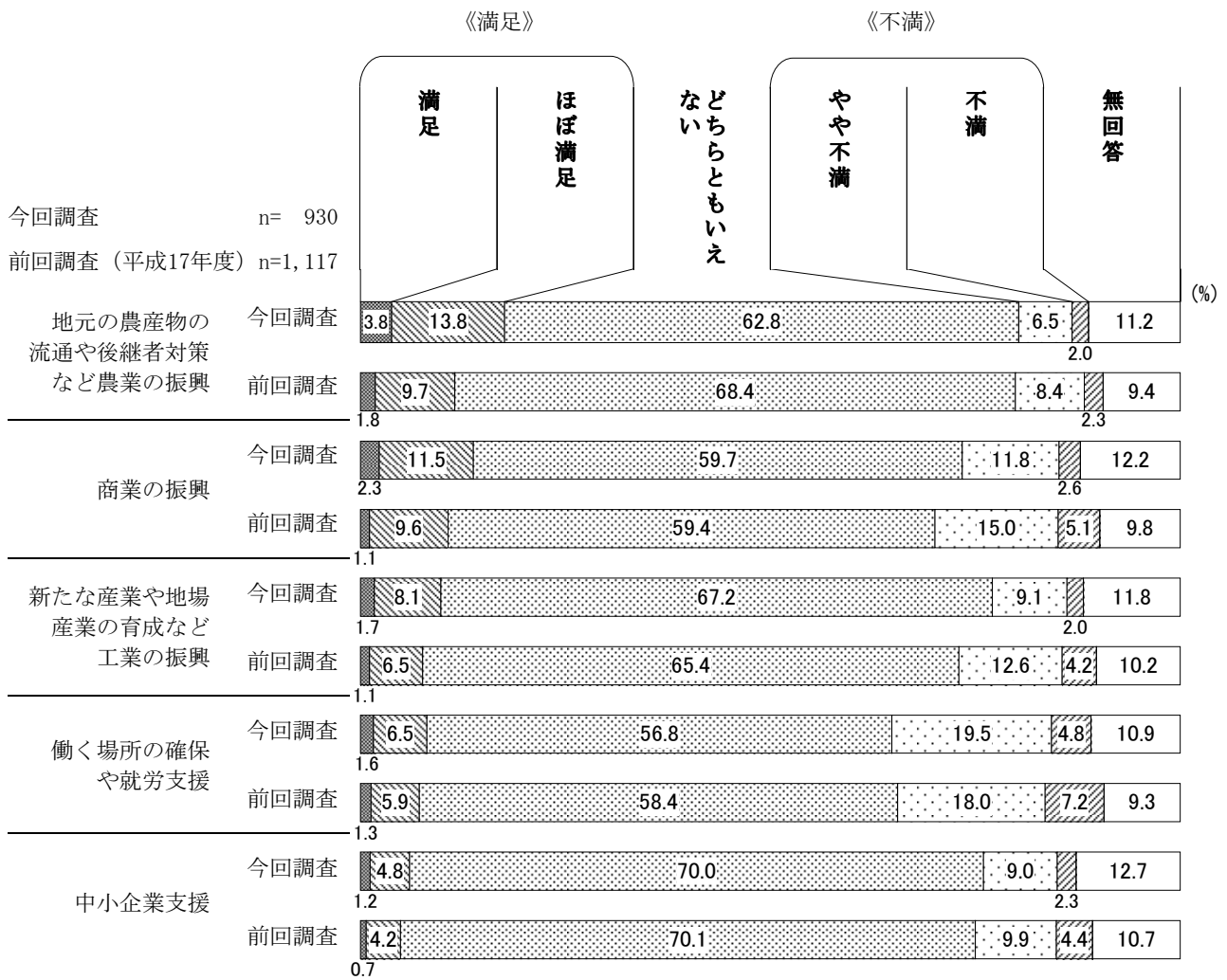
図2-9



産業経済の満足度をみると、《満足》は“地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興”が17.6%で最も多く、他の分野と比較して《満足》は少ない。

《不満》は、“働く場所の確保や就労支援”で24.3%と多いが、他の項目では1割程度となっている（図2-9）。

図2-10 経年比較 町の現況に対する満足度「産業経済」

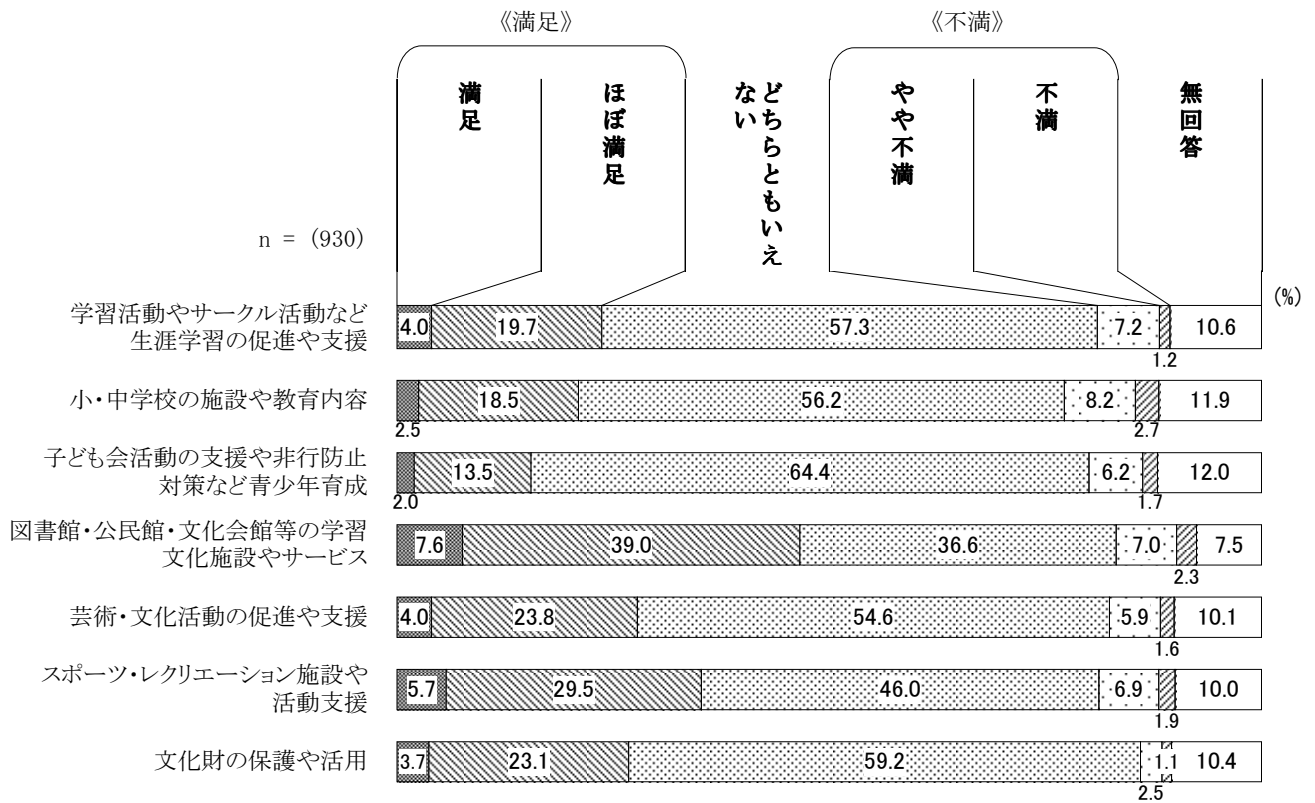


前回調査（平成17年度）と比較すると、「満足」はいずれの項目でも微増し、「不満」はいずれの項目でもやや減少している（図2-10）。

「教育・文化」について

- ◇ “図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス” で《満足》が46.6%
 “小・中学校の施設や教育内容” で《不満》が10.9%

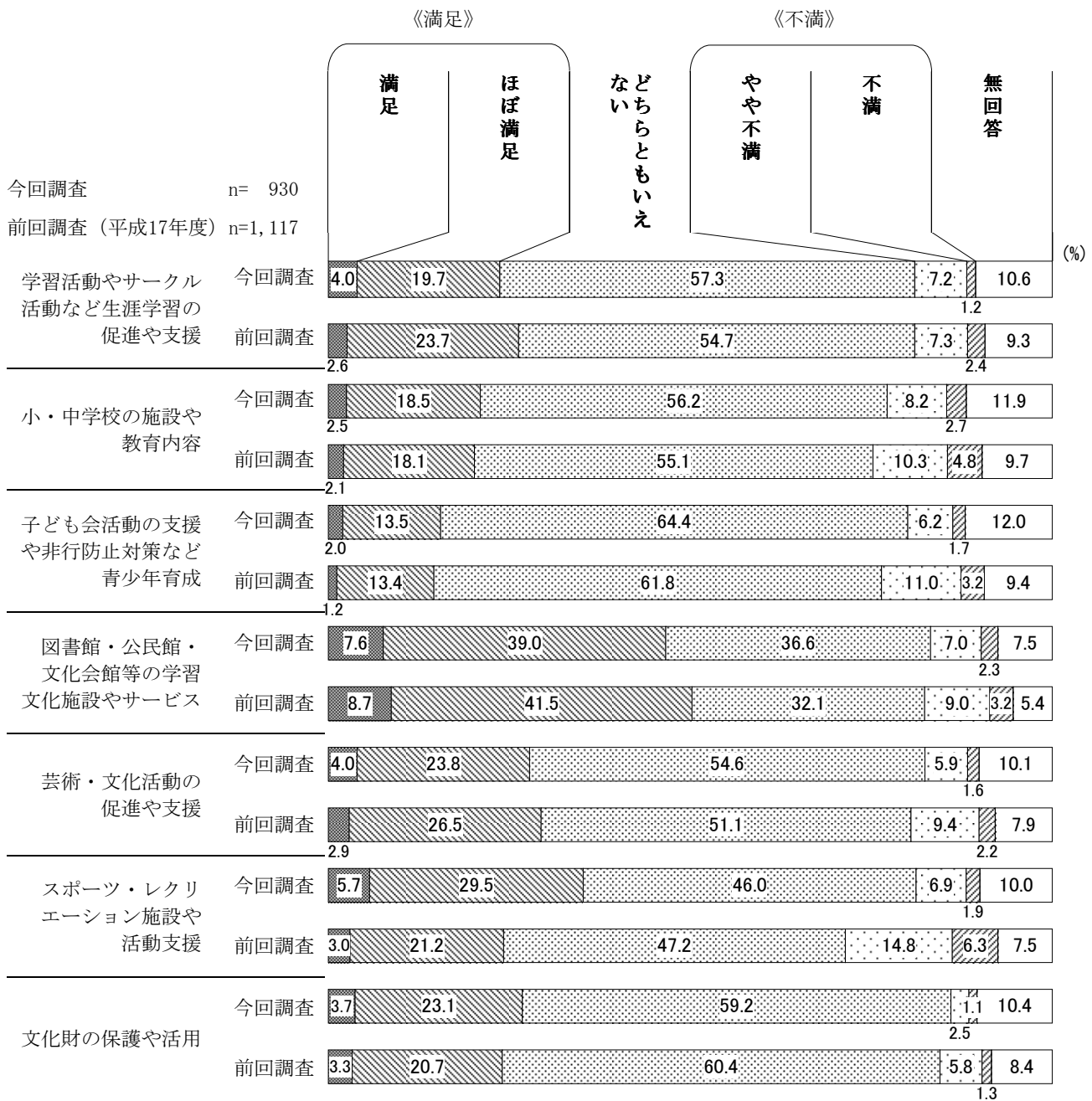
図 2-11



教育・文化の満足度をみると、《満足》は“図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス”で46.6%と最も多い。この他、“スポーツ・レクリエーション施設や活動支援”(35.2%)、「芸術・文化活動の促進や支援」(27.8%)、「文化財の保護や活用」(26.8%)で比較的多くなっている。

《不満》はいずれの項目でも少なく、“小・中学校の施設や教育内容”の10.9%が最大となっている(図2-11)。

図2-12 経年比較 町の現況に対する満足度「教育・文化」



※「子ども会活動の支援や非行防止対策など青少年育成」は、前回調査では「子ども会活動の支援や非行防止対策など青少年の健全育成」

「図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス」は、前回調査では「図書館・公民館の施設やサービス」

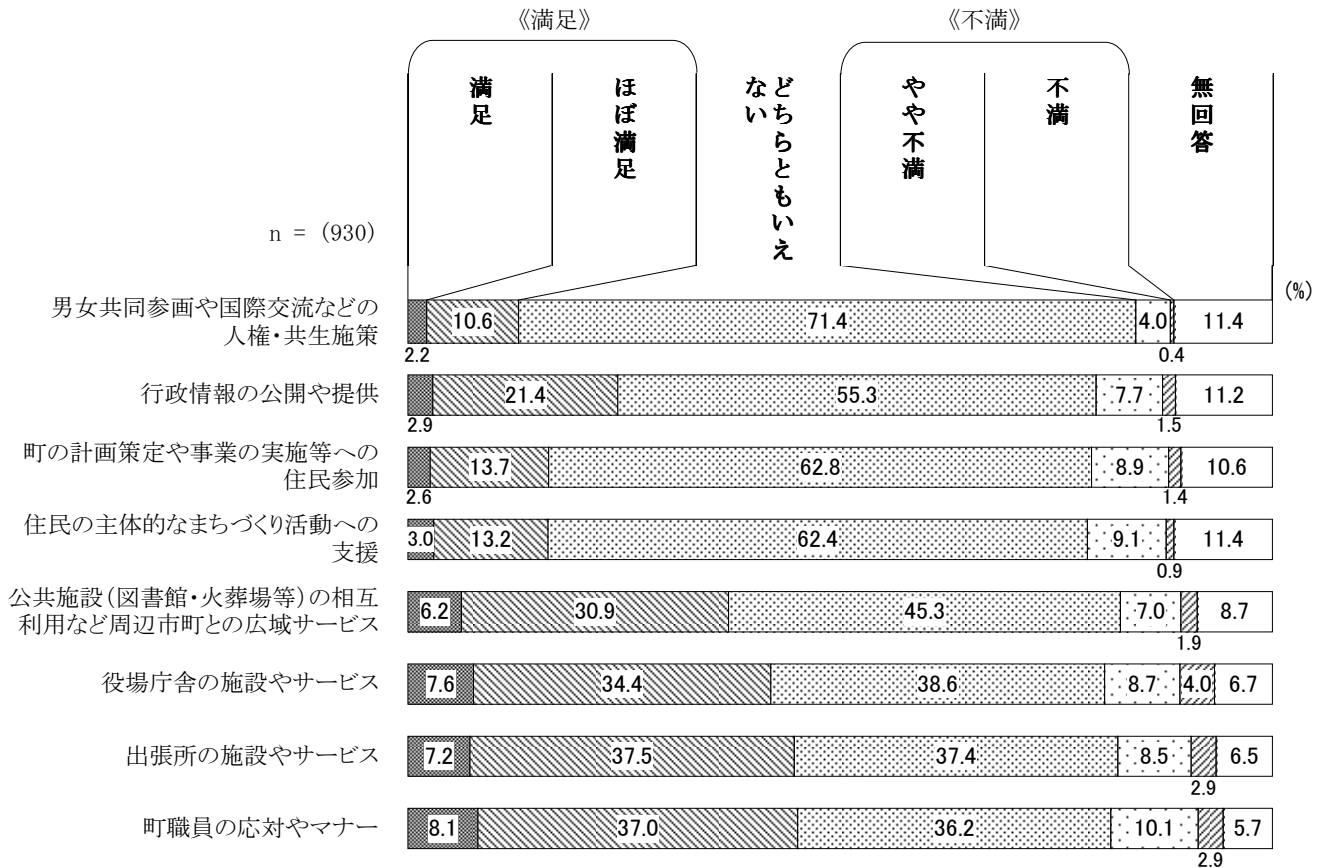
前回調査（平成17年度）と比較しても大きな違いはみられない。その中では、“スポーツ・レクリエーション施設や活動支援”で《満足》が前回24.2%から11ポイント増加し、《不満》が前回21.1%から12ポイント減少している（図2-12）。

「コミュニティほか」について

◇ “町職員の対応やマナー”、“出張所の施設やサービス”、“役場庁舎の施設やサービス”で《満足》が4割台

“町職員の対応やマナー”で《不満》が13.0%

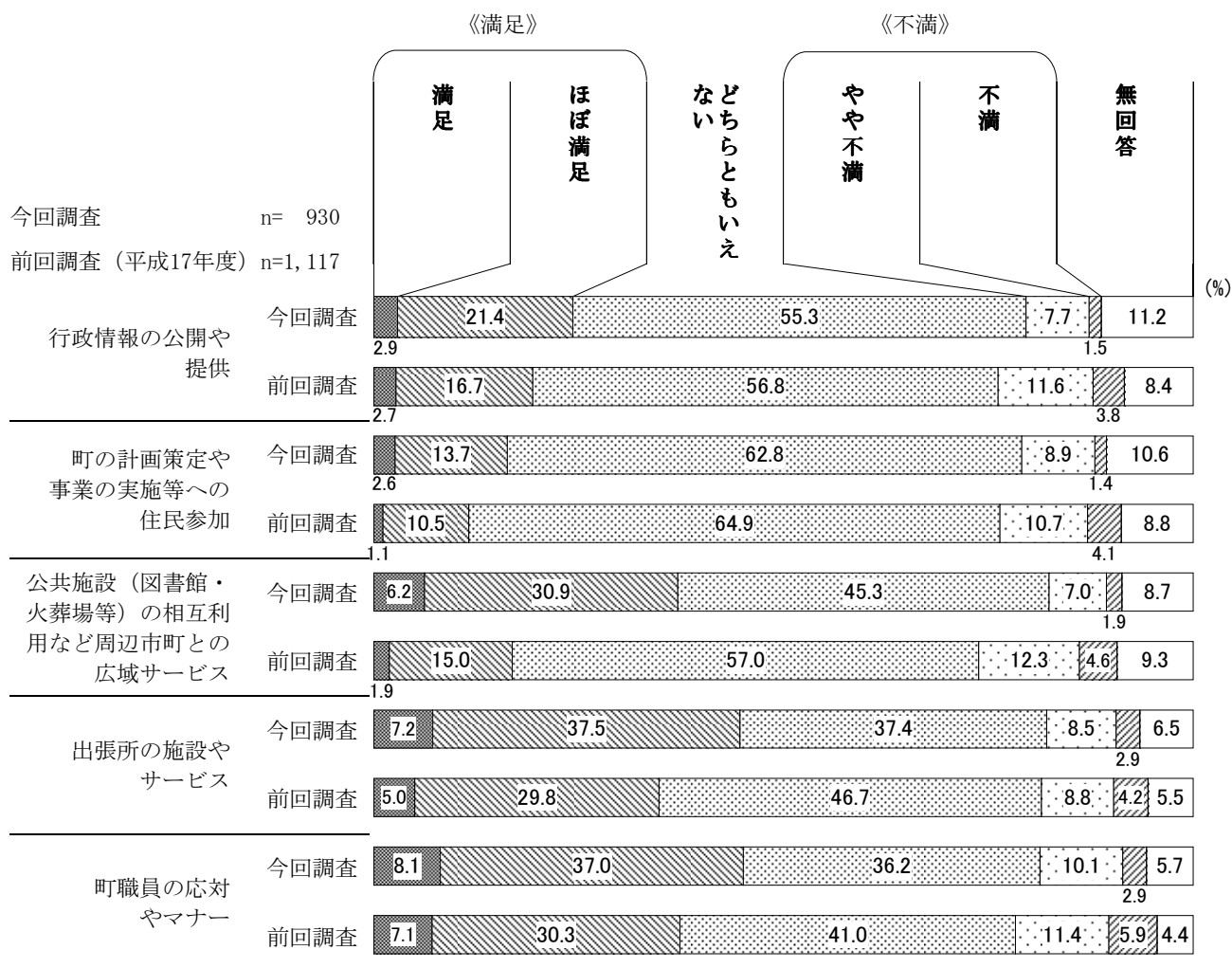
図 2-13



コミュニティほかの満足度をみると、《満足》は“町職員の対応やマナー”（45.1%）、“出張所の施設やサービス”（44.7%）、“役場庁舎の施設やサービス”（42.0%）で4割台、“公共施設（図書館・火葬場等）の相互利用など周辺市町との広域サービス”で37.1%と多くなっている。

《不満》はいずれも少ないが、“町職員の対応やマナー”（13.0%）、“役場庁舎の施設やサービス”（12.7%）などで1割前後となっている（図2-13）。

図 2-14 経年比較 町の現況に対する満足度「コミュニティほか」



※ 「公共施設（図書館・火葬場等）の相互利用など周辺市町との広域サービス」は、前回調査では「公共施設の相互利用など周辺市町との広域サービス」

前回調査（平成17年度）との比較すると“公共施設（図書館・火葬場等）の相互利用など周辺市町との広域サービス”（37.1%）が、前回16.9%から20ポイント増加している他、「出張所の施設やサービス」、「町職員の対応やマナー」でも《満足》が大きく増加している（図2-14）。

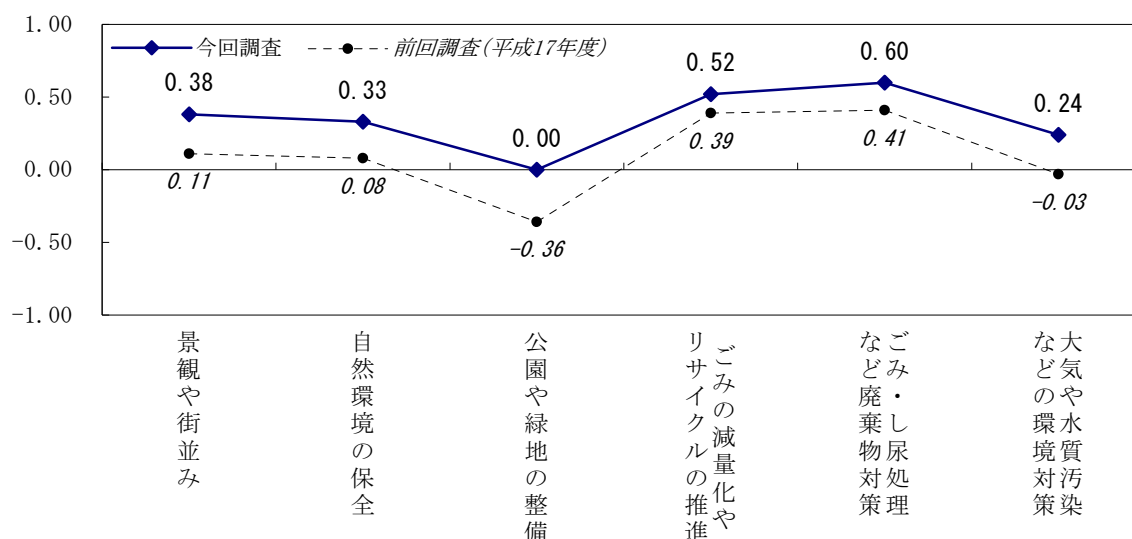
各項目間の比較をより単純にするために、下記の計算式のように、5段階の評価に点数を与え、各項目の平均評価点を算出した。

算出方法

$$\text{評価点} = \frac{\begin{aligned} &\text{「満足」の回答数} \times 2 \text{点} \\ &\text{「ほぼ満足」の回答数} \times 1 \text{点} \\ &\text{「どちらともいえない」の回答数} \times 0 \text{点} \\ &\text{「やや不満」の回答数} \times \blacktriangle 1 \text{点} \\ &\text{「不満」の回答数} \times \blacktriangle 2 \text{点} \end{aligned}}{\text{回答者数（無回答を除く）}}$$

この算出方法では、評価点は+2.00点から▲2.00点の間に分布し、0.00点が中間値である。+2.00点に近いほど評価は高く、逆に▲2.00点に近いほど評価は低いことになる。

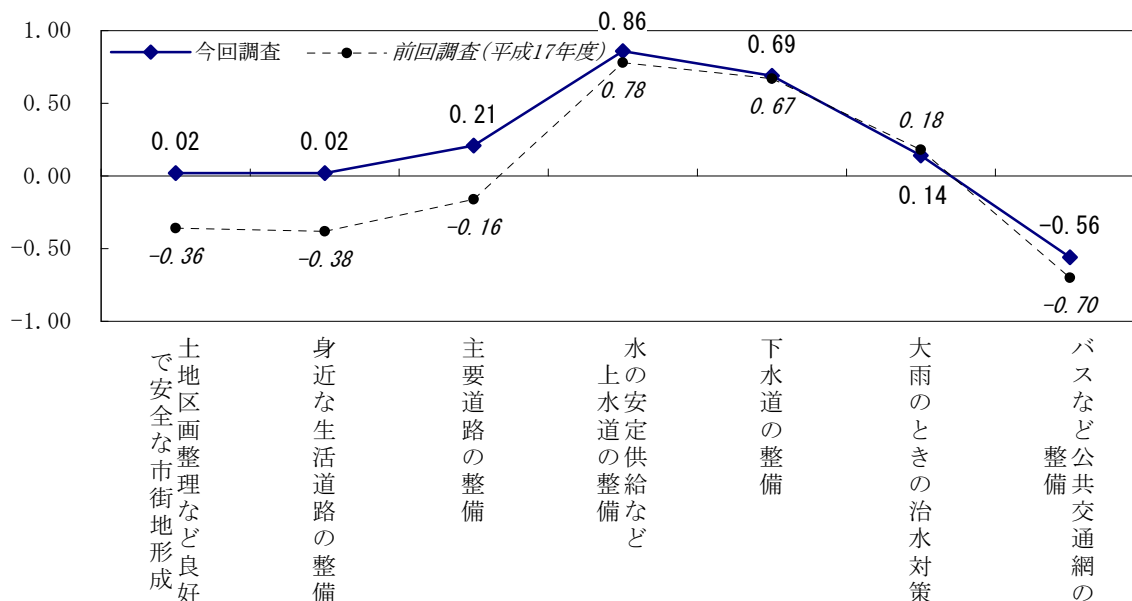
<図2-15> 環境／平均評価点



環境の平均評価点をみると、“公園や緑地の整備”が0.00点であるほかは、いずれの項目もプラス評価となっている。“ごみ・し尿処理など廃棄物対策”が0.60点で最も高く、“ごみの減量化やリサイクルの推進”が0.52点で続いている。

前回調査（平成17年度）と比較すると、「公園や緑地の整備」、「景観や街並み」、「自然環境の保全」を中心にいずれの項目でも評価が上昇している（図2-15）。

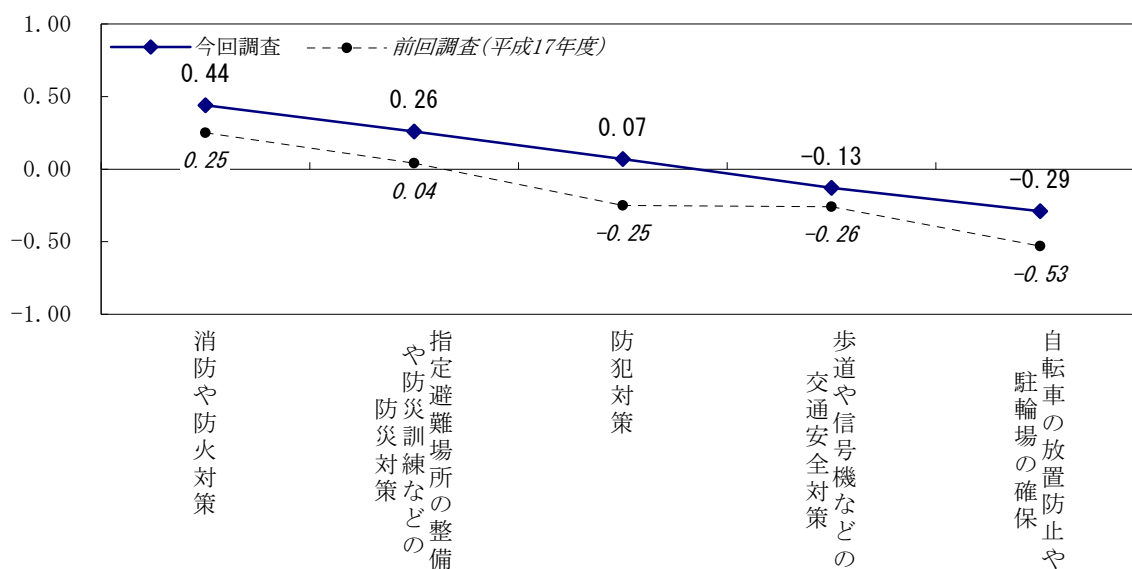
<図 2-16> 都市整備／平均評価点



都市整備の平均評価点をみると、“水の安定供給など上水道の整備”が0.86点で最も高く、“下水道の整備”が0.69点で続いている。最も低いのは“バスなど公共交通網の整備”でマイナス0.56点となっている。

前回調査（平成17年度）と比較すると、特に“身近な生活道路の整備”、“土地区画整理など良好で安全な市街地形成”、“主要道路の整備”が大きく上昇している（図2-16）。

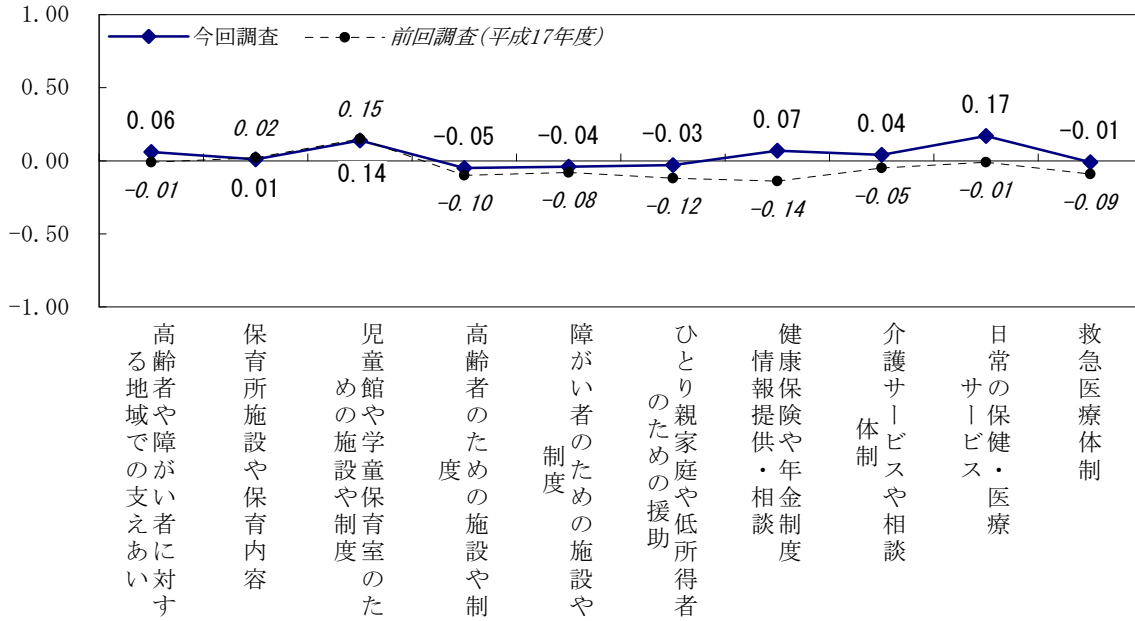
<図 2-17> 安全対策／平均評価点



安全対策の平均評価点をみると、“消防や防火対策”が0.44点で最も高く、“指定避難場所の整備や防災訓練などの防災対策”が0.26点で続いている。最も低いのは、“自転車の放置防止や駐輪場の確保”でマイナス0.29点となっており、“歩道や信号機などの交通安全対策”もマイナス評価となっている。

前回調査（平成17年度）と比較すると、いずれの項目でも上昇しており、“防犯対策”は0.32ポイント上昇している（図2-17）。

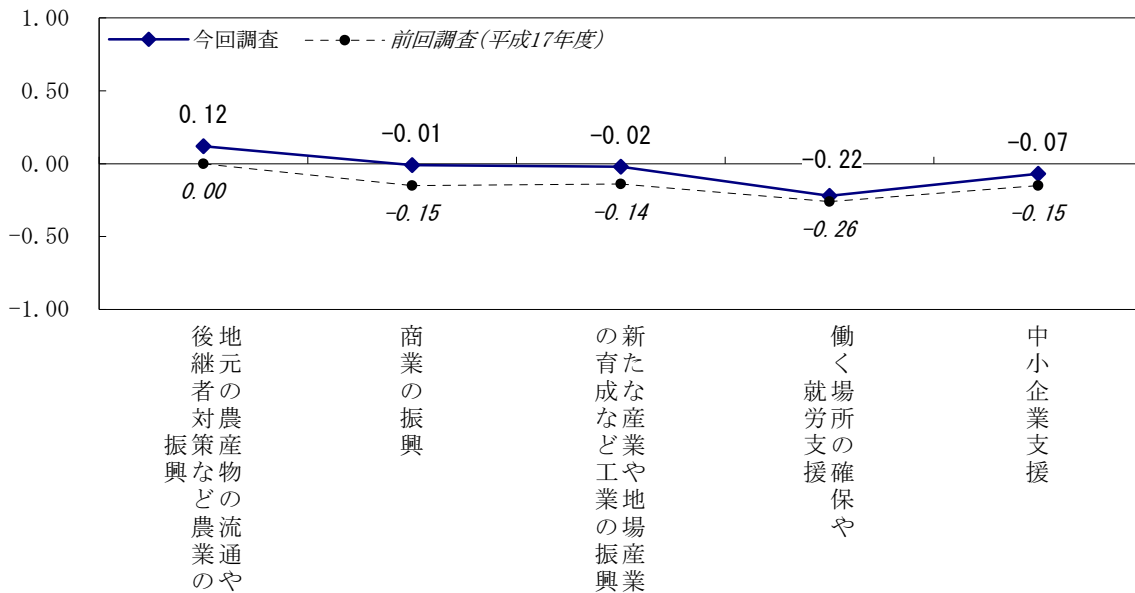
<図2-18>福祉／平均評価点



福祉の平均評価点をみると、“日常の保健・医療サービス”が0.17点で最も高く、“児童館や学童保育室のための施設や制度”が0.14点で続いている。いずれも中間点に近く、明確な評価となっていない。

前回調査（平成17年度）と比較しても、ほとんど変化していない（図2-18）。

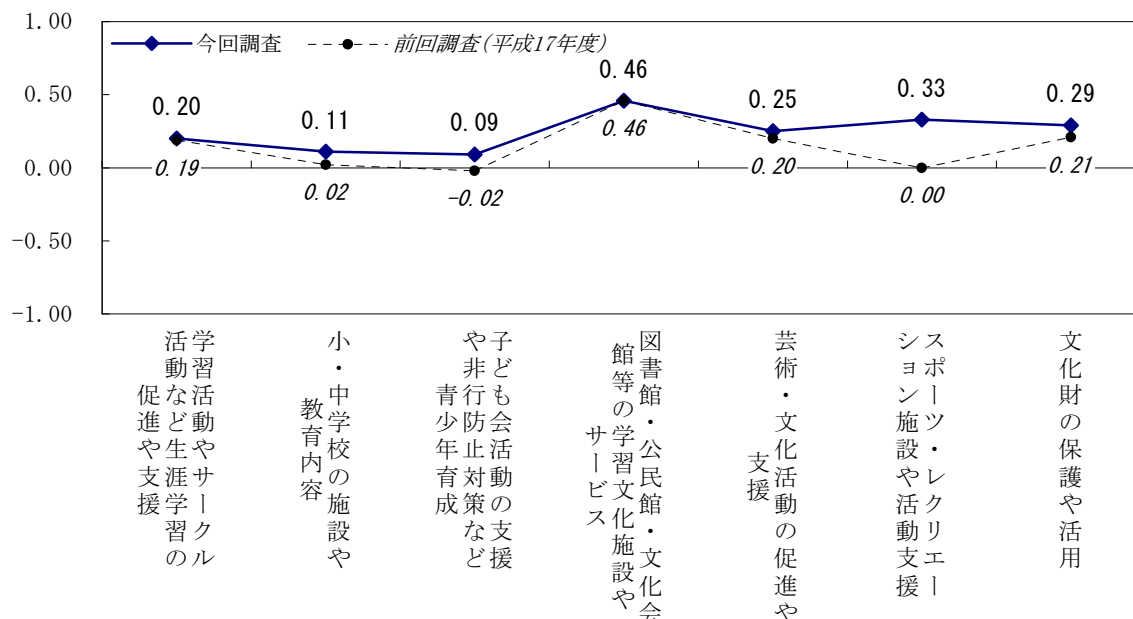
<図2-19>産業経済／平均評価点



産業経済の平均評価点をみると、“地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興”が0.12点で最も高くなっている。5項目中4項目はほぼ中間点に位置するが、“働く場所の確保や就労支援”は、マイナス0.22点と評価が低くなっている。

前回調査（平成17年度）と比較すると、いずれもわずかに上昇しているが、“働く場所の確保や就労支援”は変わらずきびしい（図2-19）。

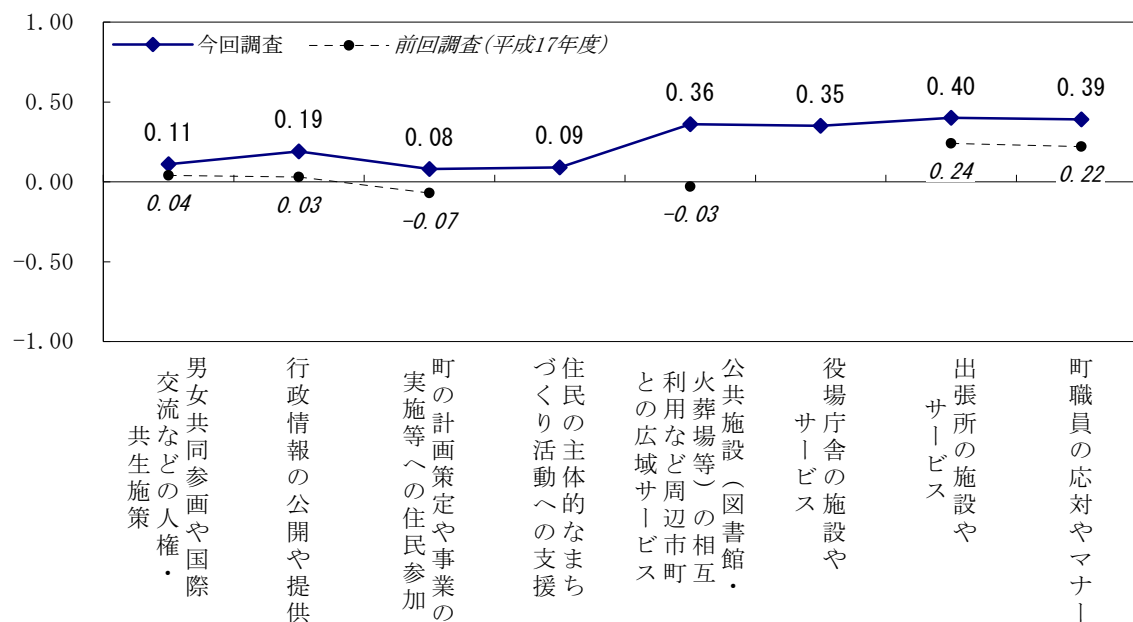
<図2-20>教育・文化／平均評価点



教育・文化の平均評価点をみると、“図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス”が0.46点で最も高く、いずれの項目もプラス評価となっている。

前回調査（平成17年度）と比較しても、大きな変化はないものが多いが、“スポーツ・レクリエーション施設や活動支援”だけは0.33ポイント上昇している（図2-20）。

<図2-21>コミュニティほか／平均評価点



コミュニティほかの平均評価点をみると、いずれの項目もプラス評価となっており、“出張所の施設やサービス”が最も高く0.40点、“町職員の応対やマナー”が0.39点で続いている。

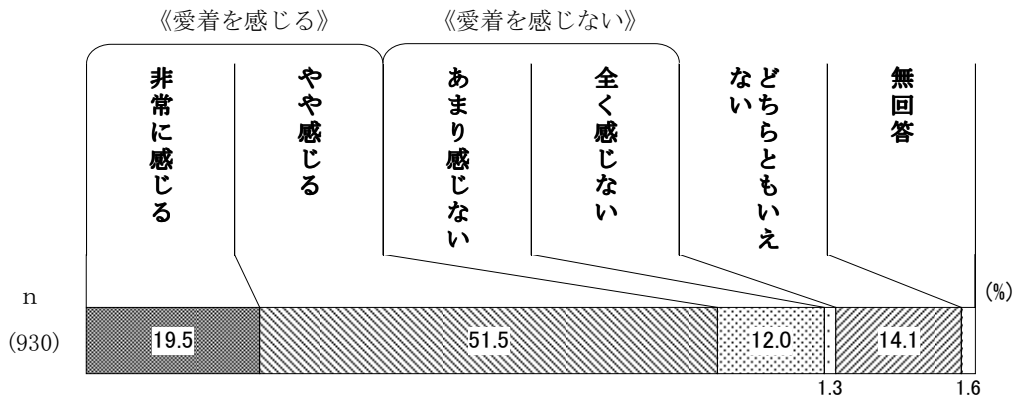
前回調査（平成17年度）と比較すると、いずれの項目もやや上昇しており、“公共施設（図書館・火葬場等）の相互利用など周辺市町との広域サービス”は0.39ポイント上昇している（図2-21）。

(2) 町に対する愛着

◇《愛着を感じる》が71.0%

問7 あなたは三芳町に愛着を感じていますか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

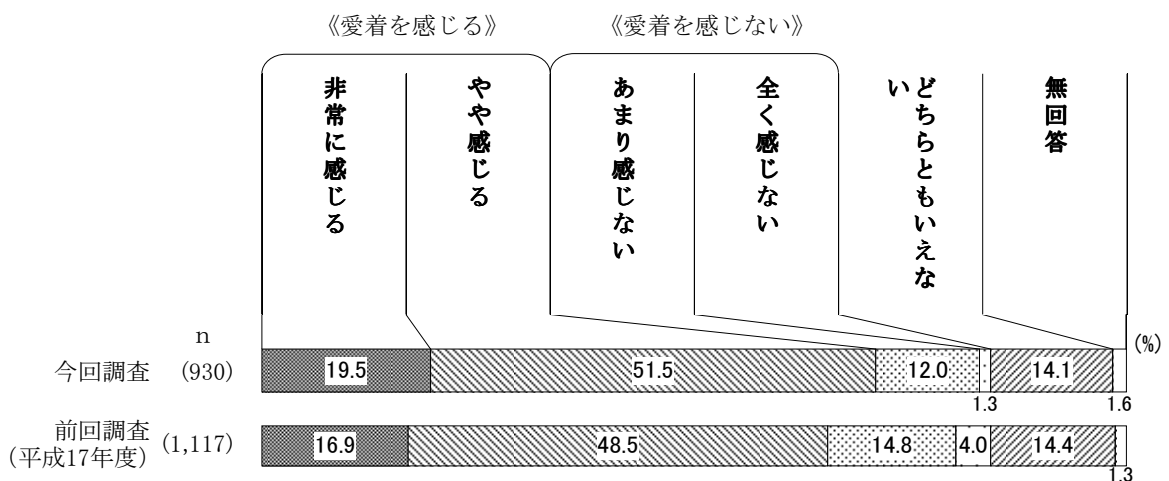
図2-22



三芳町に愛着を「非常に感じる」は19.5%、「やや感じる」は51.5%で、これをあわせた《愛着を感じる》は71.0%となっている。

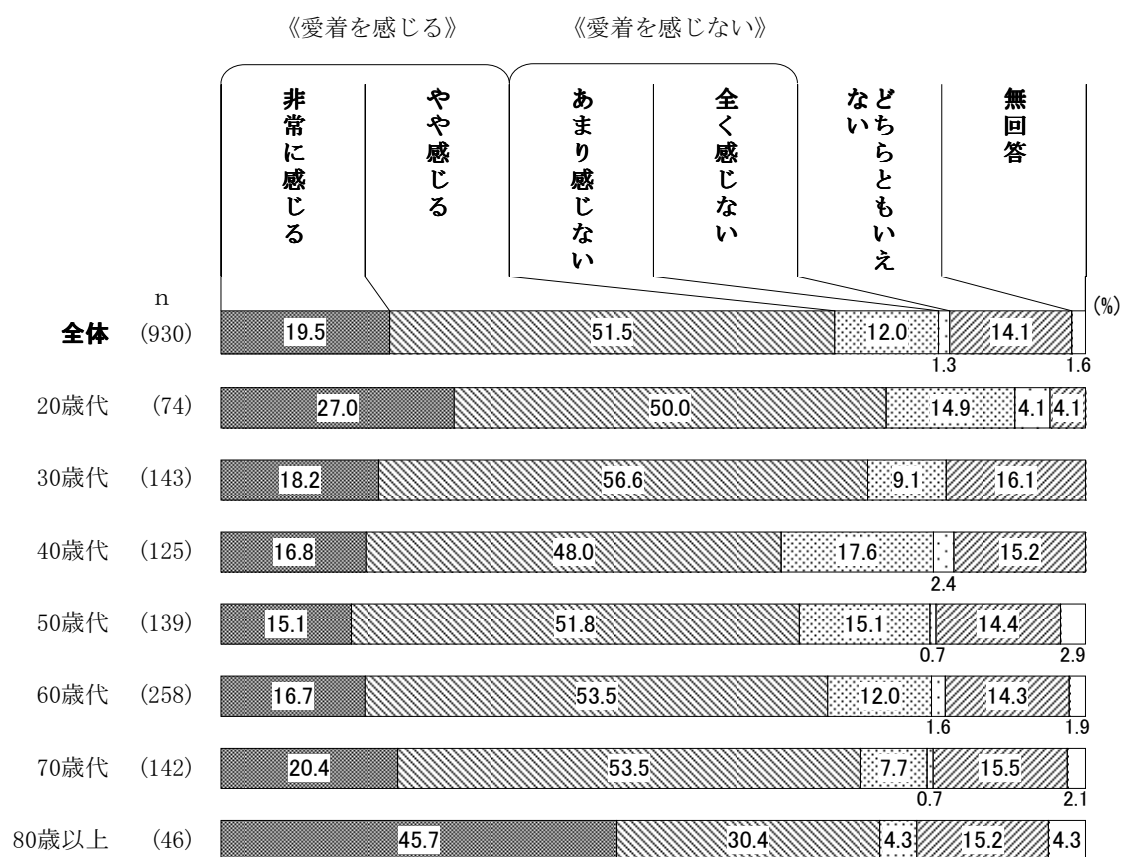
《愛着を感じない》（「全く感じない」＋「あまり感じない」）は13.3%となっている（図2-22）。

図2-23 経年比較 町に対する愛着



前回調査（平成17年度）と比較すると、《愛着を感じる》は前回65.4%から6ポイント増加している（図2-23）。

図 2-24 年代別 町に対する愛着



年代別にみると、《愛着を感じる》はいずれの年代でも6割以上となっており、20歳代で77.0%、80歳以上で76.1%と多くなっている。

《愛着を感じない》は、40歳代(20.0%)と20歳代(19.0%)で約2割となっている(図2-24)。

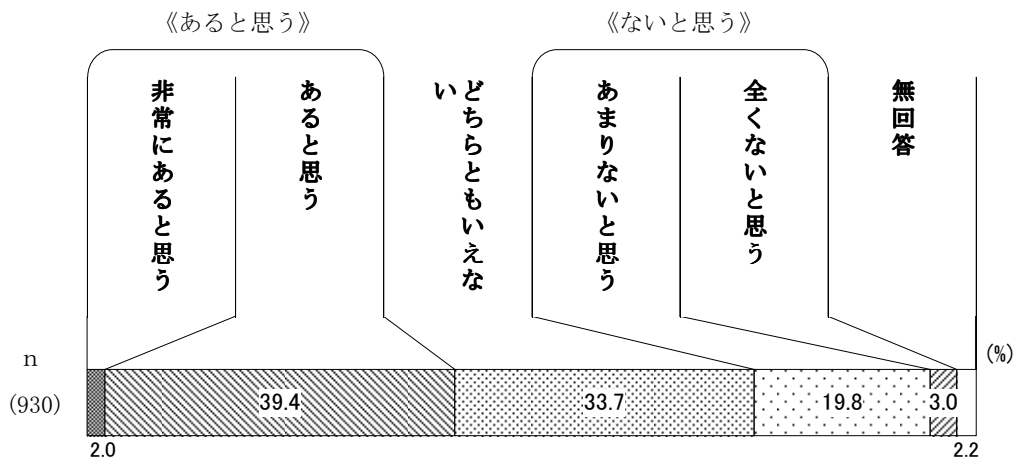
3 地域内の様子について

(1) よりよい地域をつかっていく雰囲気や土壌

◇よりよい地域をつかっていく雰囲気や土壌が《あると思う》が41.4%

問8 あなたのお住まいの地域では、みんなで協力し合ってよりよい地域をつかっていくような雰囲気や土壌はありますか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

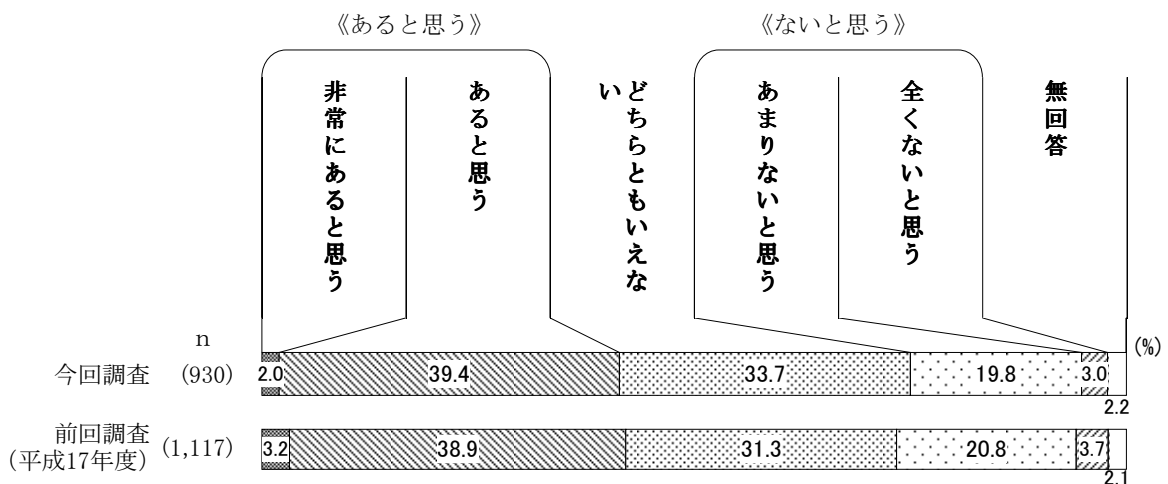
図3-1



居住する地域で、住民が協力しあいながら、よりよい地域をつかっていく雰囲気や土壌が「非常にあると思う」は2.0%、「あると思う」は39.4%で、これをあわせた《あると思う》は41.4%となっている。

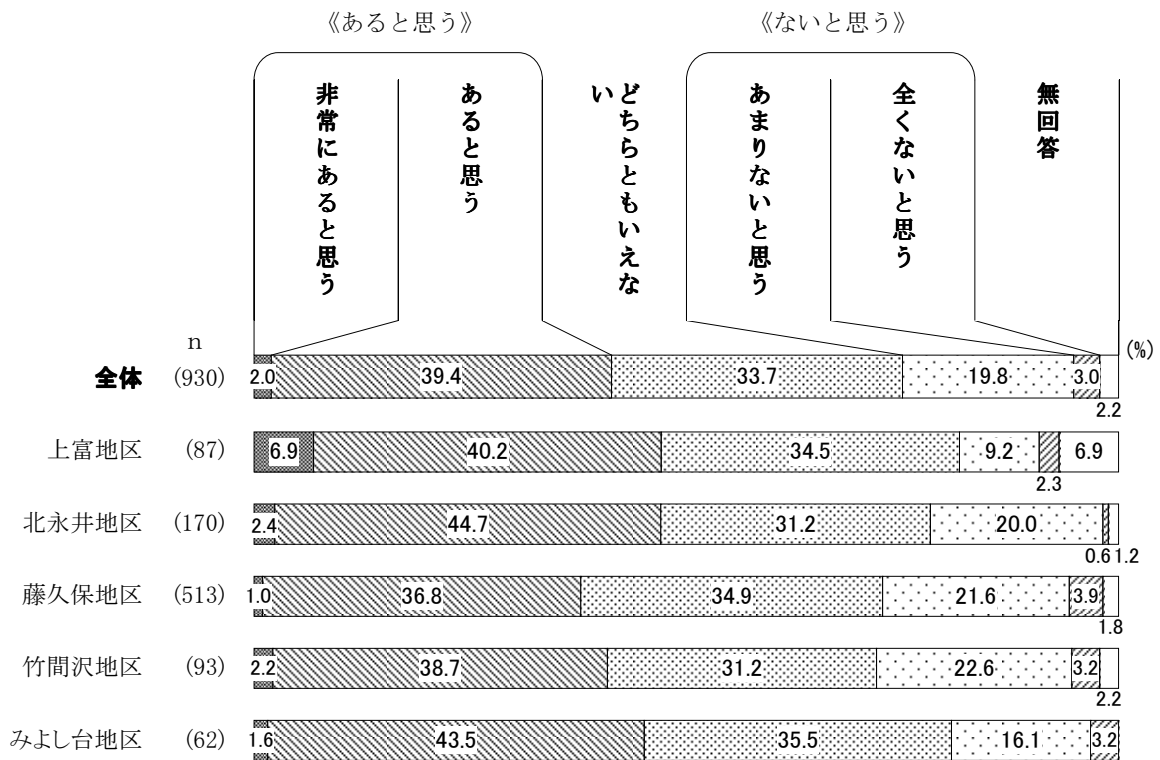
《ないと思う》（「全くないと思う」＋「あまりないと思う」）は22.8%となっている（図3-1）。

図3-2 経年比較 よりよい地域をつかっていく雰囲気や土壌



前回調査（平成17年度）との比較では、特に大きな差はみられない（図3-2）。

図3-3 地区別 よりよい地域をつくっていく雰囲気や土壌



地区別にみると、《あると思う》は上富地区と北永井地区（ともに47.1%）で多くなっている。

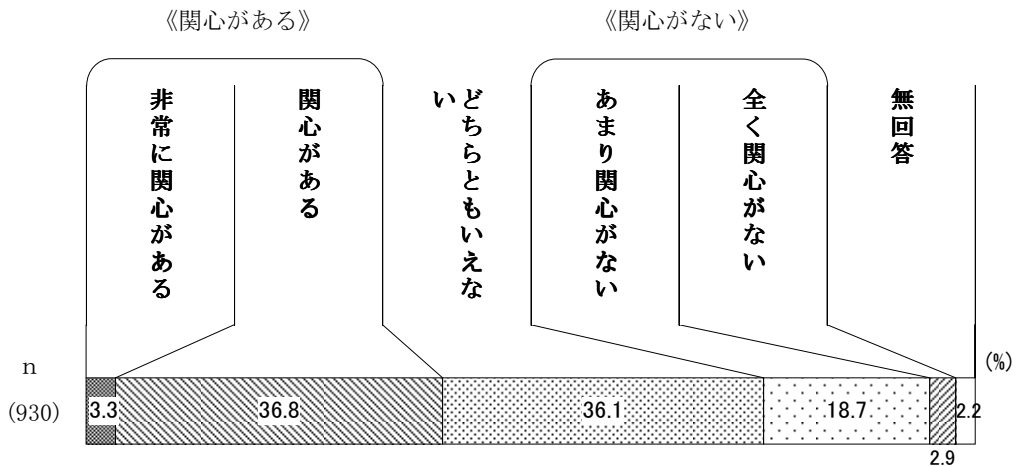
《ないと思う》は竹間沢地区（25.8%）と藤久保地区（25.5%）で比較的多くなっている（図3-3）。

(2) 地域活動や交流への関心

◇ 《関心がある》が40.1%

問9 あなたは、地域活動や交流に関心がありますか。次の中から1つだけ選んで番号に○をつけてください。

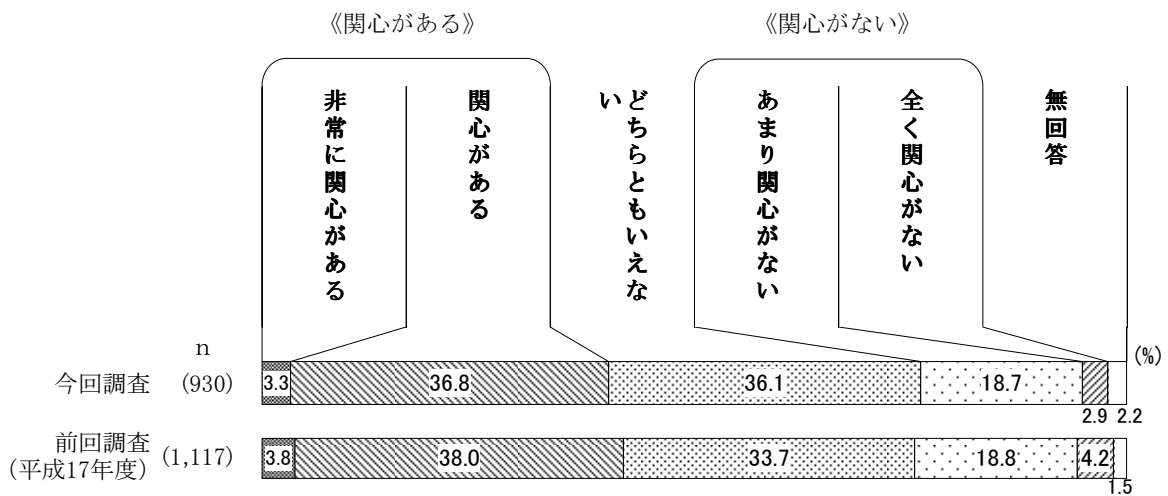
図3-4



地域活動や交流に「非常に関心がある」は3.3%、「関心がある」は36.8%で、これをあわせた《関心がある》は40.1%となっている。

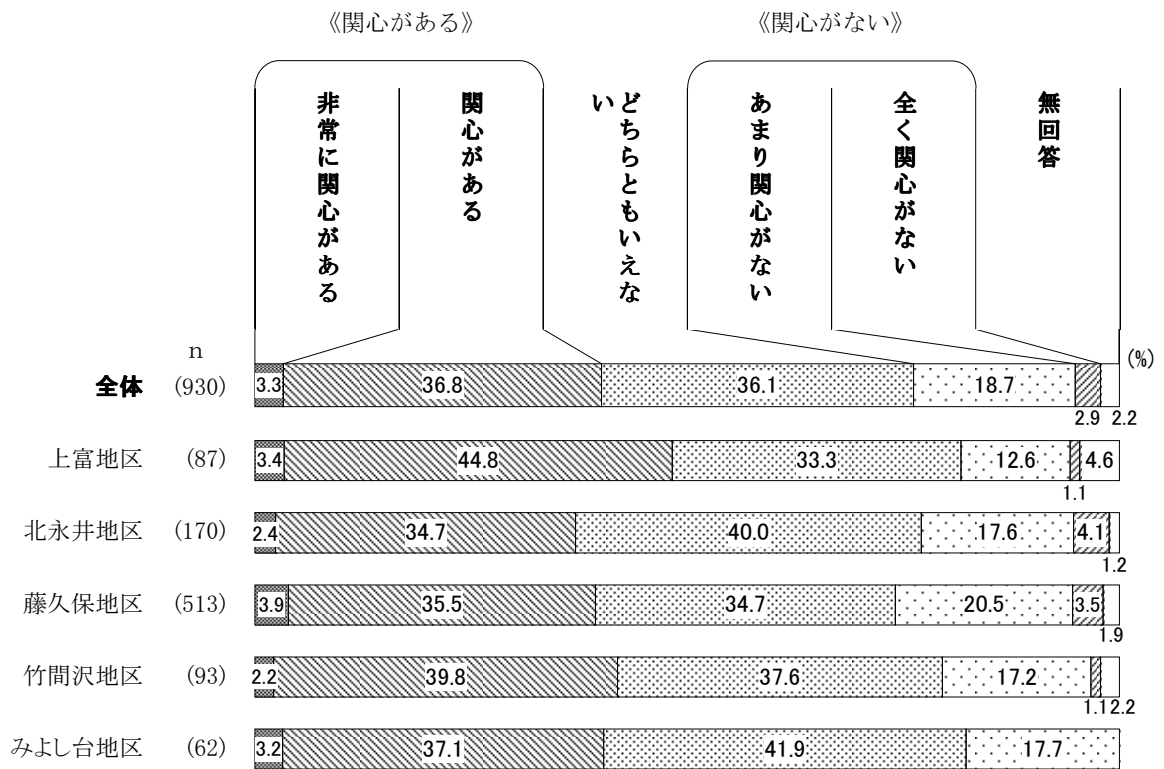
《関心がない》（「全く関心がない」＋「あまり関心がない」）は21.6%となっている（図3-4）。

図3-5 経年比較 地域活動や交流への関心



前回調査（平成17年度）との比較では、特に大きな差はみられない（図3-5）。

図3-6 地区別 地域活動や交流への関心



地区別にみると、《関心がある》は上富地区で48.2%と多くなっている。

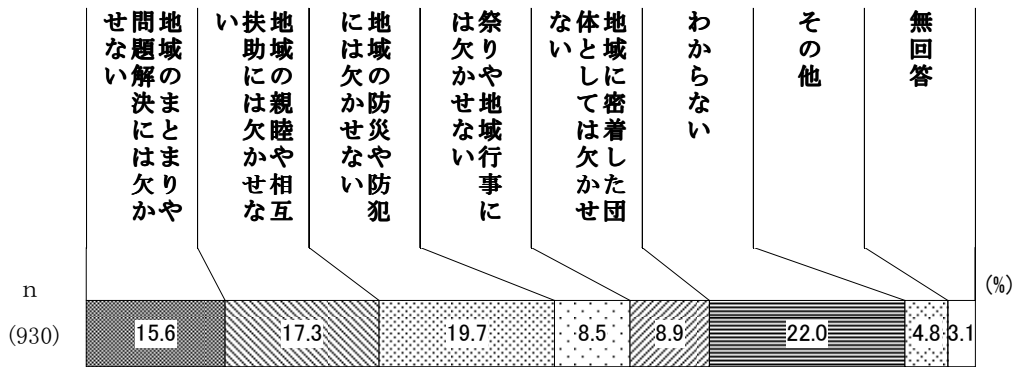
《関心がない》は藤久保地区で24.0%と比較的多くなっている（図3-6）。

(3) 自治会や町内会についての考え方

◇「地域の防災や防犯には欠かせない」が19.7%で最も多い

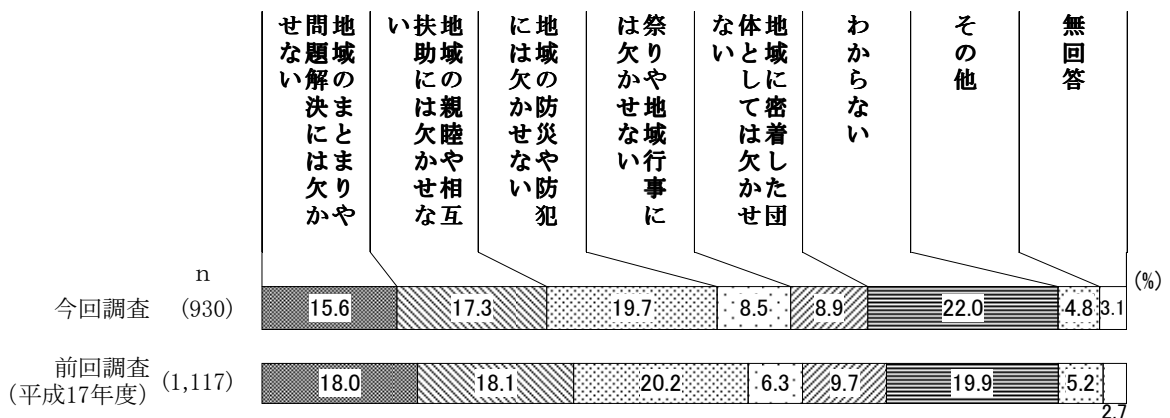
問10 あなたは、現在の自治会や町内会について、どのように考えていますか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

図3-7



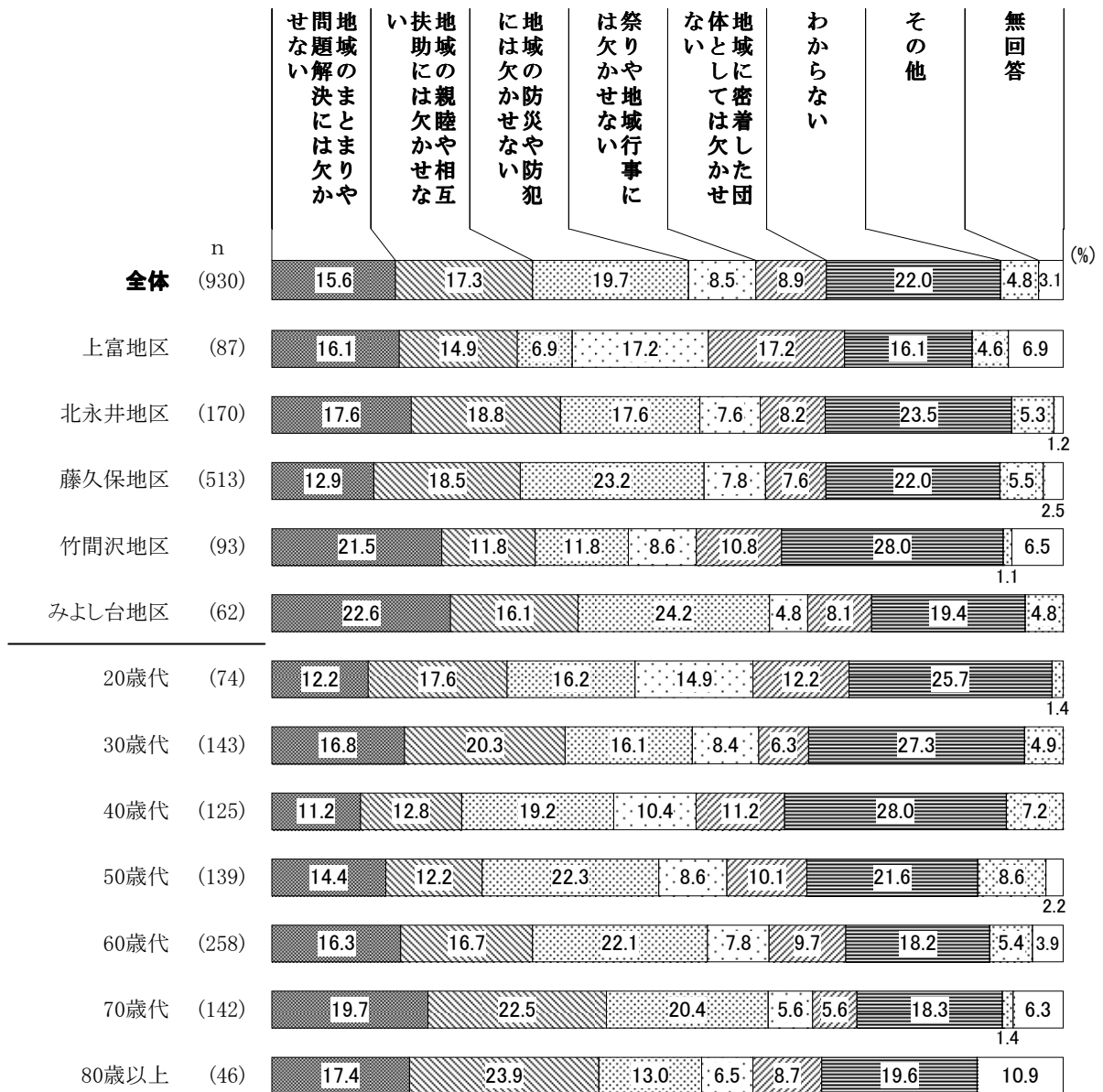
現在の自治会や町内会をどう考えているかでは、「地域の防災や防犯には欠かせない」(19.7%)、「地域の親睦や相互扶助には欠かせない」(17.3%)、「地域のまとまりや問題解決には欠かせない」(15.6%)などが比較的多くなっている(図3-7)。

図3-8 経年比較 自治会や町内会についての考え方



前回調査(平成17年度)との比較では、特に大きな差はみられない(図3-8)。

図3-9 地区別、年代別 自治会や町内会についての考え方



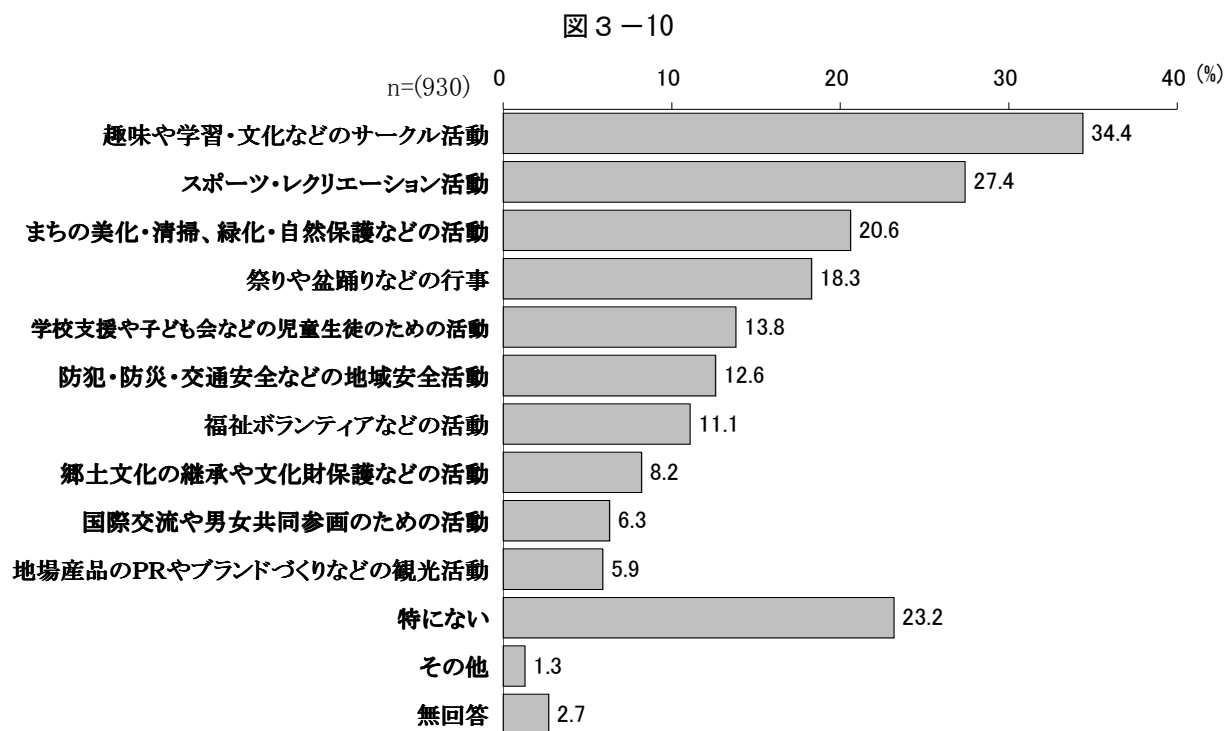
地区別にみると、「地域の防災や防犯には欠かせない」は、みよし台地区（24.2%）と藤久保地区（23.2%）で2割台となっているが、上富地区では6.9%と少なくなっている。「地域のまとまりや問題解決には欠かせない」は、みよし台地区（22.6%）と竹間沢地区（21.5%）で2割台と比較的多くなっている。また、上富地区では、「祭りや地域行事には欠かせない」と「地域に密着した団体としては欠かせない」（ともに17.2%）が他の地区に比べて多くなっている。

年代別にみると、30歳代までは「地域の親睦や相互扶助には欠かせない」、40歳代から60歳代にかけては「地域の防災や防犯には欠かせない」を中心に多くなっているが、70歳以上では再び「地域の親睦や相互扶助には欠かせない」を中心とした意見となっている。また、20歳代から40歳代では、「わからない」が25%以上となっており、特に40歳代（28.0%）で3割近くになっている（図3-9）。

(4) 参加したい地域活動

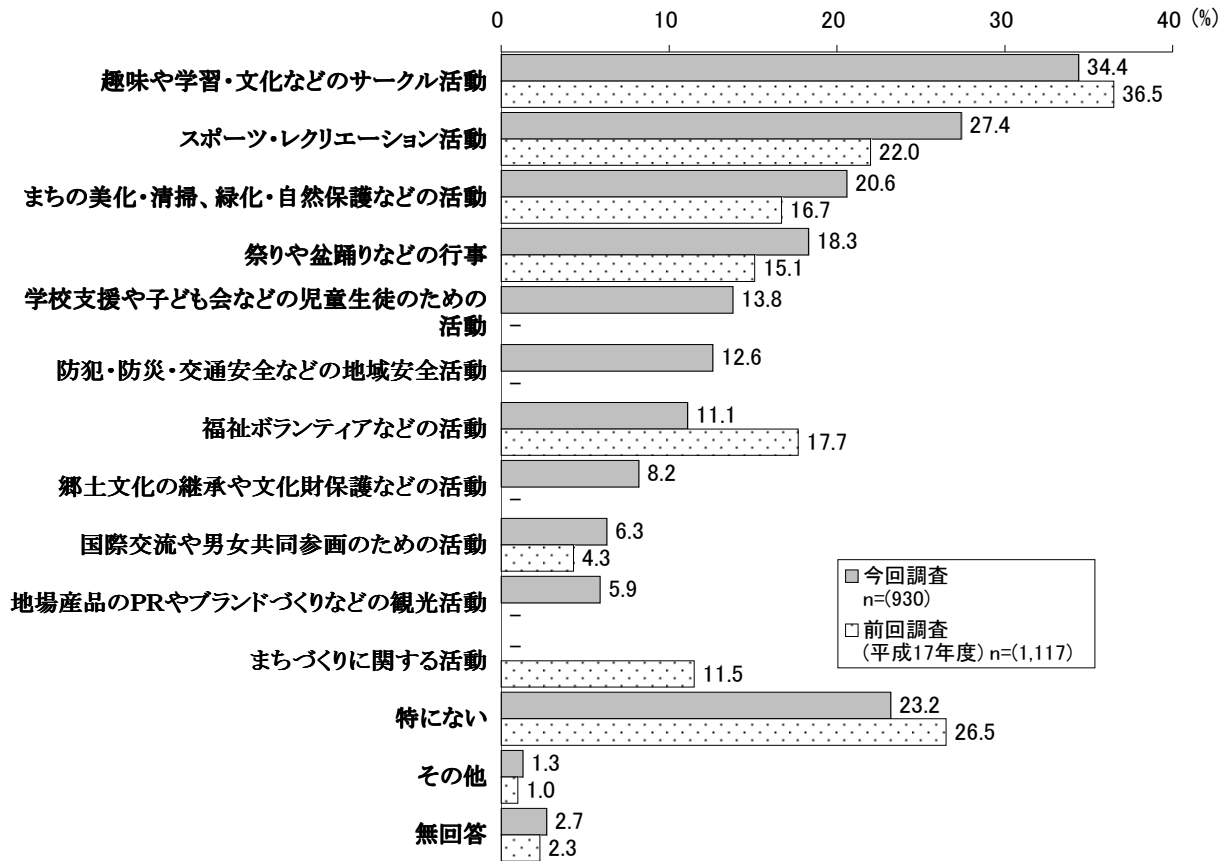
◇「趣味や学習・文化などのサークル活動」が34.4%で最も多い

問11 あなたは、どのような地域活動に参加したいですか。次のうち、あなたの考えに近いものを選んで番号に○をつけてください。(複数回答可)



参加したい地域活動は、「趣味や学習・文化などのサークル活動」が34.4%で最も多く、以下、「スポーツ・レクリエーション活動」(27.4%)、「まちの美化・清掃、緑化・自然保護などの活動」(20.6%)、「祭りや盆踊りなどの行事」(18.3%)と続いている(図3-10)。

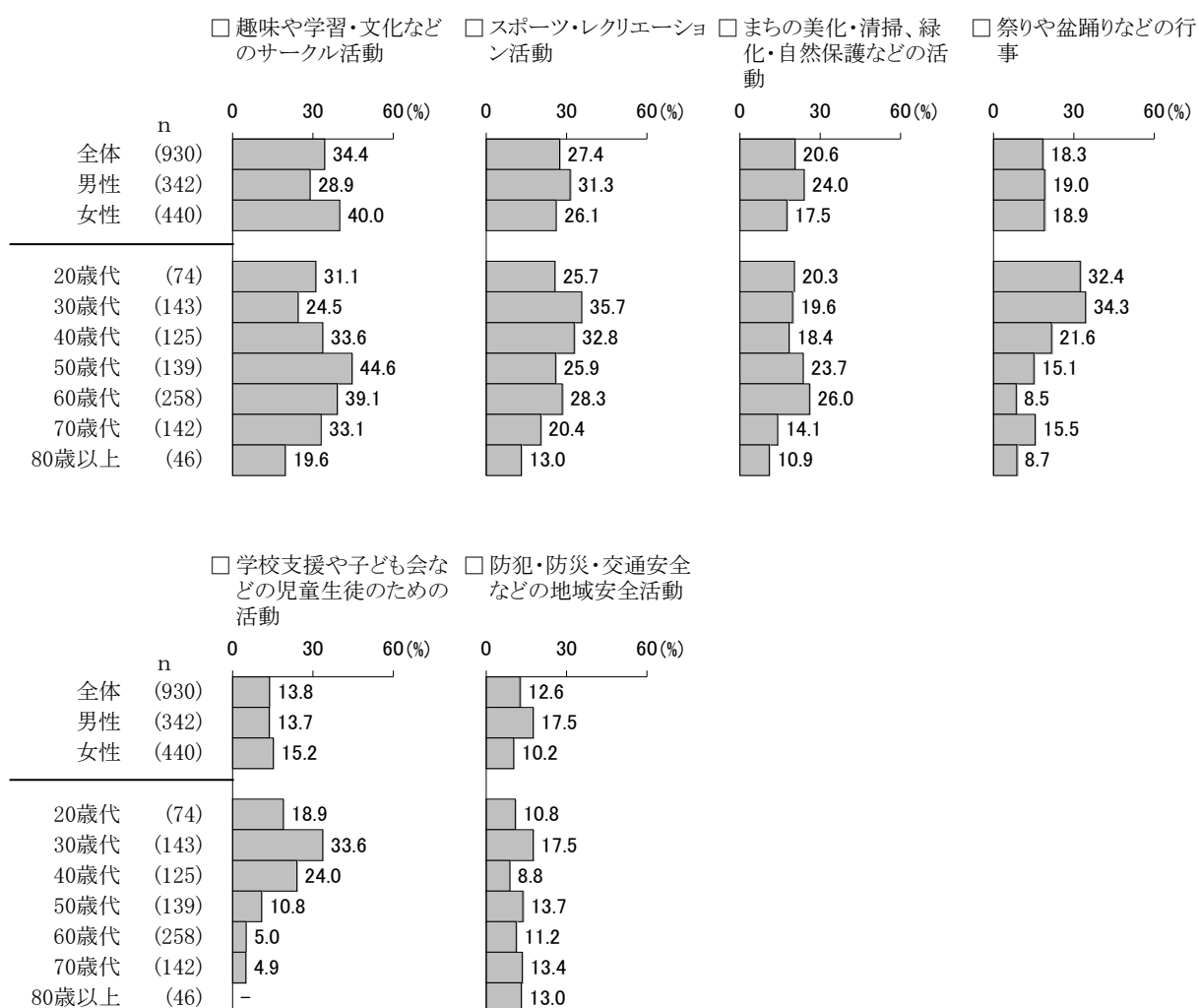
図3-11 経年比較 参加したい地域活動



※「趣味や学習・文化などのサークル活動」は、前回調査では「趣味や同好会などのサークル活動」
 「まちの美化、清掃、緑化・自然保護などの活動」は、前回調査では「美化・清掃、緑化などの奉仕活動」
 「福祉ボランティアなどの活動」は、前回調査では「ボランティアなどの社会福祉活動」
 「国際交流や男女共同参画のための活動」は、前回調査では「国際化や男女共同参画推進のための活動」
 「学校支援や子ども会などの児童生徒のための活動」、「防犯・防災・交通安全などの地域安全活動」、「郷土文化の継承や文化財保護などの活動」、「地場製品のPRやブランドづくりなどの観光活動」は今回調査から
 前回調査の「まちづくりに関する活動」は、今回調査では該当なし

前回調査（平成17年度）との比較では、「スポーツ・レクリエーション活動」（27.4%）が前回22.0%から5ポイント増加している。一方、「福祉ボランティアなどの活動」（11.1%）では前回17.7%から7ポイント減少している（図3-11）。

図3-12 性別、年代別 参加したい地域活動（上位6項目）



性別にみると、「趣味や学習・文化などのサークル活動」は女性（40.0%）が男性（28.9%）を11ポイント上回っている。また、「まちの美化・清掃、緑化・自然保護などの活動」や「防犯・防災・交通安全などの地域安全活動」では、男性が女性をそれぞれ7ポイント上回っている。

年代別にみると、「趣味や学習・文化などのサークル活動」は50・60歳代を中心に広い年代であげられている。「スポーツ・レクリエーション活動」や「祭りや盆踊りなどの行事」は40歳代までが中心、「学校支援や子ども会などの児童生徒のための活動」は30歳代を中心に40歳代までで多くなっている（図3-12）。

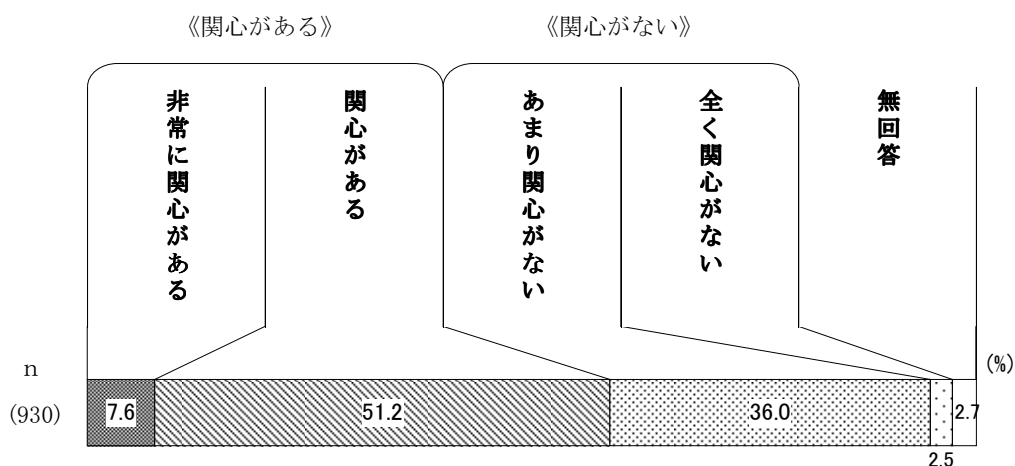
4 町政運営について

(1) 町政への関心

◇ 《関心がある》が58.8%

問12 あなたは町政に関心がありますか。次の中から、1つだけ選んで○をつけてください。

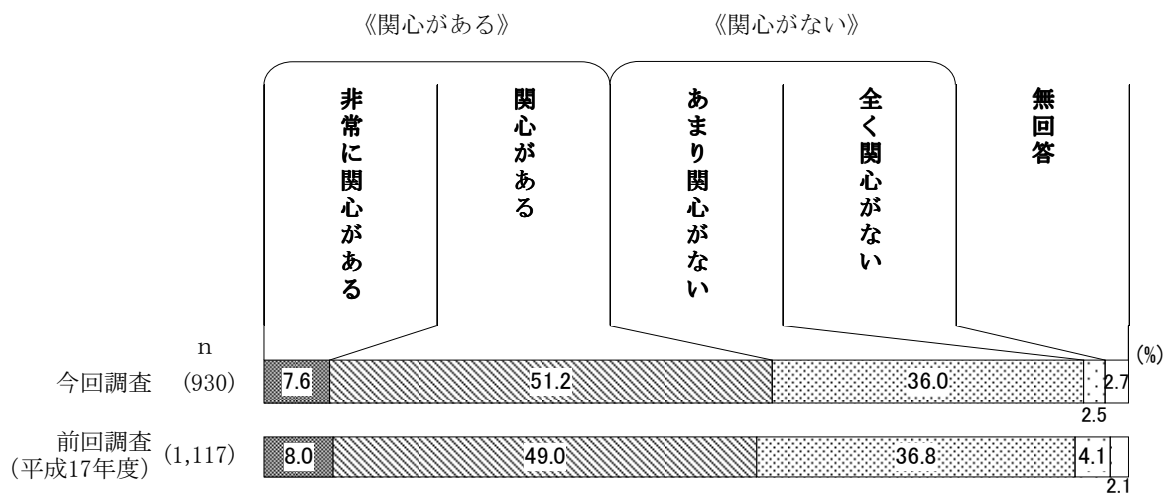
図4-1



町政に「非常に関心がある」は7.6%、「関心がある」は51.2%で、これをあわせた《関心がある》は58.8%となっている。

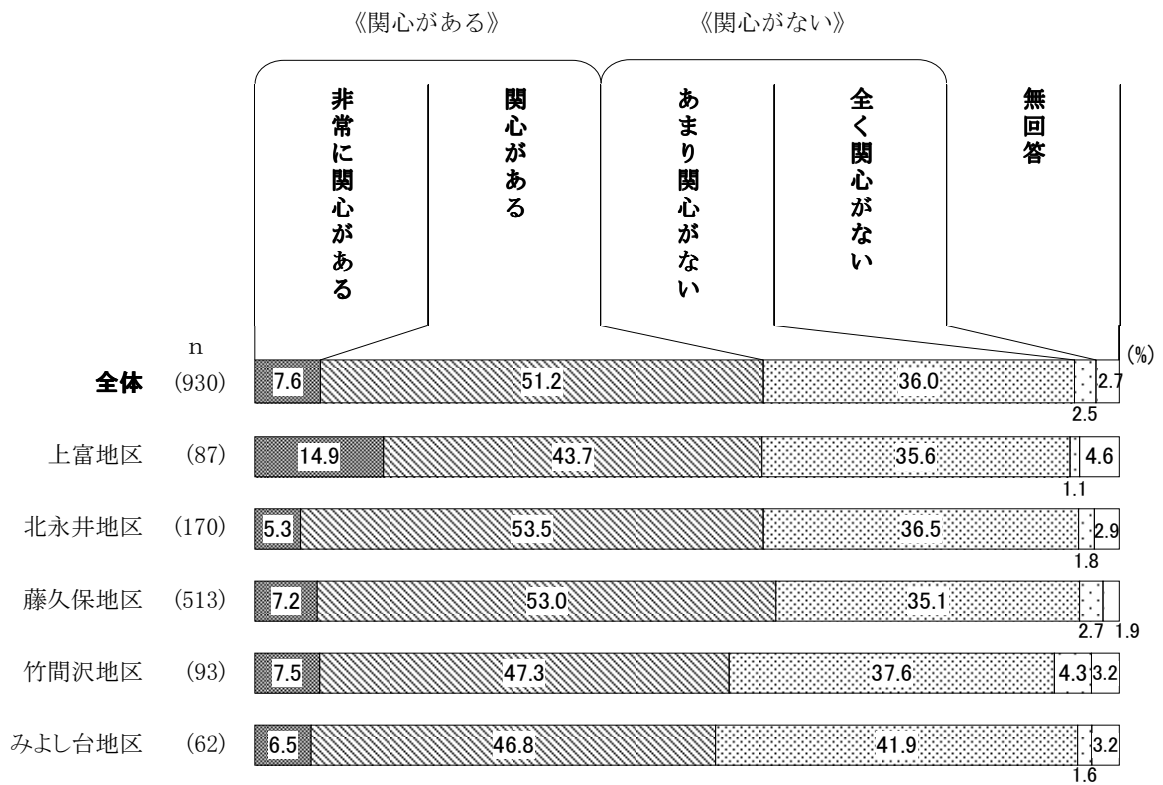
《関心がない》（「全く関心がない」＋「あまり関心がない」）は38.5%となっている（図4-1）。

図4-2 経年比較 町政への関心



前回調査（平成17年度）との比較では、特に大きな差はみられない（図4-2）。

図 4-3 地区別 町政への関心



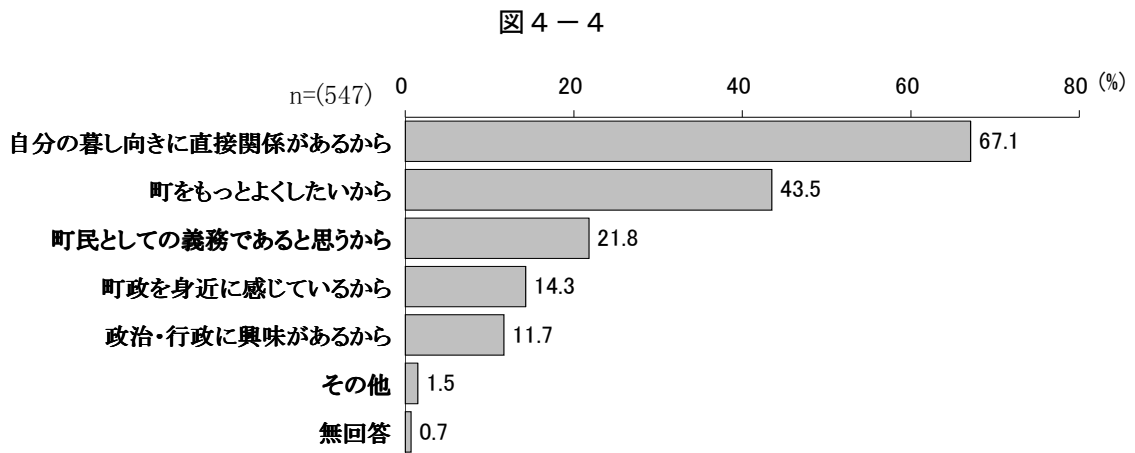
地区別にみると、《関心がある》はいずれの地区でも5割以上であり、藤久保地区では60.2%と比較的多くなっている。

《関心がない》はみよし台地区で43.5%と他の地区より多くなっている（図4-3）。

(2) 町政に関心がある理由

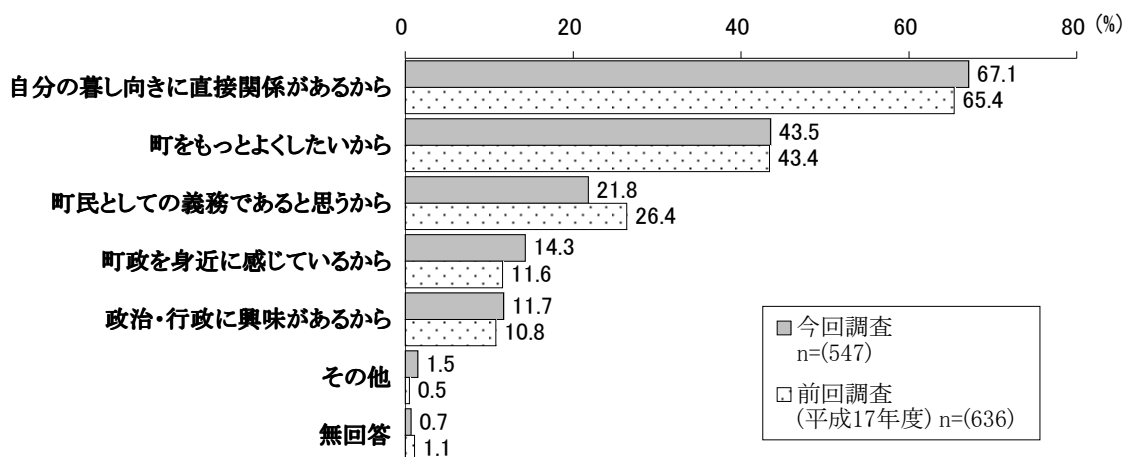
◇「自分の暮らし向きに直接関係があるから」が67.1%で最も多い

問12-① 前問（問12）で、「非常に関心がある」または「関心がある」に回答された方にお聞きします。関心がある理由としてあてはまるものを選んで、番号に○をつけてください。（複数回答可）



問12で《関心がある》と回答した方の理由は、「自分の暮らし向きに直接関係があるから」が67.1%で最も多く、以下、「町をもっとよくしたいから」（43.5%）、「町民としての義務であると思うから」（21.8%）と続いている（図4-4）。

図 4 - 5 経年比較 町政に関心がある理由



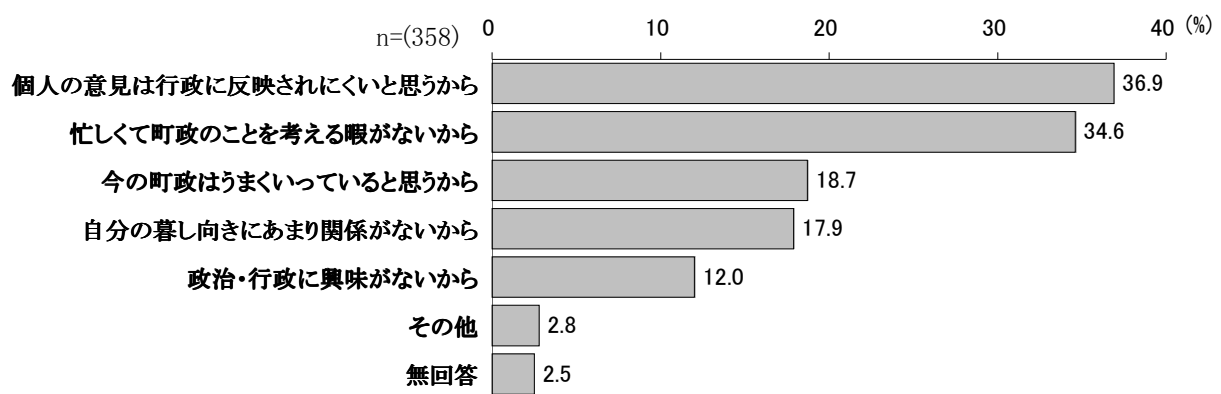
前回調査（平成17年度）との比較では、特に大きな差はみられない（図4-5）。

(3) 町政に関心がない理由

◇「個人の意見は行政に反映されにくいと思うから」、「忙しくて町政のことを考える暇がないから」の2項目が3割台が多い

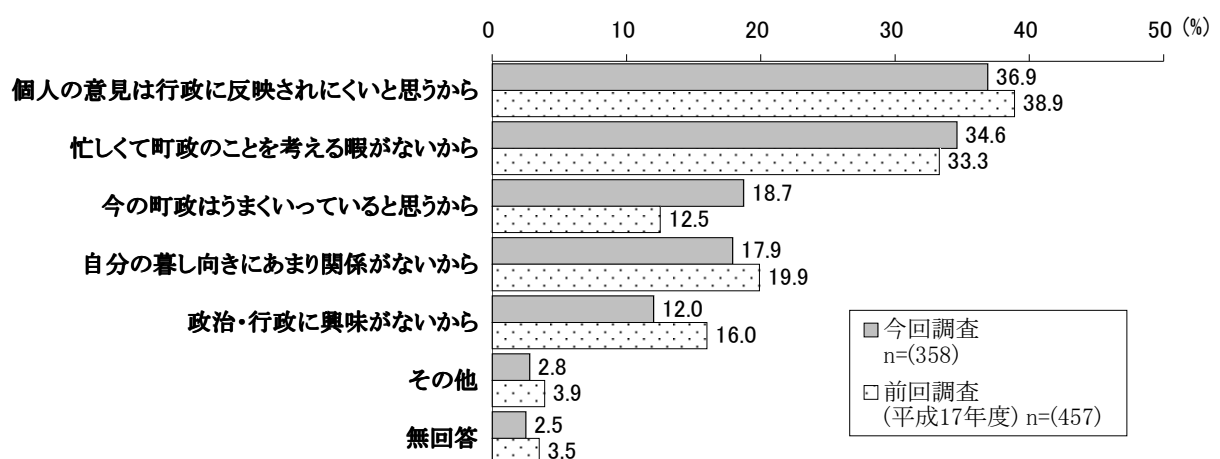
問12-② 前問（問12）で、「あまり関心がない」または「全く関心がない」に回答された方にお聞きします。関心のない理由としてあてはまるものを選んで番号に○をつけてください。（複数回答可）

図4-6



問12で《関心がない》と回答した方の理由は、「個人の意見は行政に反映されにくいと思うから」(36.9%)と「忙しくて町政のことを考える暇がないから」(34.6%)の2項目が3割台で多くなっている(図4-6)。

図4-7 経年比較 町政に関心がない理由



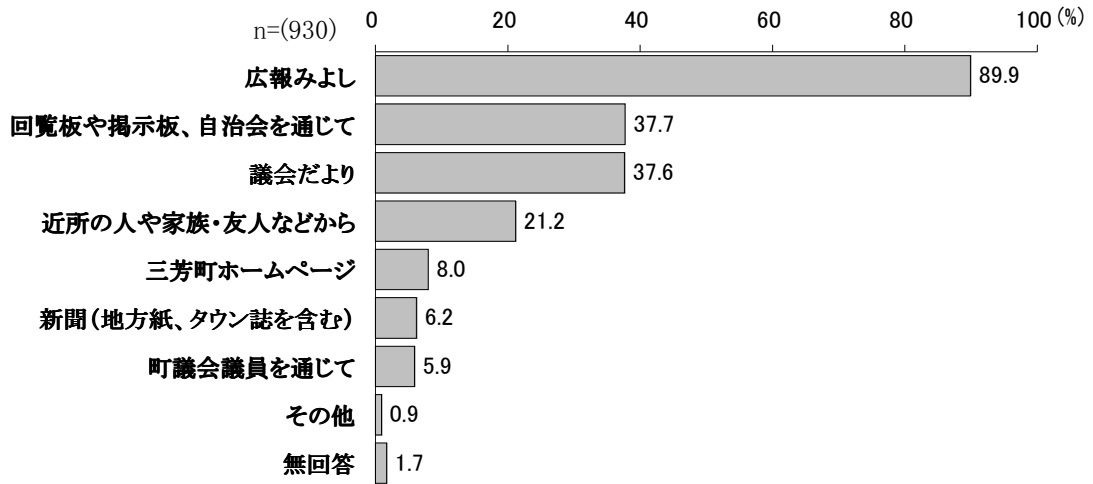
前回調査（平成17年度）と比較すると、「政治・行政に興味がないから」、「自分の暮らし向きにあまり関係がないから」が減少し、「今の町政はうまくいっていると思うから」が6ポイント増加している(図4-7)。

(4) 町政や町の行事の情報収集方法

◇「広報みよし」が89.9%で特に多い

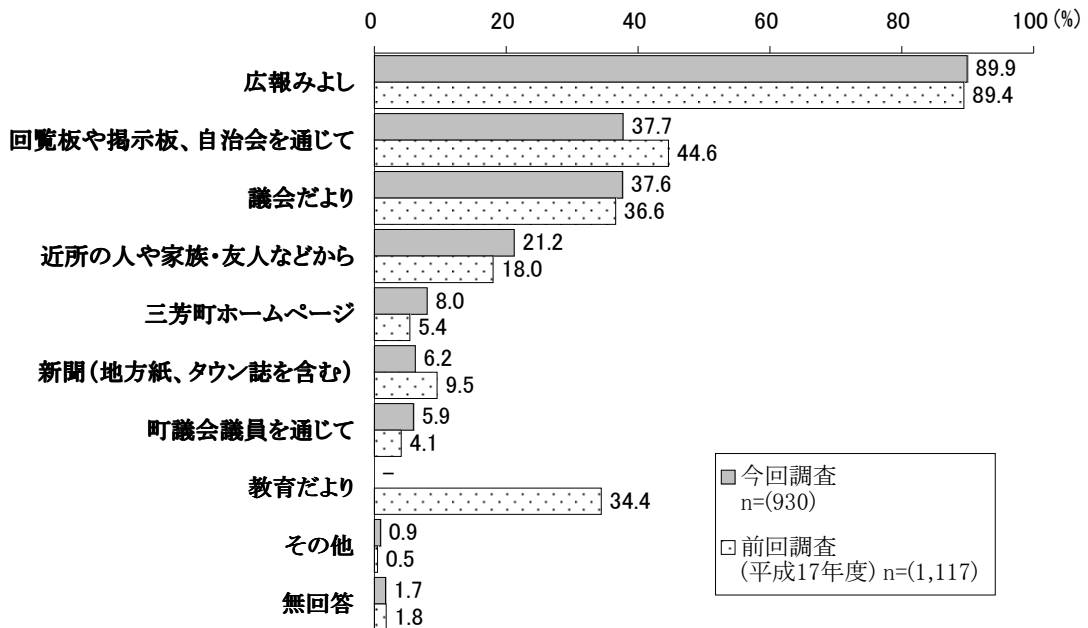
問13 あなたは、町政や町の行事などについて、どこから情報を得ていますか。次の中から選んで、番号に○をつけてください。(複数回答可)

図4-8



町政や町の行事などの情報収集方法は、「広報みよし」が89.9%で特に多くなっており、以下、「回覧板や掲示板、自治会を通じて」(37.7%)、「議会だより」(37.6%)が3割台、「近所の人や家族・友人などから」(21.2%)が2割台で続いている(図4-8)。

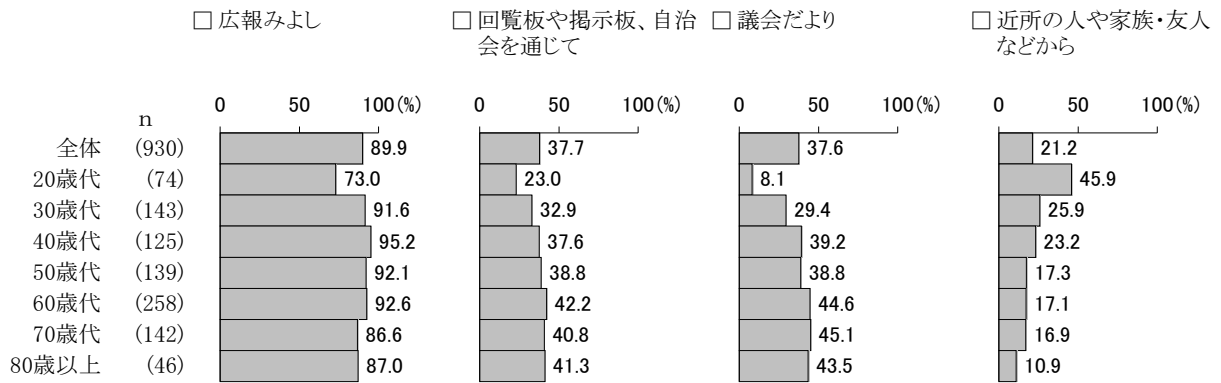
図4-9 経年比較 町政や町の行事の情報収集方法



※「近所の人や家族・友人などから」は前回調査では「近所の人や家族などから」前回の「教育だより」(34.4%)は今回調査では該当項目なし

前回調査(平成17年度)と比較すると、「回覧板や掲示板、自治会を通じて」(37.7%)は前回44.6%から7ポイント減少している(図4-9)。

図4-10 年代別 町政や町の行事の情報収集方法（上位4項目）



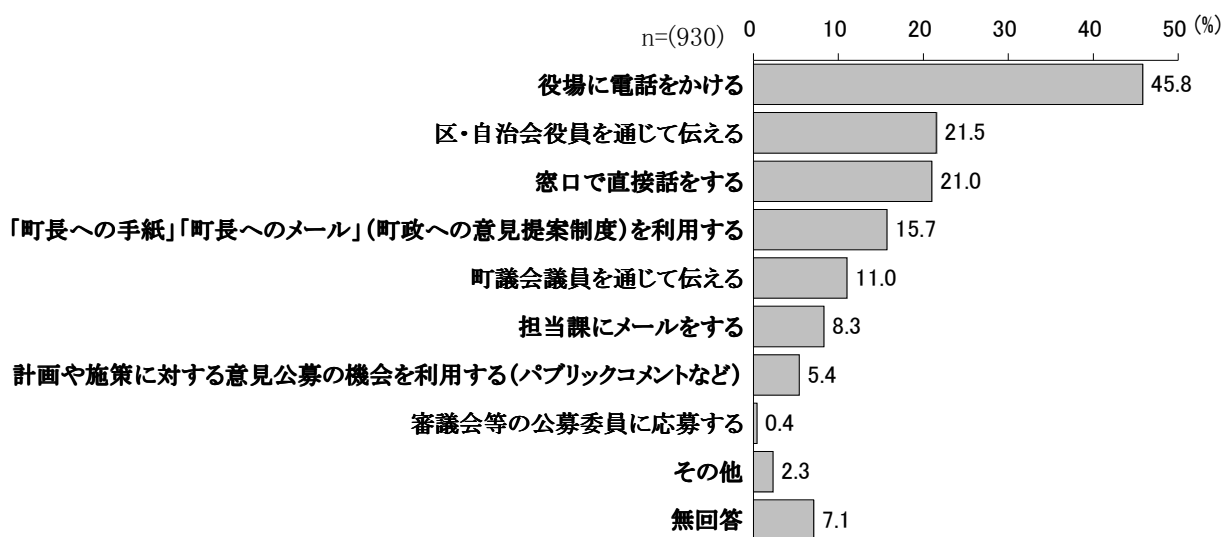
年代別にみると、「広報みよし」は各年代で最も多く、20歳代で7割、30歳代以上では8割から9割台となっている。「回覧板や掲示板、自治会を通じて」と「議会だより」は20歳代では少ないが、30歳代以上では3割から4割程度となっている。「近所の人や家族・友人などから」は20歳代で45.9%と特に多く、30・40歳代でも2割台となっている（図4-10）。

(5) 町政に意向を伝える方法

◇「役場に電話をかける」が45.8%で最も多い

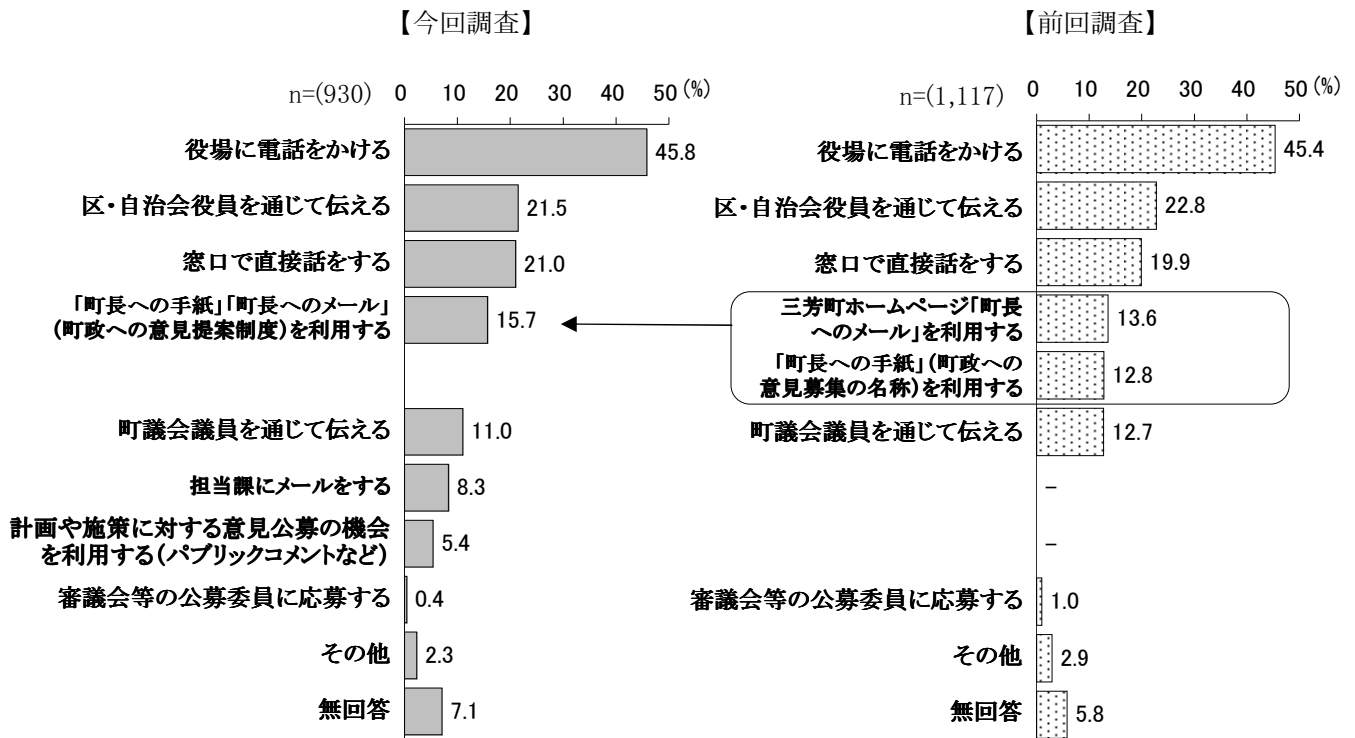
問14 あなたが、ご自分の意向を町政に伝える場合、どのような方法を選びますか。次の中から選んで、番号に○をつけてください。(複数回答可)

図4-11



町政に自分の意向を伝える方法としては、「役場に電話をかける」が45.8%で最も多く、以下、「区・自治会役員を通じて伝える」(21.5%)、「窓口で直接話をする」(21.0%)が2割台が続いている(図4-11)。

図4-12 経年比較 町政に意向を伝える方法



※前回調査の「三芳町ホームページ『町長へのメールを利用する』」および『町長への手紙』(町政への意見募集の名称)を利用するは、『町長への手紙』『町長へのメール』(町政への意見提案制度)を利用する
 「担当課にメールをする」、「計画や施策に対する意見公募の機会を利用する(パブリックコメントなど)」は今回調査から

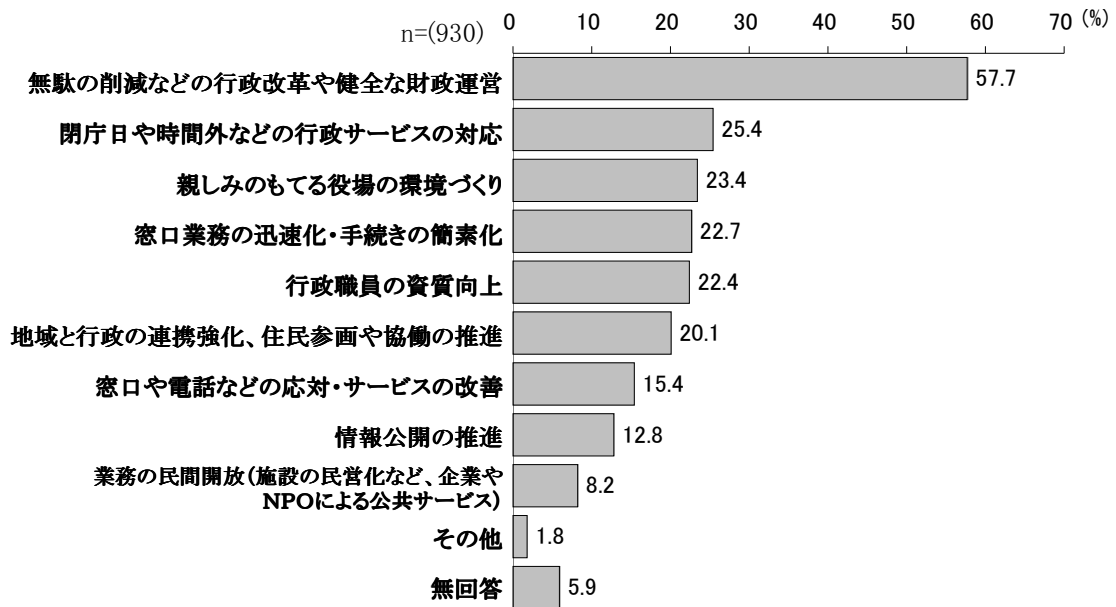
前回調査(平成17年度)と比較すると、上位3項目には大きな違いはみられない(図4-12)。

(6) 行政運営に対する要望

◇「無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営」が57.7%で最も多い

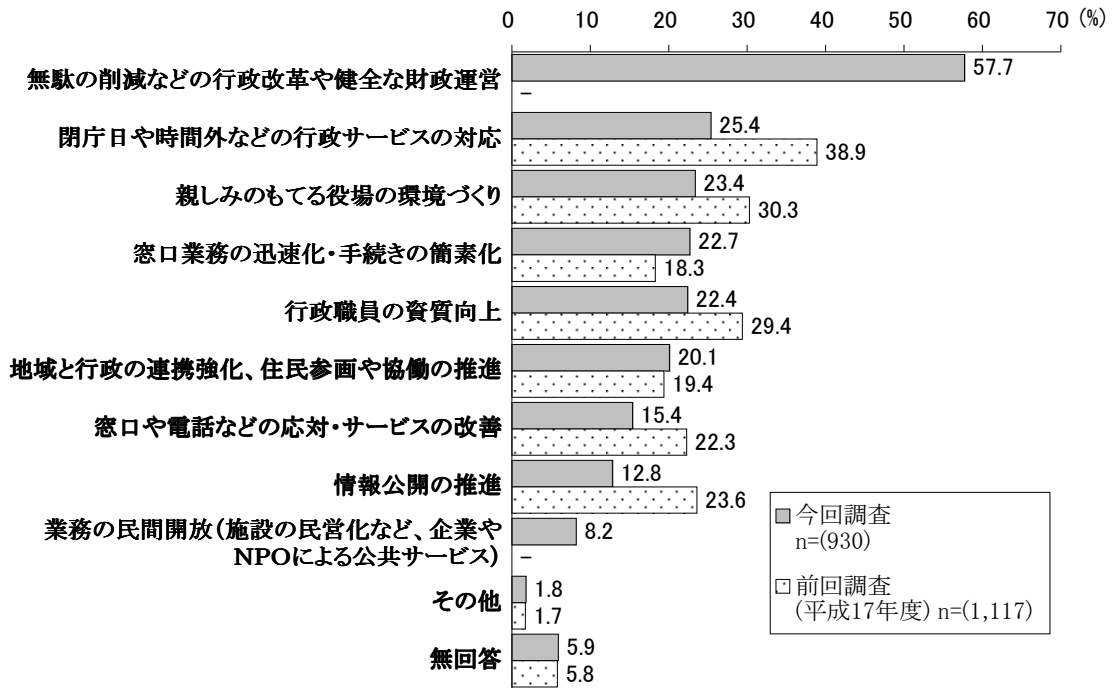
問15 あなたは、三芳町の行政運営に対して特にどのようなことを望みますか。次の中から選んで番号に○をつけてください。(複数回答可)

図4-13



三芳町の行政運営に対する要望は、「無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営」が57.7%で最も多く、以下、「閉庁日や時間外などの行政サービスの対応」(25.4%)、「親しみもてる役場の環境づくり」(23.4%)、「行政職員の資質向上」(22.4%)、「地域と行政の連携強化、住民参画や協働の推進」(20.1%)が2割台で続いている(図4-13)。

図4-14 経年比較 行政運営に対する要望



※「無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営」、「業務の民間開放」は今回調査から
 「窓口業務の迅速化・手続きの簡素化」は、前回調査では「窓口業務の迅速化」
 「地域と行政の連携強化、住民参画や協働の推進」は、前回調査では「地域と行政の連携強化」
 「窓口や電話などの対応・サービスの改善」は、前回調査では「窓口業務や電話などの対応・サービスの改善」
 「業務の民間開放（施設の民営化など、企業やNPOによる公共サービス）」は今回調査から

前回調査（平成17年度）と比較すると、今回新設の「無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営」の要望が57.7%と際立っており、他の項目では減少しているものが多い。その中で、「窓口業務の迅速化・手続きの簡素化」はやや増加している（図4-14）。

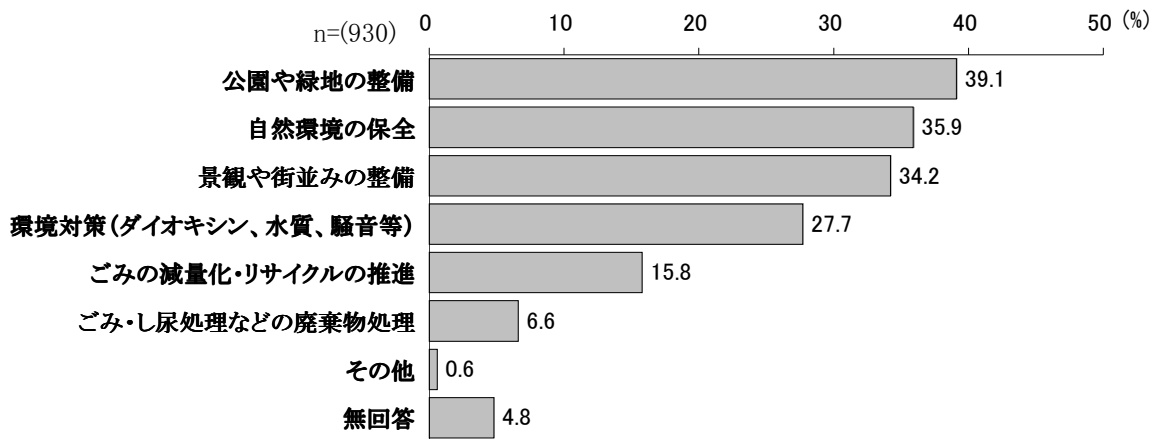
(7) 力を入れるべき施策

「環境」

◇「公園や緑地の整備」が39.1%で最も多い

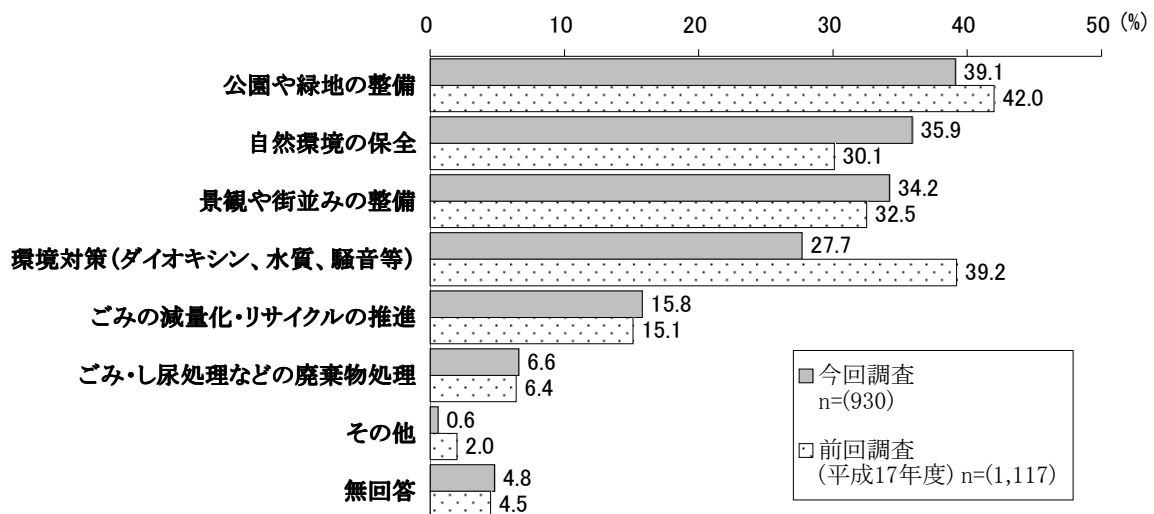
問16 三芳町を一層住みやすい町にするためには、今後どのような施策に力を入れるべきだと思いますか。それぞれの分野ごとに2つ以内を選んで、番号に○をつけてください。

図4-15



三芳町が今後力を入れるべき環境分野の施策は、「公園や緑地の整備」が39.1%で最も多く、以下、「自然環境の保全」(35.9%)、「景観や街並みの整備」(34.2%)、「環境対策(ダイオキシン、水質、騒音等)」(27.7%)と続いている(図4-15)。

図4-16 経年比較 力を入れるべき施策「環境」



前回調査(平成17年度)と比較すると、「環境対策(ダイオキシン、水質、騒音等)」(27.7%)は前回39.2%から12ポイント減少、「自然環境の保全」(35.9%)は前回30.1%から6ポイント増加している(図4-16)。

図4-17 地区別 力を入れるべき施策「環境」(上位5項目)

(%)

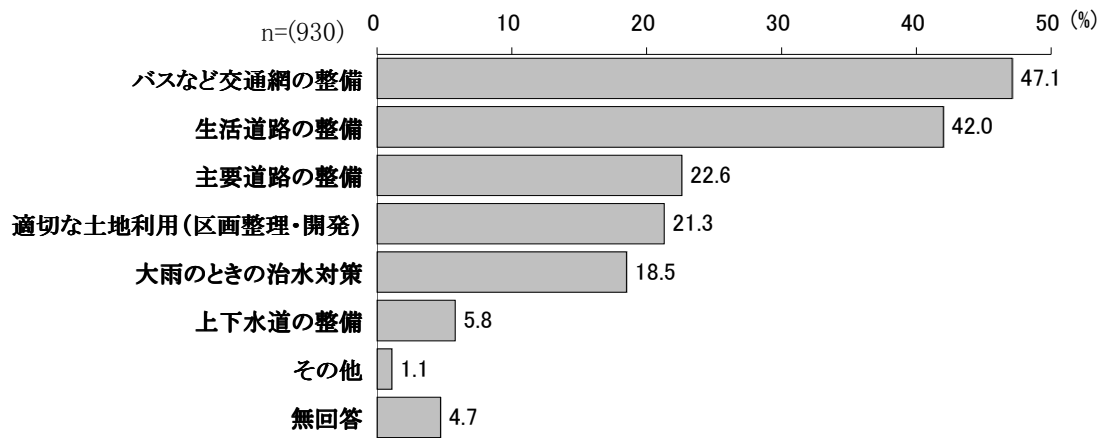
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 n=930	公園や緑地の整備 39.1	自然環境の保全 35.9	景観や街並みの整備 34.2	環境対策 27.7	ごみの減量化・リサイクルの推進 15.8
上富地区 n=87	自然環境の保全 43.7	公園や緑地の整備 39.1	環境対策 24.1	景観や街並みの整備 20.7	ごみの減量化・リサイクルの推進 17.2
北永井地区 n=170	自然環境の保全 39.4	公園や緑地の整備 35.3	景観や街並みの整備 34.1	環境対策 31.2	ごみの減量化・リサイクルの推進 12.4
藤久保地区 n=513	公園や緑地の整備 42.1	景観や街並みの整備 37.0	自然環境の保全 33.9	環境対策 26.3	ごみの減量化・リサイクルの推進 15.4
竹間沢地区 n=93	公園や緑地の整備 36.6	環境対策 32.3	景観や街並みの整備 31.2	自然環境の保全 28.0	ごみの減量化・リサイクルの推進 21.5
みよし台地区 n=62	自然環境の保全 46.8	景観や街並みの整備 35.5	公園や緑地の整備 29.0	環境対策 27.4	ごみの減量化・リサイクルの推進 17.7

地区別にみると、「自然環境の保全」は多くの地区で上位にあげられているが、みよし台地区をはじめ、上富地区、北永井地区では「公園や緑地の整備」よりも「自然環境の保全」、藤久保地区、竹間沢地区では逆に「自然環境の保全」よりも「公園や緑地の整備」が重視されている。また、上富地区では、「景観や街並みの整備」が他の地区と比べて低い(図4-17)。

「都市整備」

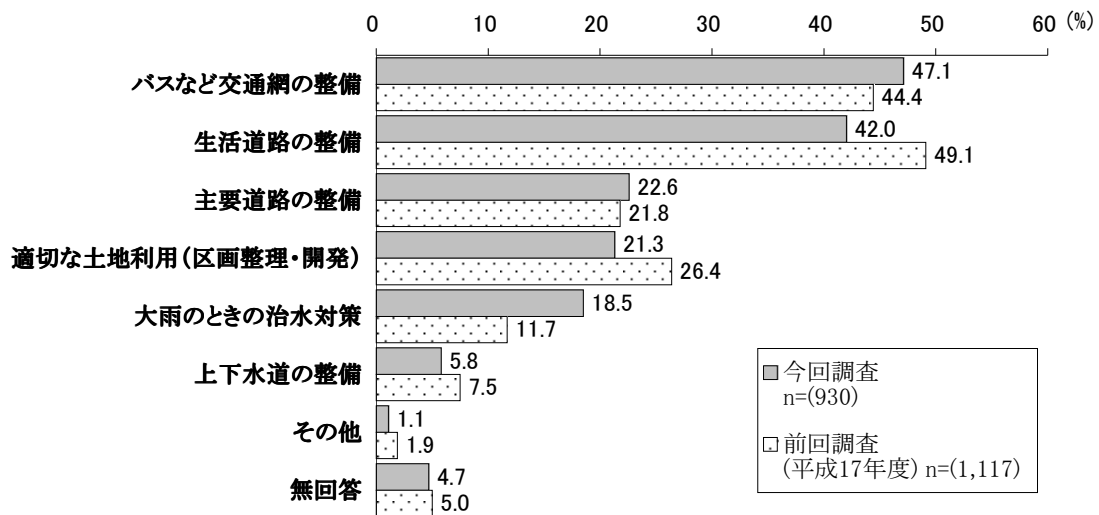
◇「バスなど交通網の整備」、「生活道路の整備」が4割台

図4-18



今後力を入れるべき都市整備分野の施策は、「バスなど交通網の整備」(47.1%)、「生活道路の整備」(42.0%)の2項目が4割台で多くっており、以下、「主要道路の整備」(22.6%)、「適切な土地利用(区画整理・開発)」(21.3%)、「大雨のときの治水対策」(18.5%)と続いている(図4-18)。

図4-19 経年比較 力を入れるべき施策「都市整備」



※「主要道路の整備」は、前回調査では「幹線道路の整備」

前回調査(平成17年度)と比較すると、「生活道路の整備」と「適切な土地利用(区画整理・開発)」は前回から5ポイント以上減少、「大雨のときの治水対策」(18.5%)は、前回11.7%から7ポイント増加している(図4-19)。

図4-20 地区別 力を入れるべき施策「都市整備」(上位5項目)

(%)

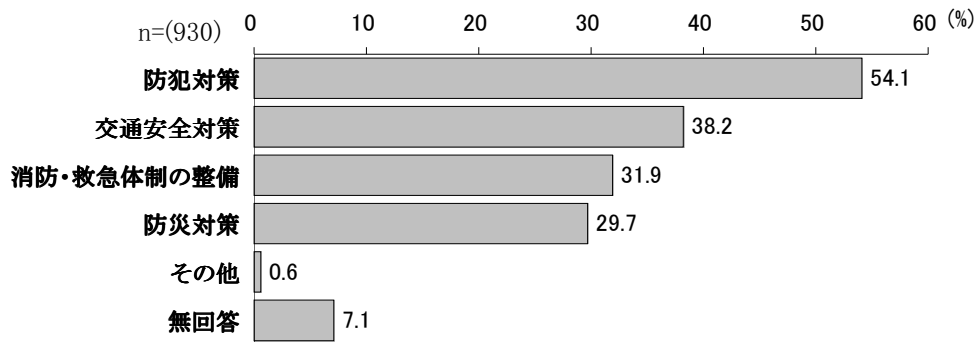
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 n=930	バスなど交通網の整備 47.1	生活道路の整備 42.0	主要道路の整備 22.6	適切な土地利用 21.3	大雨のときの治水対策 18.5
上富地区 n=87	バスなど交通網の整備 51.7	生活道路の整備 33.3	適切な土地利用 23.0	主要道路の整備 16.1	上下水道の整備/大雨のときの治水対策 13.8
北永井地区 n=170	バスなど交通網の整備 61.8	生活道路の整備 43.5	大雨のときの治水対策 21.2	主要道路の整備 18.2	適切な土地利用 15.3
藤久保地区 n=513	生活道路の整備 41.5	バスなど交通網の整備 40.7	主要道路の整備 26.1	適切な土地利用 21.2	大雨のときの治水対策 20.5
竹間沢地区 n=93	生活道路の整備 50.5	バスなど交通網の整備 46.2	適切な土地利用 25.8	主要道路の整備 24.7	大雨のときの治水対策 8.6
みよし台地区 n=62	バスなど交通網の整備 53.2	生活道路の整備 41.9	適切な土地利用 29.0	大雨のときの治水対策 16.1	主要道路の整備 12.9

地区別にみると、「バスなど交通網の整備」、「生活道路の整備」が各地区で多く、特に「バスなど交通網の整備」は、北永井地区(61.8%)で6割を超え、みよし台地区、上富地区でも5割台となっている。竹間沢地区では「生活道路の整備」(50.5%)が5割と多くなっている(図4-20)。

「安全」

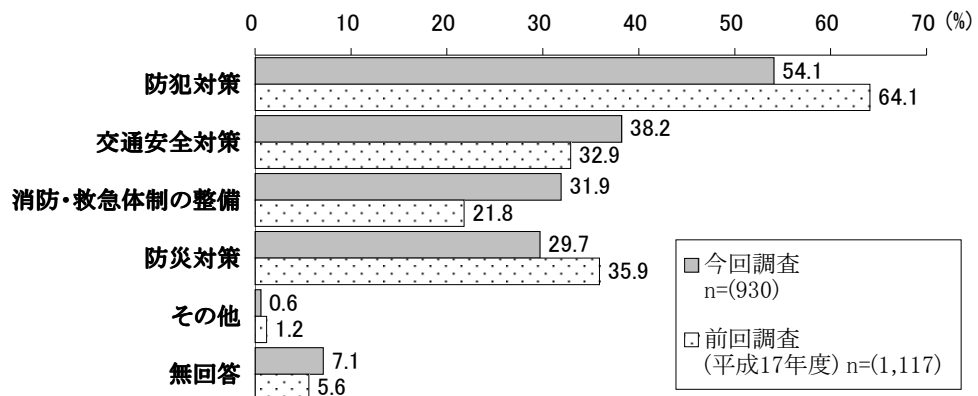
◇「防犯対策」が54.1%で最も多い

図 4-21



今後力を入れるべき安全分野の施策は、「防犯対策」が54.1%で最も多く、以下、「交通安全対策」(38.2%)が4割弱、「消防・救急体制の整備」(31.9%)と「防災対策」(29.7%)が3割前後で続いている(図4-21)。

図 4-22 経年比較 力を入れるべき施策「安全」



前回調査(平成17年度)と比較すると、「防犯対策」(54.1%)と「防災対策」(29.7%)が大きく減少し、「消防・救急体制の整備」(31.9%)と「交通安全対策」(38.2%)が増加している(図4-22)。

図 4-23 地区別 力を入れるべき施策「安全」(上位4項目)

(%)

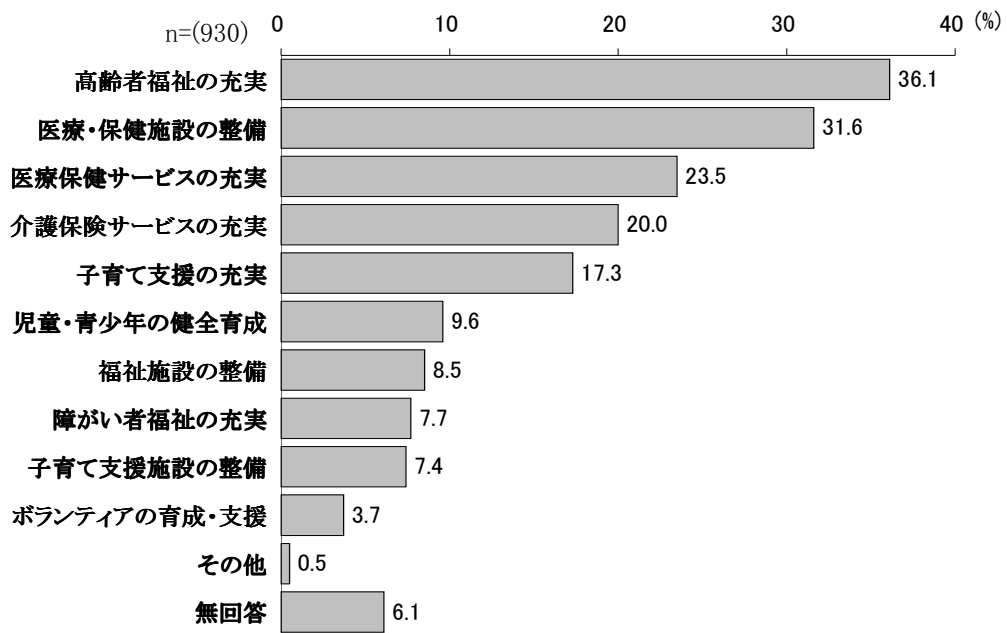
	第1位	第2位	第3位	第4位
全体 n=930	防犯対策 54.1	交通安全対策 38.2	消防・救急体制の 整備 31.9	防災対策 29.7
上富地区 n=87	防犯対策 50.6	交通安全対策 41.4	防災対策 27.6	消防・救急体制の 整備 26.4
北永井 地区 n=170	防犯対策 54.1	交通安全対策 40.0	消防・救急体制の 整備 30.6	防災対策 28.2
藤久保 地区 n=513	防犯対策 53.2	交通安全対策 37.4	消防・救急体制の 整備 33.9	防災対策 30.4
竹間沢 地区 n=93	防犯対策 55.9	交通安全対策 40.9	防災対策 29.0	消防・救急体制の 整備 25.8
みよし台 地区 n=62	防犯対策 62.9	消防・救急体制の 整備 35.5	防災対策／交通安全対策 32.3	

地区別にみても、大きな差はなく、「防犯対策」、「交通安全対策」が各地区共通で重視されている。また、「防犯対策」は、みよし台地区で62.9%と特に多くなっている(図4-23)。

「福祉」

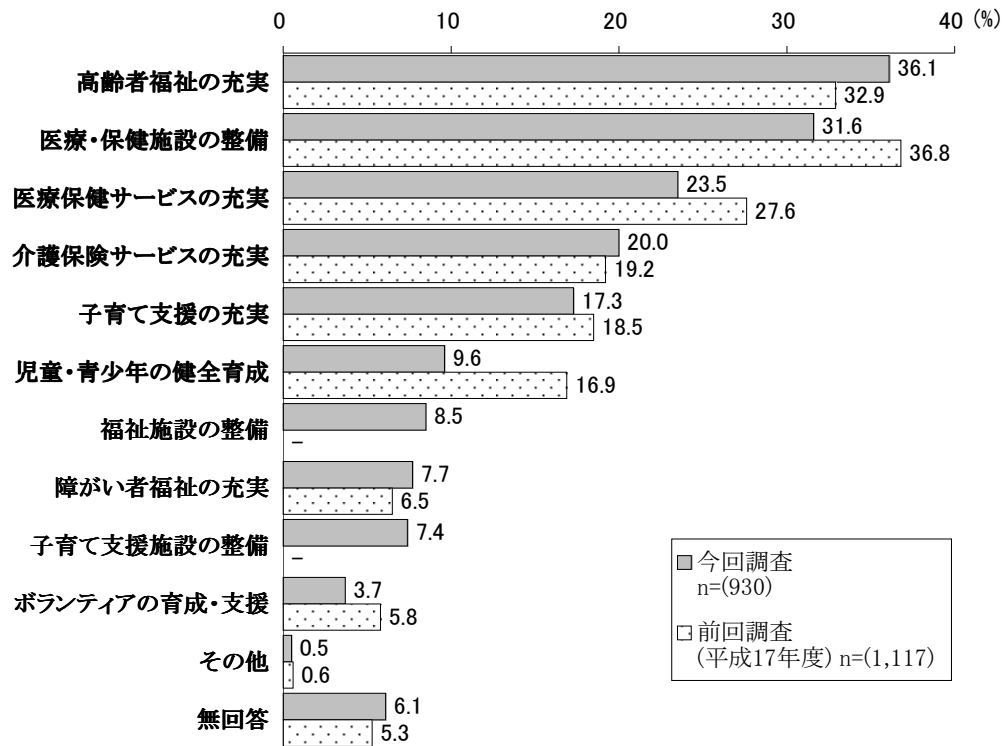
◇ 「高齢者福祉の充実」が36.1%で最も多い

図4-24



今後力を入れるべき福祉分野の施策は、「高齢者福祉の充実」が36.1%で最も多く、以下、「医療・保健施設の整備」(31.6%)、「医療保健サービスの充実」(23.5%)、「介護保険サービスの充実」(20.0%)、「子育て支援の充実」(17.3%)と続いている(図4-24)。

図4-25 経年比較 力を入れるべき施策「福祉」



※「福祉施設の整備」、「子育て支援施設の整備」は今回調査から

前回調査（平成17年度）と比較すると、「医療・保健施設の整備」や「医療保健サービスの充実」で減少し、「高齢者福祉の充実」が増加している。また、「児童・青少年の健全育成」（9.6%）は前回16.9%から7ポイント減少している（図4-25）。

図 4-26 地区別 力を入れるべき施策「福祉」(上位5項目)

(%)

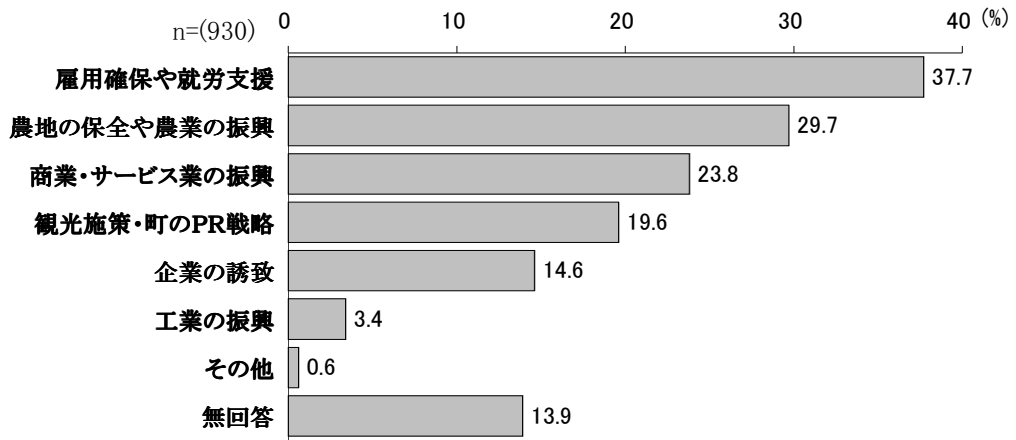
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 n=930	高齢者福祉の充実 36.1	医療・保健施設の整備 31.6	医療保健サービスの充実 23.5	介護保険サービスの充実 20.0	子育て支援の充実 17.3
上富地区 n=87	高齢者福祉の充実 35.6	医療・保健施設の整備 32.2	介護保険サービスの充実 24.1	医療保健サービスの充実 18.4	障がい者福祉の充実 11.5
北永井地区 n=170	高齢者福祉の充実 37.6	医療保健サービスの充実 28.8	医療・保健施設の整備 27.1	介護保険サービスの充実 19.4	子育て支援の充実 17.1
藤久保地区 n=513	高齢者福祉の充実 34.7	医療・保健施設の整備 33.3	医療保健サービスの充実 23.2	介護保険サービスの充実 20.1	子育て支援の充実 17.7
竹間沢地区 n=93	医療・保健施設の整備 32.3	高齢者福祉の充実 30.1	子育て支援の充実 24.7	介護保険サービスの充実 18.3	医療保健サービスの充実 17.2
みよし台地区 n=62	高齢者福祉の充実 53.2	医療保健サービスの充実 30.6	医療・保健施設の整備 27.4	子育て支援の充実／ 介護保険サービスの充実 17.7	

地区別にみると、竹間沢地区を除くすべての地区で「高齢者福祉の充実」が1位となり、特にみよし台地区では53.2%と多くなっている。また、2・3位には「医療・保健施設の整備」と「医療保健サービスの充実」が多くあげられているが、上富地区、藤久保地区、竹間沢地区では「医療・保健施設の整備」が、北永井地区、みよし台地区では「医療保健サービスの充実」がより多くあげられている。一方、竹間沢地区では「医療・保健施設の整備」が1位、「子育て支援の充実」が3位となっており、他の地区とは要望の力点が異なっている(図4-26)。

「産業経済」

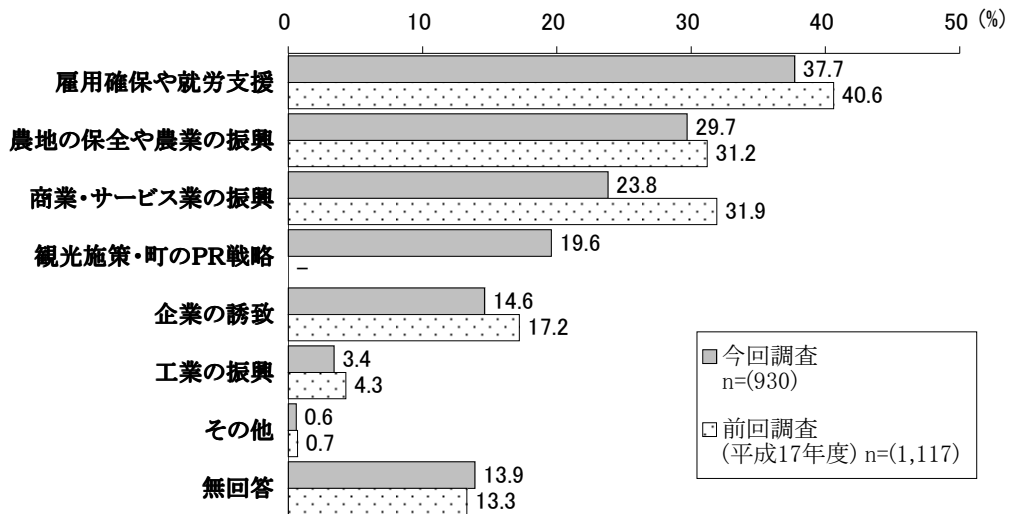
◇「雇用確保や就労支援」が37.7%で最も多い

図4-27



今後力を入れるべき産業経済分野の施策は、「雇用確保や就労支援」が37.7%で最も多く、以下、「農地の保全や農業の振興」(29.7%)、「商業・サービス業の振興」(23.8%)と続いている(図4-27)。

図4-28 経年比較 力を入れるべき施策「産業経済」



※「観光施策・町のPR戦略」は今回調査から

前回調査(平成17年度)と比較すると、「商業・サービス業の振興」(23.8%)は前回31.9%から8ポイント減少している(図4-28)。

図4-29 地区別 力を入れるべき施策「産業経済」(上位5項目)

(%)

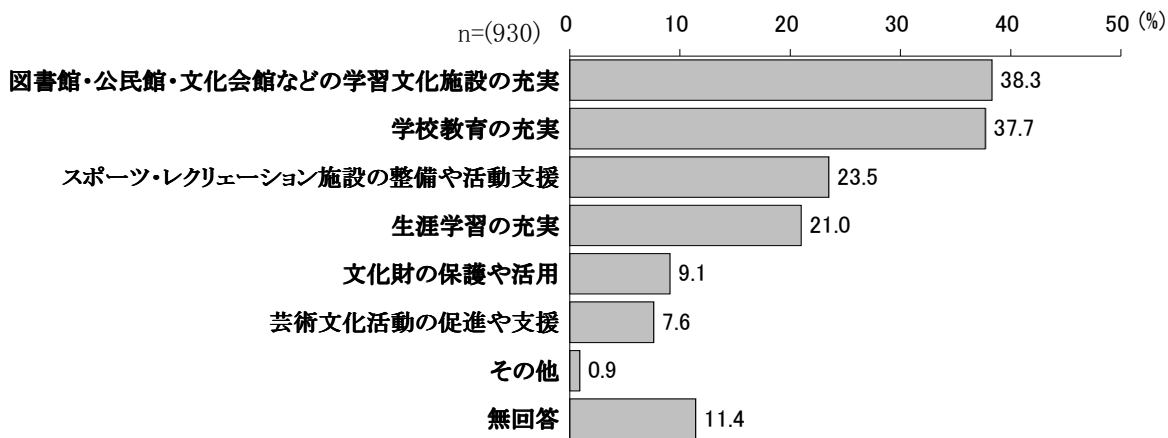
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 n=930	雇用確保や就労支援 37.7	農地の保全や農業の振興 29.7	商業・サービス業の振興 23.8	観光施策・町のPR戦略 19.6	企業の誘致 14.6
上富地区 n=87	雇用確保や就労支援 43.7	農地の保全や農業の振興 28.7	観光施策・町のPR戦略 27.6	商業・サービス業の振興 23.0	企業の誘致 12.6
北永井地区 n=170	雇用確保や就労支援 42.4	農地の保全や農業の振興 28.8	商業・サービス業の振興/ 観光施策・町のPR戦略 14.7		企業の誘致 12.4
藤久保地区 n=513	雇用確保や就労支援 37.4	農地の保全や農業の振興 28.7	商業・サービス業の振興 26.7	観光施策・町のPR戦略 18.9	企業の誘致 16.2
竹間沢地区 n=93	雇用確保や就労支援 32.3	農地の保全や農業の振興 31.2	商業・サービス業の振興 24.7	観光施策・町のPR戦略 19.4	企業の誘致 15.1
みよし台地区 n=62	農地の保全や農業の振興 40.3	雇用確保や就労支援 29.0	観光施策・町のPR戦略 27.4	商業・サービス業の振興 25.8	企業の誘致 11.3

地区別にみると、「雇用確保や就労支援」と「農地の保全や農業の振興」は各地区で1・2位を占める点は共通している。しかし、上富地区、北永井地区、および藤久保地区では「雇用確保や就労支援」が、みよし台地区では「農地の保全や農業の振興」が特に多くなっており、地区により重視する点が異なっている。また、「観光施策・町のPR戦略」については上富地区、みよし台地区では2割台で3位となっているが、藤久保地区、竹間沢地区ではむしろ「商業・サービス業の振興」への要望が高くなっている(図4-29)。

「教育・文化」

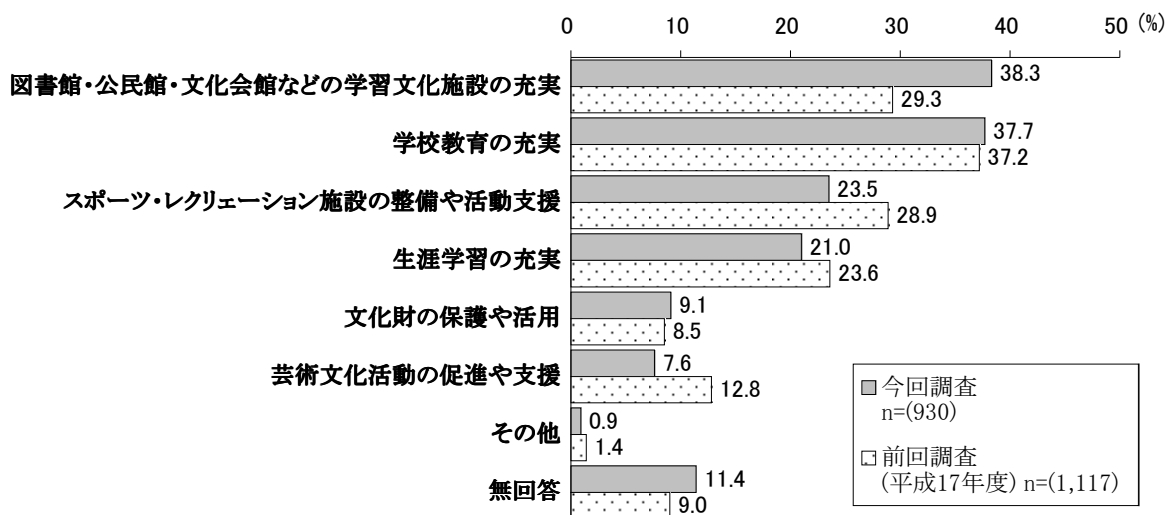
◇ 「図書館・公民館・文化会館などの学習文化施設の充実」、「学校教育の充実」が3割台

図4-30



今後力を入れるべき教育・文化分野の施策は、「図書館・公民館・文化会館などの学習文化施設の充実」(38.3%)、「学校教育の充実」(37.7%)の2項目が3割台で多く、以下、「スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援」(23.5%)、「生涯学習の充実」(21.0%)が2割台で続いている(図4-30)。

図4-31 経年比較 力を入れるべき施策「教育・文化」



※ 「図書館・公民館・文化会館などの学習文化施設の充実」は前回調査では「図書館・公民館の充実」

前回調査(平成17年度)と比較すると、「図書館・公民館・文化会館などの学習文化施設の充実」(38.3%)は前回29.3%から9ポイント増加している(図4-31)。

図4-32 地区別 力を入れるべき施策「教育・文化」(上位5項目)

(%)

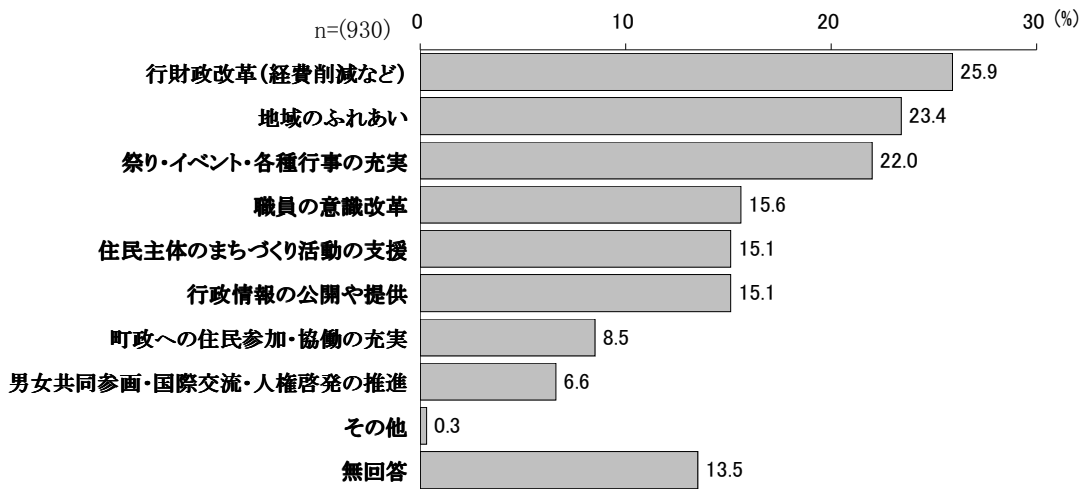
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 n=930	図書館・公民館・文化会館などの学習文化施設の充実 38.3	学校教育の充実 37.7	スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援 23.5	生涯学習の充実 21.0	文化財の保護や活用 9.1
上富地区 n=87	学校教育の充実 40.2	スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援 29.9	図書館・公民館・文化会館などの学習文化施設の充実 26.4	生涯学習の充実 23.0	文化財の保護や活用 12.6
北永井地区 n=170	学校教育の充実 37.1	図書館・公民館・文化会館などの学習文化施設の充実 34.7	スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援 22.9	生涯学習の充実 19.4	文化財の保護や活用 7.6
藤久保地区 n=513	図書館・公民館・文化会館などの学習文化施設の充実 41.1	学校教育の充実 38.2	スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援 22.2	生涯学習の充実 20.5	文化財の保護や活用 9.0
竹間沢地区 n=93	図書館・公民館・文化会館などの学習文化施設の充実 40.9	学校教育の充実 38.7	生涯学習の充実 23.7	スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援 22.6	芸術文化活動の促進や支援 6.5
みよし台地区 n=62	図書館・公民館・文化会館などの学習文化施設の充実 38.7	学校教育の充実 32.3	スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援 27.4	生涯学習の充実 24.2	文化財の保護や活用 14.5

地区別にみても全体で上位のものが各地区で上位項目となっているが、「図書館・公民館・文化会館などの学習文化施設の充実」は藤久保地区、竹間沢地区、みよし台地区で4割前後で1位にあげられているなど、地域により異なる要望もみられる(図4-32)。

「コミュニティ行財政」

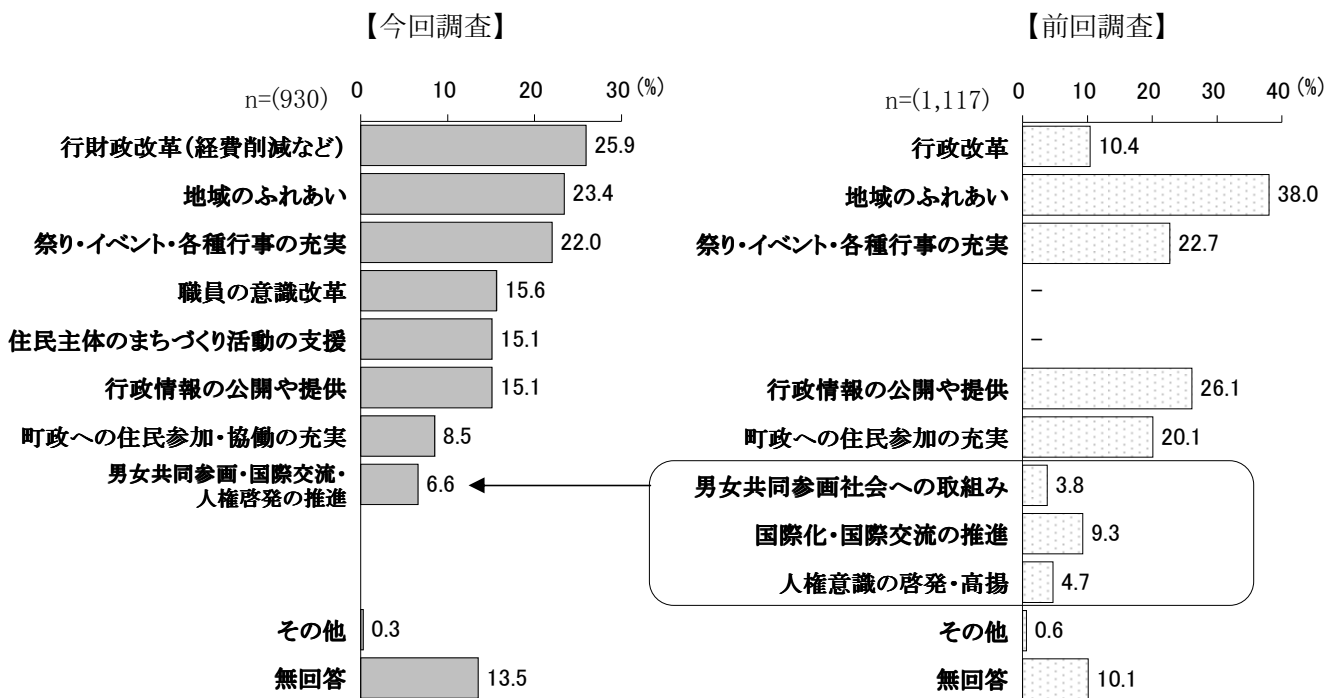
◇「行財政改革（経費削減など）」が25.9%で最も多い

図4-33



今後力を入れるべきコミュニティ行財政分野の施策は、「行財政改革（経費削減など）」（25.9%）、「地域のふれあい」（23.4%）、「祭り・イベント・各種行事の充実」（22.0%）の3項目が2割台で多くなっている。以下、「職員の意識改革」（15.6%）、「住民主体のまちづくり活動の支援」、「行政情報の公開や提供」（それぞれ15.1%）が1割台で続いている（図4-33）。

図4-34 経年比較 力を入れるべき施策「コミュニティ行財政」



※「職員の意識改革」、「住民主体のまちづくり活動の支援」は今回調査から

「男女共同参画社会への取り組み」、「国際化・国際交流の推進」、「人権意識の啓発・高揚」は今回調査では「男女共同参画・国際交流・人権啓発の推進」

前回調査（平成17年度）と比較すると、「行財政改革（経費削減など）」（25.9%）が前回10.4%から16ポイントと大きく増加している。問15の行政運営に対する要望とあわせて考えると、経費削減への要望の高さがうかがえる結果と言える（図4-34）。

図4-35 地区別 力を入れるべき施策「コミュニティ行財政」（上位5項目）

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 n=930	行財政改革 25.9	地域のふれあい 23.4	祭り・イベント・ 各種行事の充実 22.0	職員の意識改革 15.6	住民主体のまちづくり活動の支援／行政情報の公開や提供 15.1
上富地区 n=87	地域のふれあい 29.9	行財政改革 24.1	住民主体のまちづくり活動の支援 20.7	祭り・イベント・ 各種行事の充実 19.5	町政への住民参加・協働の充実 13.8
北永井地区 n=170	地域のふれあい 28.2	行財政改革 20.6	行政情報の公開や提供 20.0	祭り・イベント・ 各種行事の充実 17.6	職員の意識改革 15.9
藤久保地区 n=513	行財政改革 26.5	祭り・イベント・ 各種行事の充実 24.2	地域のふれあい 21.8	職員の意識改革 16.2	住民主体のまちづくり活動の支援 15.2
竹間沢地区 n=93	祭り・イベント・各種行事の充実／ 行財政改革 28.0		地域のふれあい 21.5	職員の意識改革 15.1	行政情報の公開や提供 12.9
みよし台地区 n=62	行財政改革 35.5	住民主体のまちづくり活動の支援 22.6	職員の意識改革 19.4	地域のふれあい／行政情報の公開や提供 17.7	

地区別にみると、藤久保地区、竹間沢地区、みよし台地区では「行財政改革（経費削減など）」が、上富地区、北永井地区では「地域のふれあい」が1位となっており、地区により重視する点は異なっている。また、藤久保地区と竹間沢地区では「祭り・イベント・各種行事の充実」がより上位に入っている（図4-35）。

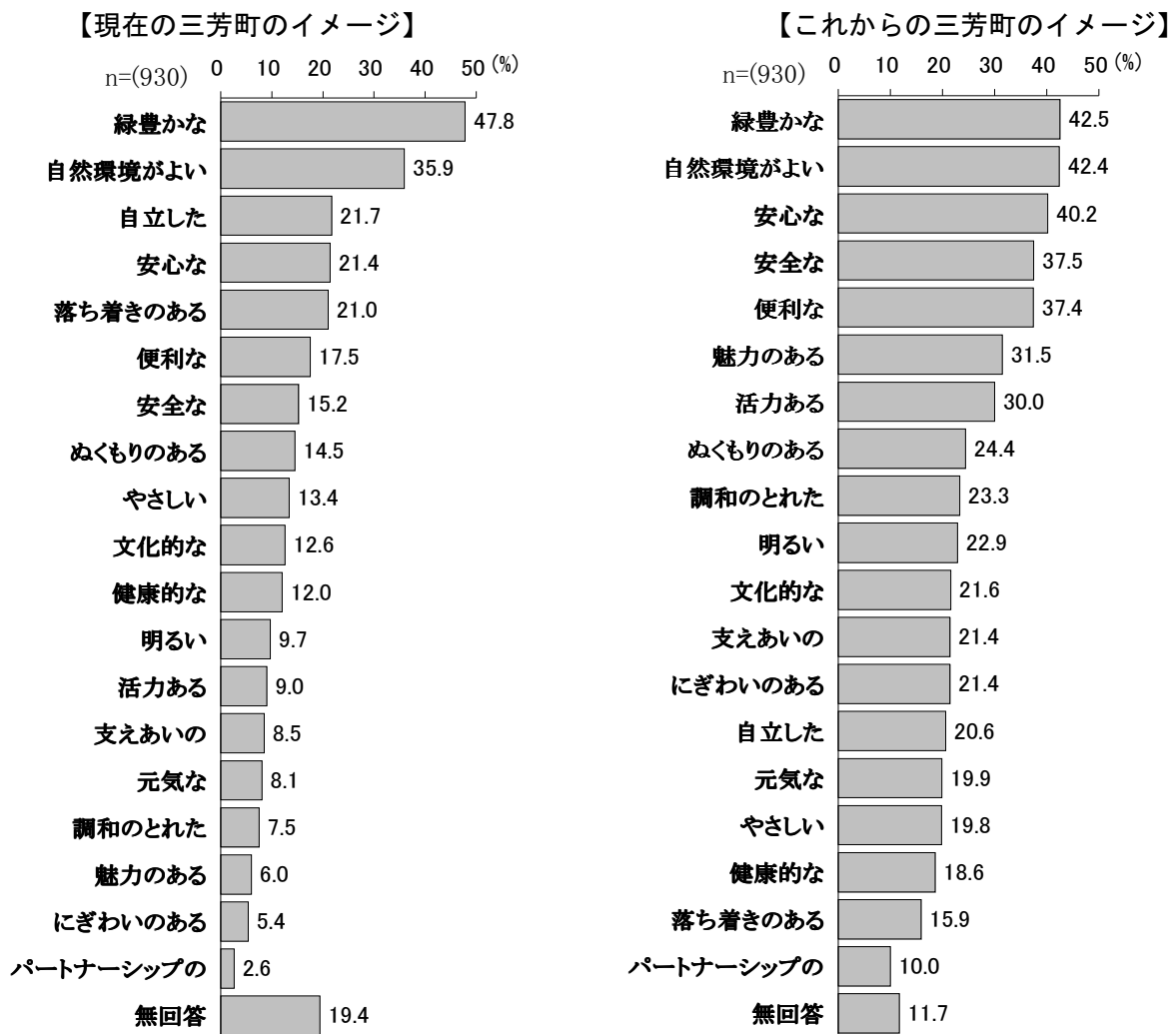
5 町の将来イメージ

(1) 現在の三芳町のイメージとこれからの三芳町のイメージ

◇現在も、これからも「緑豊かな」が1位、「自然環境がよい」が2位にあげられている

問17 あなたが考える三芳町のイメージとして、「現在のイメージ」と、将来期待する「これからのイメージ」について、それぞれ次の言葉の中から近いものを選んで○をつけてください。（複数回答可）また、具体的な将来イメージもご記入ください。

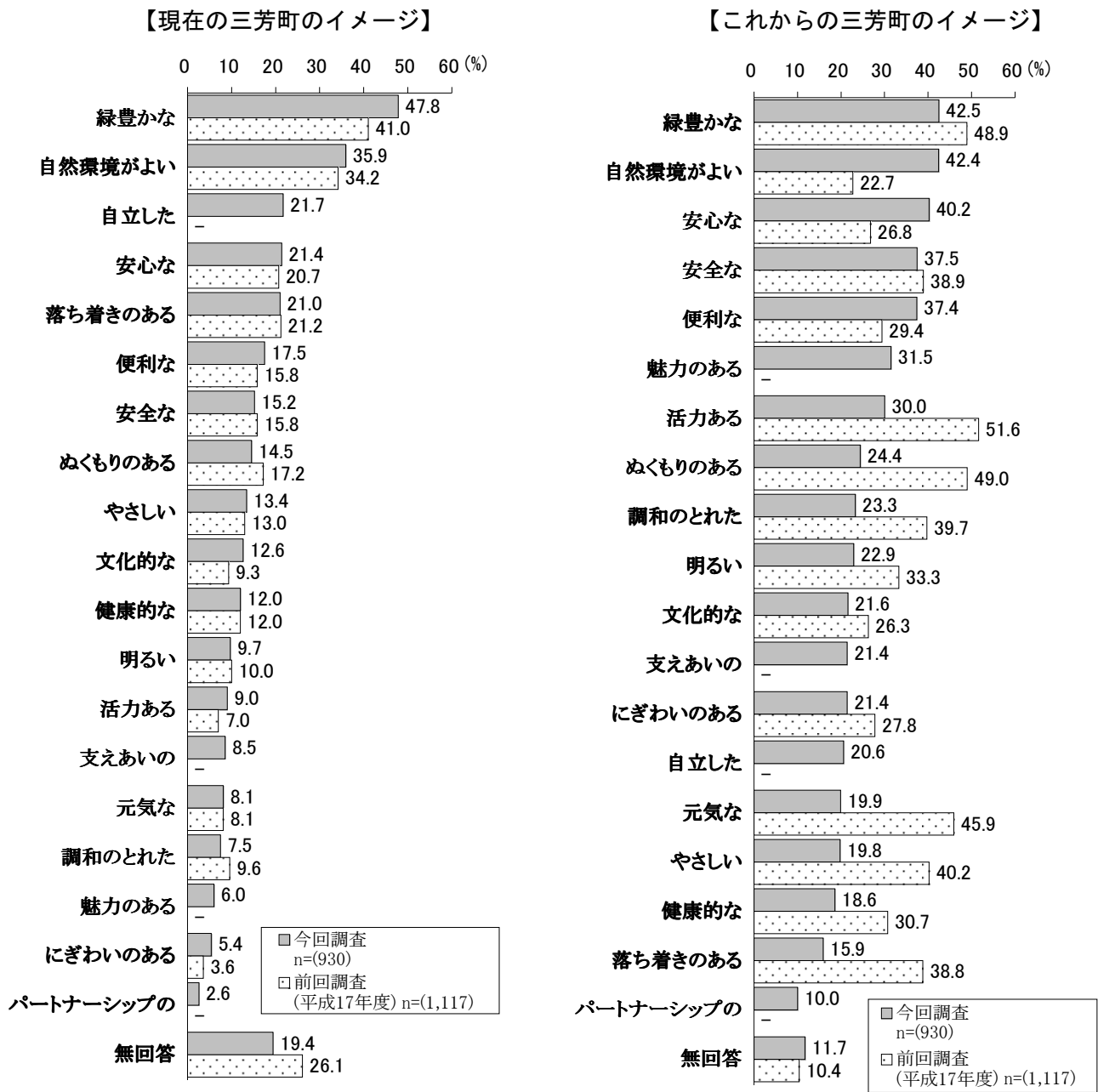
図5-1



現在の三芳町のイメージは、「緑豊かな」が47.8%で最も多く、「自然環境がよい」が35.9%で続いている。

これからのイメージは、1位、2位は現在のイメージと同様に「緑豊かな」(42.5%)と「自然環境がよい」(42.4%)がほぼ同率で多くなっており、現在もこれからもこのイメージであってほしいという願いがあらわれている。この他では、「安心な」(40.2%)、「安全な」(37.5%)、「便利な」(37.4%)などが3割台で続いている(図5-1)。

図5-2 経年比較 町の現在のイメージと期待するこれからのイメージ



※「自立した」、「支えあいの」、「魅力のある」、「パートナーシップの」は今回調査から

前回調査（平成17年度）と比較すると、現在の三芳町のイメージについては、順位に大きな変化はなく、「緑豊かな」は前回41.0%から7ポイント増加している。

これからの三芳町のイメージについては、「自然環境がよい」（42.4%）と「安心な」（40.2%）が前回から大きく上昇している。一方、「元気な」、「ぬくもりのある」、「落ち着いたある」、「活力のある」、「やさしい」などは20ポイント以上減少しており、より具体的なイメージが上位となった（図5-2）。

【具体的な将来のイメージ】－ 5件以上の回答を抽出掲載

緑（自然）の多い町	66
誰もが安全・安心に暮らせるまち	33
今ある自然、緑の保護	28
活気のある、明るいまち	28
福祉が充実しているまち	26
歩道の確保、整備（段差をなくすなど）	26
自然と調和のとれたまち	22
公園の充実・整備	22
交通機関の発達	20
農業、地場産業の充実・拡大	19
大型店・商業施設、娯楽施設の誘致、商店街の活性化	19
やすらぐ、なごむ、ホッとする、ゆったりするまち	17
住民同士が助け合い、ふれあいのあるまち	16
道路整備（街路樹の整備含む）	16
子育て環境の充実	12
合併しない	12
調和のとれた、バランスのよいまち	11
人にやさしい、思いやりのあるまち	10
文化・教育の充実	9
子どもたちが元気に育つまち	8
住みやすい、住んでいてよかったまち	8
交通安全に配慮されたまち	7
清潔な町、ゴミがない、土埃がない	7
伝統や文化を大切にする	7
路線バスの整備、増発	7
行財政改革を行う、無駄遣いをなくす	7
道路の拡幅	5
土地の有効利用	5

(2) 三芳町の誇りや宝、シンボル等

問18 三芳町の郷土の誇りや宝、シンボルなどについて、あなたはどのように思いますか。次の(1)から(5)の項目について、代表的なものを1つずつ回答欄に記入してください。

5件以上の回答を抽出掲載

(1) 三芳町の誇り・宝

自然(環境)	69
雑木林(緑)	62
三富新田	41
農業、農産物	34
田畑	31
多福寺	19
住みやすい環境	16
祭り・花火	15
櫛並木	12
文化(財)、史跡	11
町民、子ども	9
車人形	9
上富	8
「町」であることの良さ	8
川越街道やその並木	6
役場	6
歴史民俗資料館	6
武蔵野	6
歴史	5
健全な財政運営	5

(2) 来訪者を案内する町内の場所

多福寺	75
役場	30
歴史民俗資料館	24
UNICS三芳(ヤオコー含む)	21
三芳PA/スマートIC	20
三富新田	19
櫛並木	14
上富	13
田畑	11

こぶしの里	10
文化会館（コピス三芳）	10
旧家	8
雑木林	8
公共施設	7
埼玉スポーツセンター	7
祭り、花火	5

※「多聞院」（7件）という意見もあげられていたが、三芳町ではないので、表示せず

(3) 三芳町のお土産として利用するもの

さつまいも	225
お茶	39
野菜	35
さつまいもの加工品（芋菓子）	29
シュークリーム	19
農作物	11
くらづくり本舗のお菓子	11
お菓子	11
そば	11
里芋	9
ビール	8

(4) 三芳町の象徴（シンボル）

欒並木	49
役場	41
自然・緑・風景	30
田畑	28
みらいくん	18
雑木林（緑）	18
さつまいも	15
花	13
三芳PA／スマートIC	13
文化会館（コピス三芳）	11
三富新田	10
川越街道の並木	6
祭り・花火	6
土埃	5
野菜	5

(5) 三芳町の色（シンボルカラー）

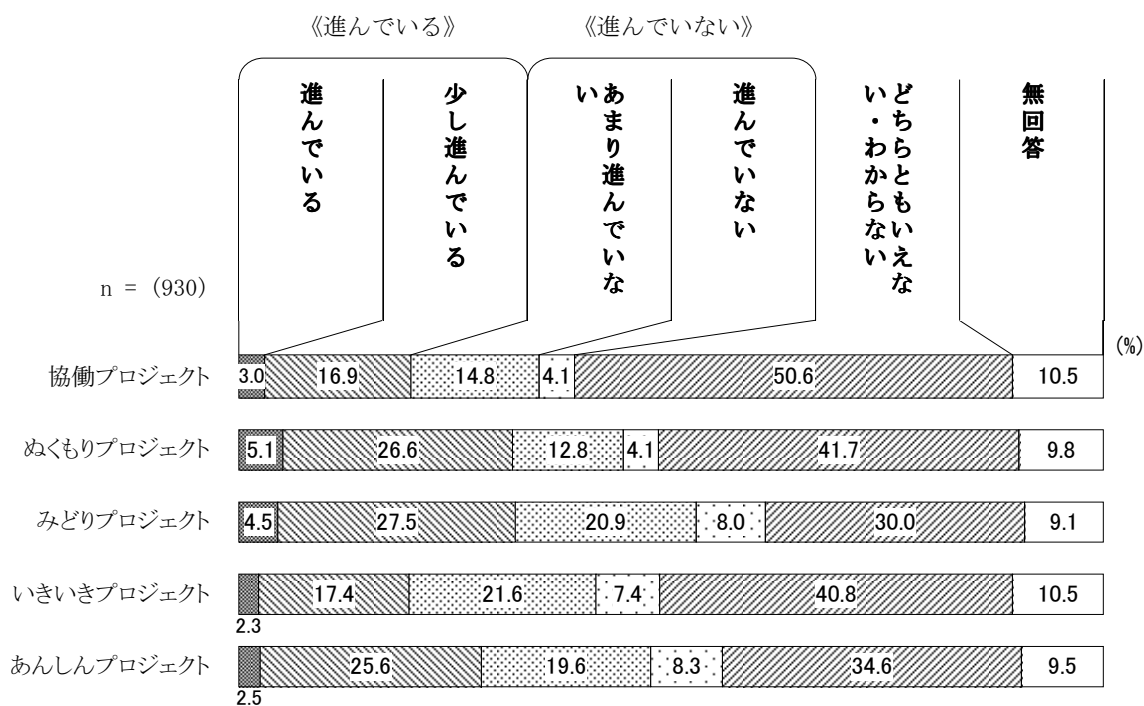
緑	322
黄	22
黄緑／ライトグリーン	21
茶色	17
オレンジ	13
青／水色／ライトブルー	15
白／グレー・灰色	6
ピンク	6
紫	5
紅色	5

(3) 第4次総合振興計画の重点施策の進捗状況について

- ◇ “みどりプロジェクト”、“ぬくもりプロジェクト”で《進んでいる》が3割台
- “いきいきプロジェクト”、“みどりプロジェクト”で《進んでいない》が3割弱

問19 下記の第4次総合振興計画の重点施策について、どの程度進んでいると感じますか。それぞれあなたの考えに最も近いものひとつに○をつけてください。

図5-3



協働プロジェクト	(住民参画、民間活力導入、情報公開など)
ぬくもりプロジェクト	(地域の健康福祉、子育て支援、住民窓口など)
みどりプロジェクト	(公園整備、緑の保全活動、環境美化、リサイクル)
いきいきプロジェクト	(産業活性化、都市基盤整備、観光、教育文化など)
あんしんプロジェクト	(防犯、防災、交通、バリアフリーなど)

第4次総合振興計画の重点施策がどの程度進んでいると感じるかを《進んでいる》(「進んでいる」+「少し進んでいる」)で整理すると、“みどりプロジェクト”(32.0%)と“ぬくもりプロジェクト”(31.7%)で3割台、“あんしんプロジェクト”(28.1%)も3割近くとなっている。ただし、“みどりプロジェクト”と“あんしんプロジェクト”は《進んでいない》が《進んでいる》とほぼ並んでおり、評価が2分している。また、“協働プロジェクト”も両者とも2割で並び、「どちらともいえない・わからない」が5割に達している。一方、“いきいきプロジェクト”は《進んでいない》が3割近い(図5-3)。

各プロジェクト間の比較をより単純にするために、下記の計算式のように、5段階の評価に点数を与え、各項目の平均評価点を算出した。

算出方法	「進んでいる」の回答数×2点
	「少し進んでいる」の回答数×1点
	「どちらともいえない」の回答数×0点
	「あまり進んでいない」の回答数×▲1点
	「進んでいない」の回答数×▲2点
評価点＝	$\frac{\text{「進んでいる」の回答数} \times 2 + \text{「少し進んでいる」の回答数} \times 1 + \text{「どちらともいえない」の回答数} \times 0 + \text{「あまり進んでいない」の回答数} \times (-1) + \text{「進んでいない」の回答数} \times (-2)}{\text{回答者数 (無回答を除く)}}$

この算出方法では、評価点は+2.00点から▲2.00点の間に分布し、0.00点が中間値である。+2.00点に近いほど評価は高く、逆に▲2.00点に近いほど評価は低いことになる。

図5-4 居住地区別、年代別
第4次総合振興計画の重点施策の進捗状況について／平均評価点

		協働プロジェクト (住民参画、民間活力導入、 情報公開など)	ぬくもりプロジェクト (地域の健康福祉、子育て支 援、住民窓口など)	みどりプロジェクト (公園整備、緑の保全活動、 環境美化、リサイクル)	いきいきプロジェクト (産業活性化、都市基盤整 備、観光、教育文化など)	あんしんプロジェクト (防犯、防災、交通、バリア フリーなど)
全 体		-0.00	0.17	-0.00	-0.16	-0.06
居住地区別	上富地区	0.15	0.29	0.35	0.14	0.09
	北永井地区	-0.01	0.21	0.01	-0.03	-0.03
	藤久保地区	0.02	0.20	-0.07	-0.23	-0.07
	竹間沢地区	-0.11	0.14	0.10	-0.21	-0.18
	みよし台地区	-0.12	-0.28	-0.15	-0.28	-0.13
年代別	20歳代	0.08	0.18	0.08	-0.31	0.06
	30歳代	-0.04	0.08	-0.09	-0.23	-0.07
	40歳代	-0.06	0.17	-0.11	-0.24	-0.18
	50歳代	-0.13	0.05	-0.16	-0.17	-0.24
	60歳代	-0.03	0.15	0.03	-0.12	0.04
	70歳代	0.17	0.42	0.21	-0.03	-0.04
	80歳以上	0.39	0.46	0.39	0.11	0.07

プロジェクト全体で見ると、「ぬくもりプロジェクト」が0.17点で最も高く、「いきいきプロジェクト」がマイナス0.16で最も低い。他の項目は中間点に近い評価となっている。

図5-4 居住地区別、年代別

第4次総合振興計画の重点施策の進捗状況について／平均評価点（再掲）

		協働プロジェクト (住民参画、民間活力導入、 情報公開など)	ぬくもりプロジェクト (地域の健康福祉、子育て支 援、住民窓口など)	みどりプロジェクト (公園整備、緑の保全活動、 環境美化、リサイクル)	いきいきプロジェクト (産業活性化、都市基盤整 備、観光、教育文化など)	あんしんプロジェクト (防犯、防災、交通、バリア フリーなど)
全 体		-0.00	0.17	-0.00	-0.16	-0.06
居住地区別	上富地区	0.15	0.29	0.35	0.14	0.09
	北永井地区	-0.01	0.21	0.01	-0.03	-0.03
	藤久保地区	0.02	0.20	-0.07	-0.23	-0.07
	竹間沢地区	-0.11	0.14	0.10	-0.21	-0.18
	みよし台地区	-0.12	-0.28	-0.15	-0.28	-0.13
年代別	20歳代	0.08	0.18	0.08	-0.31	0.06
	30歳代	-0.04	0.08	-0.09	-0.23	-0.07
	40歳代	-0.06	0.17	-0.11	-0.24	-0.18
	50歳代	-0.13	0.05	-0.16	-0.17	-0.24
	60歳代	-0.03	0.15	0.03	-0.12	0.04
	70歳代	0.17	0.42	0.21	-0.03	-0.04
	80歳以上	0.39	0.46	0.39	0.11	0.07

居住地区別にみると、上富地区では各プロジェクトへの評価が高く、いずれも中間点を上回るプラス評価となっている。特に「みどりプロジェクト」は0.35点、「ぬくもりプロジェクト」は0.29点と他の地区を大きく上回る評価となっている。一方、みよし台地区では逆に全プロジェクトがマイナス点となっており厳しい評価がなされている。特に「ぬくもりプロジェクト」と「いきいきプロジェクト」はマイナス0.28点となっている。この他、「いきいきプロジェクト」は藤久保地区と竹間沢地区でもマイナス0.2点台の評価となっている。

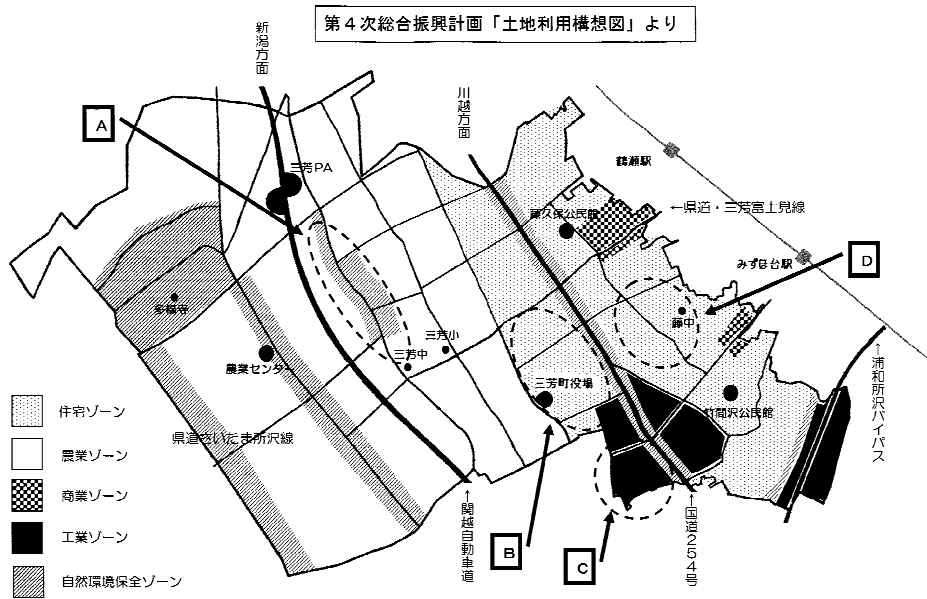
年代別にみると、全体として70歳代以上では各プロジェクトへの評価が高いが、50歳代までは比較的厳しい評価が下されており、年代により評価が異なるものが多い。各年代がプラス評価となっている「ぬくもりプロジェクト」も80歳以上の0.46点に対して、50歳代では0.05点と中間点に近づいている。最も評価が分かれているのが「いきいきプロジェクト」であり、40歳代まではマイナス0.2点以下、特に20歳代ではマイナス0.31点と厳しい。また、「あんしんプロジェクト」は40・50歳代ではマイナス0.2点前後の評価にとどまっている（図5-4）。

(4) 今後の土地利用のあり方全体について

◇『農地や緑を保全する地区』と『開発を促進する地区』を分け、土地利用を誘導すべきである。人口は緩やかな増加がよい」が46.7%で最も多い

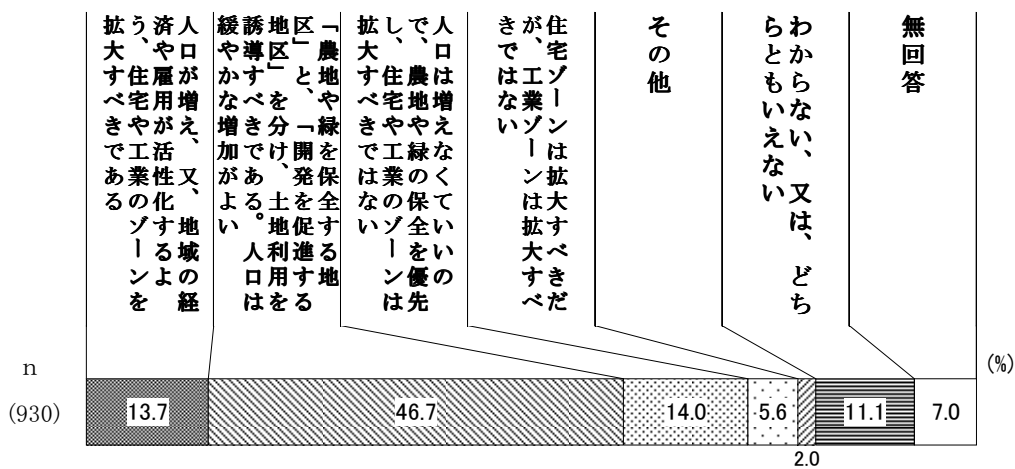
次に示す第4次総合振興計画の「土地利用構想図」をご覧ください。(1)～(4)の設問にお答えください。

問20- (1) 総合振興計画は、将来目標人口を50,000人(市制の要件)に定め、住宅ゾーンや工業ゾーンを拡大して、町の活性化を促す構想となっていますが、今後の土地利用のありかた全体として、あなたの考えに最も近いものひとつに○をつけてください。



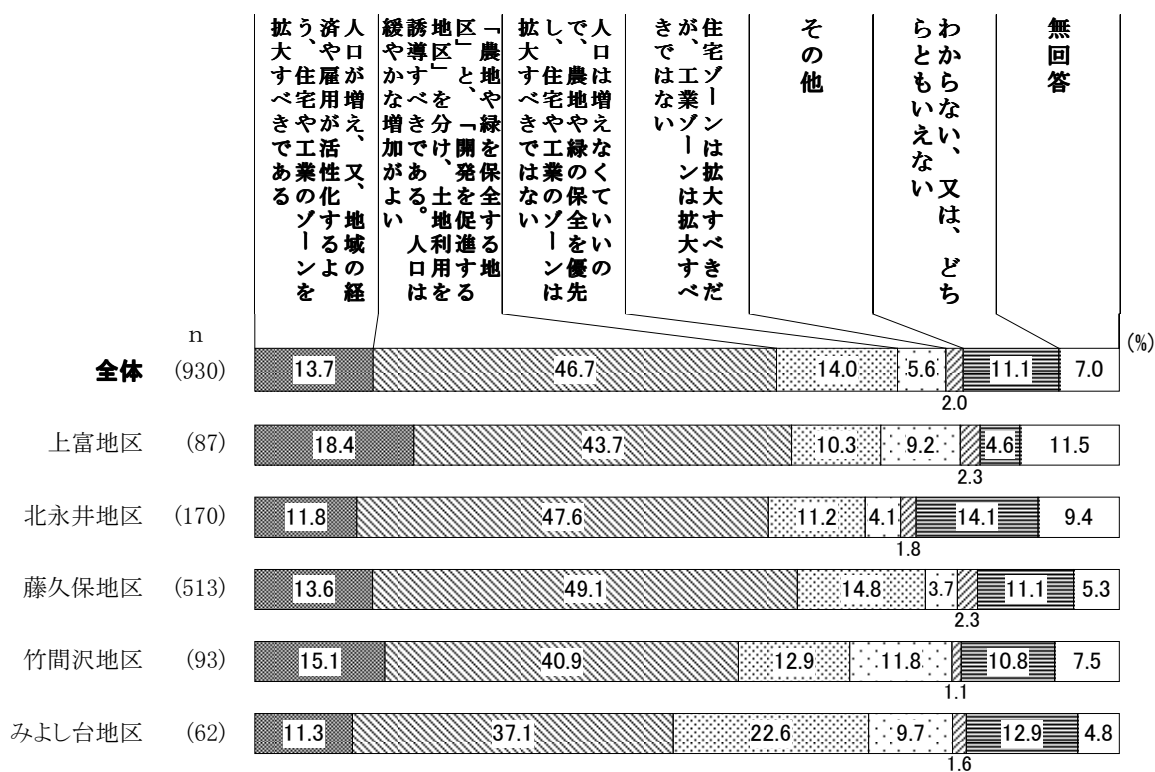
※自然環境保全ゾーン：自然的歴史的価値のある雑木林や並木の保全を図るゾーン

図5-5



今後の土地利用のありかた全体としての考えは、『農地や緑を保全する地区』と『開発を促進する地区』を分け、土地利用を誘導すべきである。人口は緩やかな増加がよい」が46.7%で最も多くなっている(図5-5)。

図5-6 地区別 今後の土地利用のあり方全体について



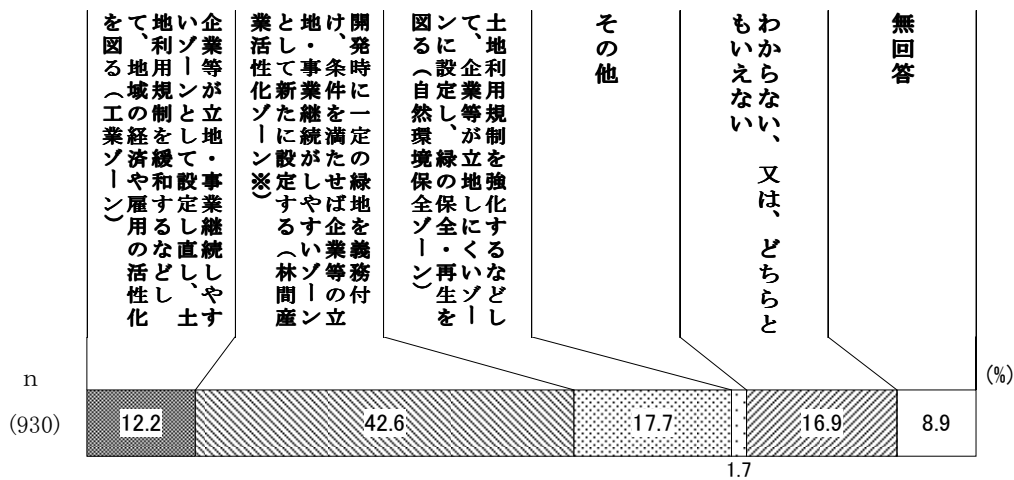
地区別にみると、いずれの地区でも『『農地や緑を保全する地区』と『開発を促進する地区』を分け、土地利用を誘導すべきである。人口は緩やかな増加がよい』が最も多く、藤久保地区（49.1%）では5割近くとなっている。一方、みよし台地区では37.1%と比較的少なく、かわって「人口は増えなくていいので、農地や緑の保全を優先し、住宅や工業のゾーンは拡大すべきではない」が22.6%と他の地区に比べて多くなっている（図5-6）。

(5) Aエリア周辺の今後の土地利用について

◇「林間産業活性化ゾーン」が42.6%で最も多い

問20-(2) Aのエリアは「自然環境保全ゾーン」に位置づけられていますが、現状では倉庫や物流事業者等が多く立地し、近くの三芳PA（パーキングエリア）にはスマートインターチェンジが整備されています。Aエリア周辺の今後の土地利用のありかたとして、あなたの考えに最も近いものひとつに○をつけてください。

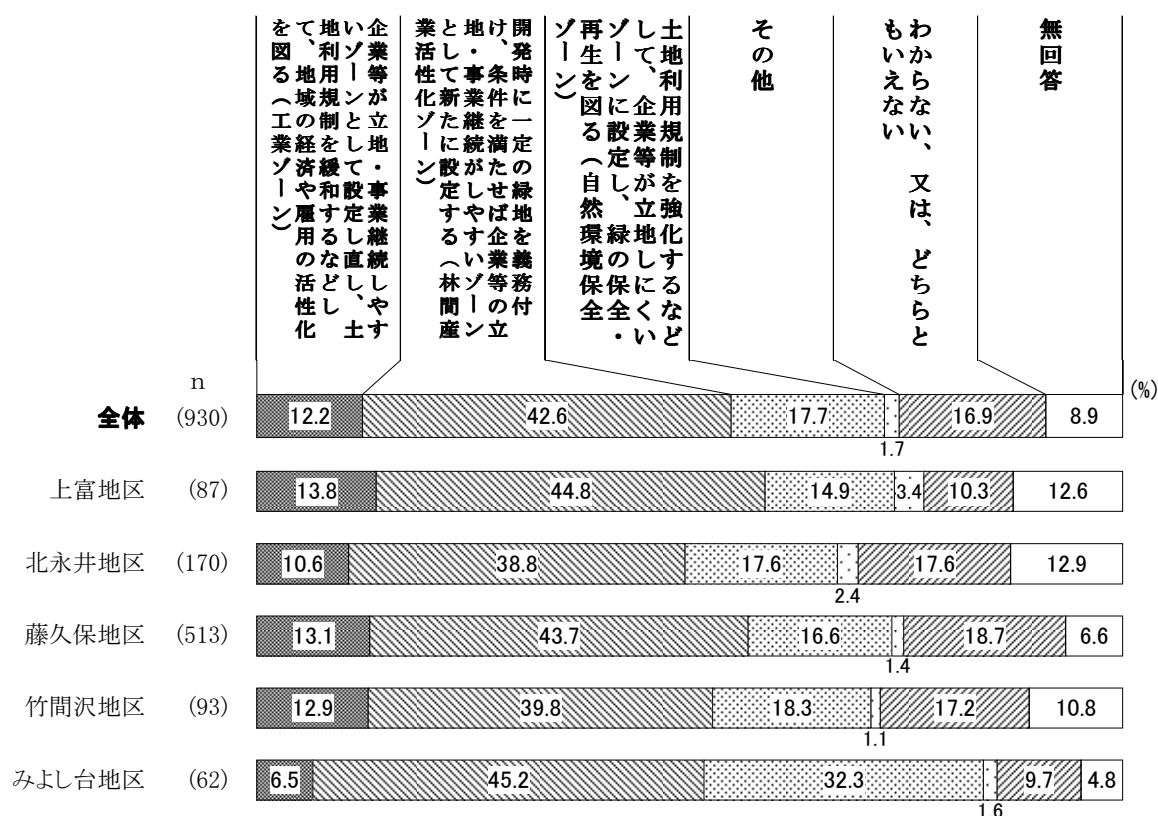
図5-7



※林間産業活性化ゾーン：一定の緑地確保を義務付けながら計画的に産業誘致を行うゾーン

Aエリア周辺の考えは、「開発時に一定の緑地を義務付け、条件を満たせば企業等の立地・事業継続がしやすいゾーンとして新たに設定する（林間産業活性化ゾーン※）」が42.6%と最も多くなっている。現状の利用方法である「土地利用規制を強化するなどして、企業等が立地しにくいゾーンに設定し、緑の保全・再生を図る（自然環境保全ゾーン）」は17.7%であった（図5-7）。

図5-8 地区別 Aエリア周辺の今後の土地利用について



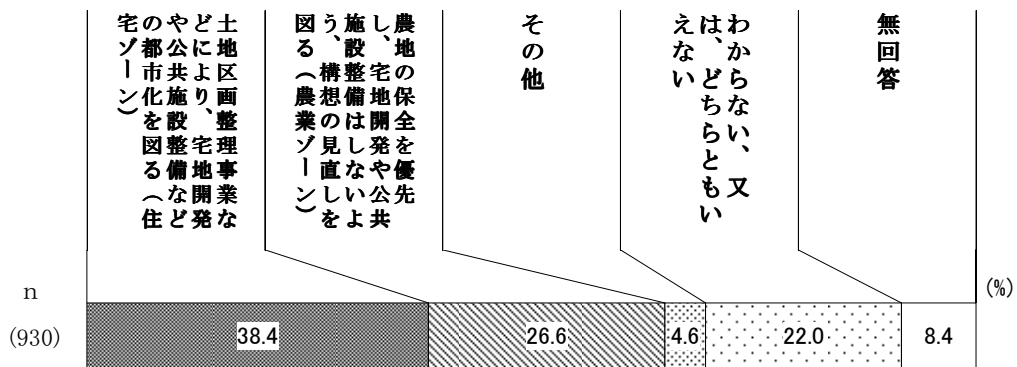
地区別にみると、いずれの地区でも、「開発時に一定の緑地を義務付け、条件を満たせば企業等の立地・事業継続がしやすいゾーンとして新たに設定する（林間産業活性化ゾーン）」が最も多くあげられており、みよし台地区（45.2%）、上富地区（44.8%）、藤久保地区（43.7%）では4割台となっている。なお、みよし台地区では、「土地利用規制を強化するなどして、企業等が立地しにくいゾーンに設定し、緑の保全・再生を図る（自然環境保全ゾーン）」も32.3%と多くなっている（図5-8）。

(6) B・Dエリア周辺の今後の土地利用について

◇「住宅ゾーン」が38.4%で最も多い

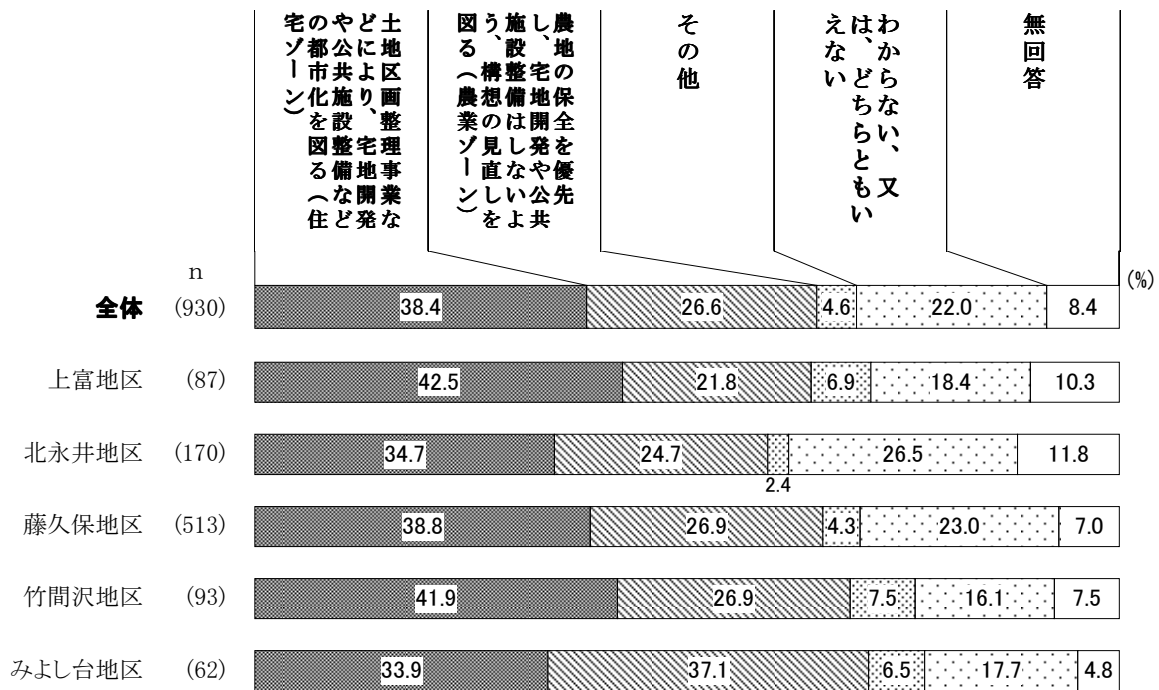
問20-(3) BとDのエリアは、住宅ゾーンに位置づけられていますが、現在はほとんどが農地です。BとDのエリア周辺の今後の土地利用のありかたとして、あなたの考えに最も近いものひとつに○をつけてください。

図5-9



BとDエリア周辺の考えは、「土地区画整理事業などにより、宅地開発や公共施設整備などの都市化を図る（住宅ゾーン）」が38.4%、「農地の保全を優先し、宅地開発や公共施設整備はしないよう、構想の見直しを図る（農業ゾーン）」が26.6%となっている（図5-9）。

図5-10 地区別 B・Dエリア周辺の今後の土地利用について



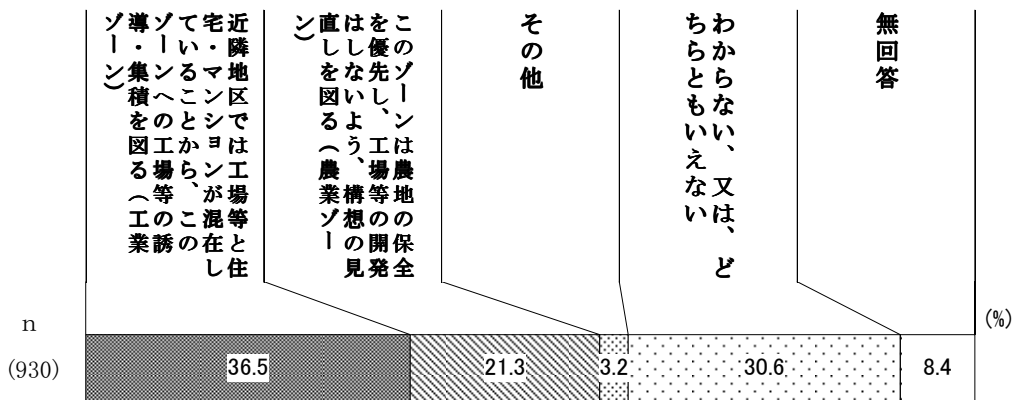
地区別にみると、みよし台地区以外の地区では「土地区画整理事業などにより、宅地開発や公共施設整備などの都市化を図る（住宅ゾーン）」の方が多くあげられており、上富地区（42.5%）と竹間沢地区（41.9%）では4割台となっている。みよし台地区では、「農地の保全を優先し、宅地開発や公共施設整備はしないよう、構想の見直しを図る（農業ゾーン）」が37.1%となり、「土地区画整理事業などにより、宅地開発や公共施設整備などの都市化を図る（住宅ゾーン）」（33.9%）をやや上回っている（図5-10）。

(7) Cエリア周辺の今後の土地利用について

◇「工業ゾーン」が36.5%で最も多い

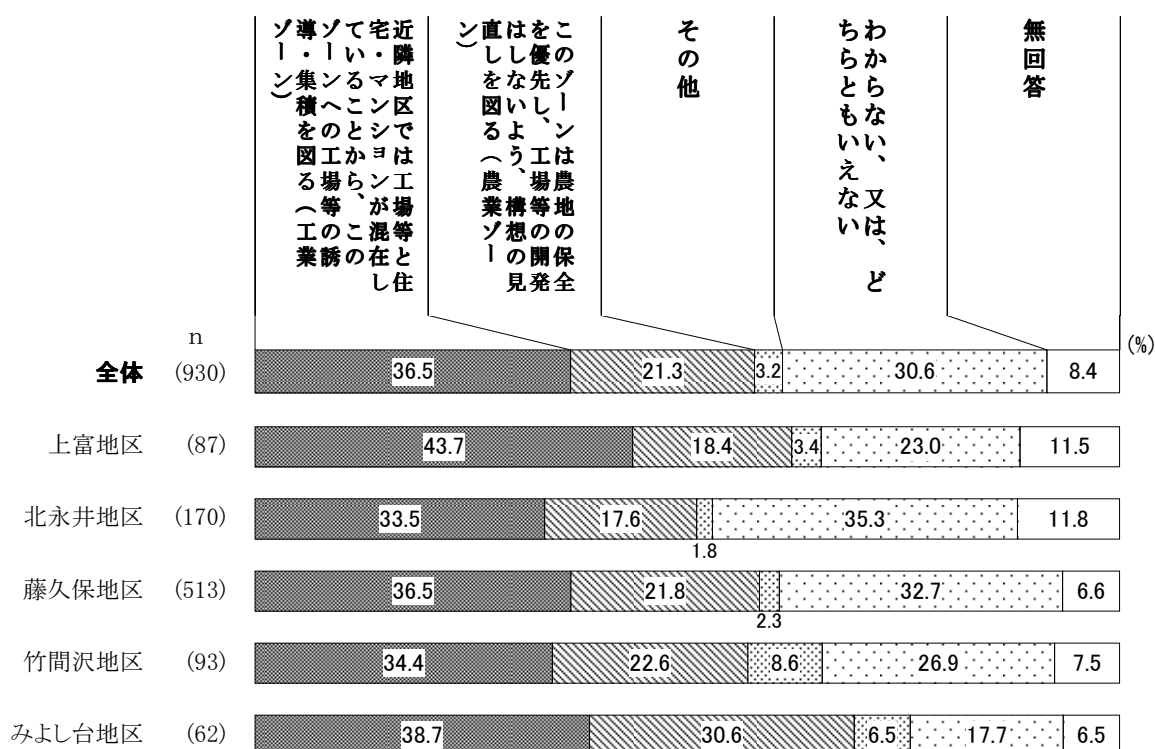
問20-(4) Cのエリアは、工業ゾーンに位置づけられていますが、現在はほとんどが農地です。Cエリア周辺の今後の土地利用のありかたとして、あなたの考えに最も近いものひとつに○をつけてください。

図5-11



Cエリア周辺の考えは、「近隣地区では工場等と住宅・マンションが混在していることから、このゾーンへの工場等の誘導・集積を図る (工業ゾーン)」が36.5%、「このゾーンは農地の保全を優先し、工場等の開発はしないよう、構想の見直しを図る (農業ゾーン)」が21.3%となっている (図5-11)。

図5-12 地区別 Cエリア周辺の今後の土地利用について



地区別にみると、いずれの地区でも「近隣地区では工場等と住宅・マンションが混在していることから、このゾーンへの工場等の誘導・集積を図る（工業ゾーン）」の方が多くあげられており、上富地区では43.7%となっている。なお、みよし台地区では、「このゾーンは農地の保全を優先し、工場等の開発はしないよう、構想の見直しを図る（農業ゾーン）」が30.6%と比較的多くあげられている（図5-12）。

(8) 自由意見

問21 最後に、三芳町の今後の町政全般に対してご意見、ご提案がありましたら、ご記入ください。

町政全般に対する意見、提案を自由に記述してもらったところ、361人の方から貴重な意見をいただいた。1人で複数の内容にわたって記述されている場合、それぞれ該当の項目に分類しているため、延べ件数は752件となる。

1. 環境	139
・大きな公園がほしい、公園の整備	38
・緑を増やす、緑の保全	31
・土埃対策（遊休農地対策含む）	22
・雑木林（保存林）の保護、活用を	9
・町の美化（ゴミがなく、景観がよい）推進	6
・雨水対策（下水対策含む）	5
・街路樹、並木の管理、個人宅の植栽の枝木の指導	5
・これ以上の開発をしない	5
・公害対策（黒煙、ダイオキシンなど）	4
・ゴミ回収の手法、日時の改善	4
・禁煙の推進（屋内外問わず）	2
・粗大ゴミ無料、休日ゴミ回収の続行	2
・リサイクルの活用	1
・土砂流出防止対策	1
・ドッグランの新設	1
・防風林を増やす	1
・住宅ゾーンに風俗店がつかられないように	1
・ペット飼育者のマナー向上指導	1
2. 都市整備	147
・バスの充実（民間バス会社の運営方針改善、町営の市内循環バスの実施等）	34
・幅員狭小、紆余曲折の道路の整備、渋滞解消	26
・拡幅しきれていない道路はいつまで手つかずのままなのか	17
・区画整理の推進	9
・交通手段、交通網の整備	8
・土地利用構想のゾーンの具現化	7
・都市化を目指す、安全・環境へ影響が出るので、バランスが大切	7
・道路工事の工期は短く	7
・スマートインターチェンジの改善、推進	5
・駐輪場の設置、利用料値下げ	4
・地元住民や地主の意見に左右されずしっかりとした都市整備計画を行う	4

・公営・民間集合住宅の増設	3
・下水道、水洗式の整備	3
・大型マンションの建築規制	2
・駅がないから役場を中心に施設、道路を発展させるべき	2
・住宅地の建築規制緩和、活性化	2
・地区ごとに特色を分けたほうが良い	1
・各ゾーンは完全に区分し、ひとつのエリアとすべき	1
・都市ガスの整備	1
・鉄道会社にエレベータ設置の促進要請を	1
・建築業者の集合住宅設計図は行政がチェックすること	1
・戸建住宅の建築規制を厳しく	1
・その他	1
3. 安全対策	103
・治安強化、防犯対策	4
・災害時の避難場所確保、情報提供	2
・悪徳業者の情報開示	1
交通安全	
・歩道の設置	37
・道が暗い、街灯の設置	16
・スクールゾーンの徹底、通学路の安全性確保	13
・信号や標識の設置、危ない場所の点検	12
・交通マナー指導（無灯火自転車、放置自転車、違法駐車・裏道ぬけなど）	9
・自転車走行帯の設置	7
・チャイルドシートの補助金	1
・小学生自転車教室の実施	1
4. 社会福祉	64
・子育てしやすい環境の整備、施策の充実	21
・高齢者福祉、介護保険制度の充実	18
・福祉施設、高齢者用施設（集会場、運動施設など）の充実、増設	4
・福祉全般の充実	2
・障がい者福祉の充実	2
・民生委員選出基準を高くする	2
・各種相談窓口の充実（役場以外で）	1
・元気な高齢者の就労支援	1
・中福祉、中負担が理想	1
・低所得者対策	1
医療関係	
・医療費の負担減、助成	3
・病院の設置、医療設備の充実	2
・医療機関情報の提供（広報紙等にて）	2

・医療体制の改善、24時間対応	1
・小児医療の充実	1
・人工授精治療費の補助	1
・健康指導や人間ドック費用補助	1
5. 産業・商業	56
・農業振興、農地保護、農業者支援	17
・大型小売店（スーパー、デパート）の誘致	7
・企業、工場等の誘致やそのためのインフラ整備（雇用確保、税金）	7
・シンボリック事業、特産品を作る、アピールする	6
・大型商業施設（有名アウトレット、ショッピングモール施設）の誘致	5
・三芳IC、PA付近を活用し、付近に商業、レジャー施設などをつくり活性化	5
・道の駅的なものをつくり地場産物等を販売	3
・商業地の拡大、発展	1
・商店街の活性化	1
・工業地区の見学機会提供	1
・農工業を両立すれば、ベッドタウンとしてアピールできる	1
・町のロケーションを活かしクラウドコンピューティングのデータセンターを誘致	1
・その他	1
6. 文化・教育	50
・図書館・文化会館・公民館等学習文化施設の充実	9
・プールの設置	5
・学区制の見直し	4
・三芳町の名所がほしい	3
・運動施設の維持、充実	3
・教育環境の充実	3
・レジャー（遊園地等）施設の設置	3
・少人数クラスの実施	3
・教師の増員、教職員の資質向上	3
・町内児童の学力向上	3
・マナー、モラル教育の徹底（親、子）	2
・伝統・文化の継承、振興	2
・空き教室や学校を利用して福祉、地域交流施策	2
・小学校からの英語教育	1
・生涯教育の充実	1
・国・県レベルの公共施設を誘致し、文化レベルを向上させる	1
・その他	2
7. コミュニティ	152
・花火まつりの継続	3
・安全な子どもの遊び場、児童館の充実	2
・地域コミュニティの推進	2

・外国人居住者との接点、交流	2
・ボランティア、地域活動の体制充実	2
・定住の促進	1
・自治会は今の時代では、若い人と高齢層で意見があわない	1
・町内活動、イベントの開催で町の知名度をあげる	1
・その他	1
行政関係	
・税金の無駄遣いをしない（健全な行政改革、財政運営、人件費以外のコスト削減）	14
・市制施行を希望、合併を希望	14
・議員、職員の人員適正化、給与体系の見直し	12
・町民の声を吸い上げる機会、場の提供	7
・将来を見据えた行政を、ビジョンを明確に	6
・議員・職員の意識改革が必要	6
・公共施設の充実	5
・役場の対応改善	5
・役場職員の対応が良い	5
・町政、行事のわかりやすい情報公開	5
・役場や公共施設が遠い	5
・市制施行には反対、合併には今後も反対	4
・ハードはもう要らない（人材育成や仕組み作りに尽力）	4
・役場の土日開庁、平日延長開庁	3
・減税、税引き上げがないように	3
・計画のこまめな見直し、誰もが理解しやすいように	3
・他の自治体の研究や、当町との差を評価し、指針にする	3
・村制へ戻すという発想もあってよいのではないか	2
・地域格差の是正	2
・目に見える成果を示す	2
・町民の意識改革も必要	2
・立派な庁舎、公共施設をきちんと活用	2
・より住みやすく、行き届いたサービスを	2
・「三芳町と言えばコレ」というものがほしい	2
・他市に比べて発展が遅い	2
・職員を民間企業から中途採用するなど、幅広い範囲で採用してはどうか	2
・広報の内容充実、改善	1
・町のイメージキャラクター作成	1
・広報紙は月1回なので、回覧などこまめな情報提供を	1
・町長のまちづくり懇話会の回数アップとPR	1
・町長は町民とはにこやかに接してほしい	1
・住民税撤廃	1
・計画策定後の進捗状況の情報提供	1

・議長・副議長も町民投票にて	1
・町と町民がパートナーシップとなった施策が必要	1
・選挙投票区域の改善	1
・その他	5
8. その他	41
・住民にやさしく、住みよいまちづくり	10
・安心して暮らせるまちづくり	8
・明るく元気なまちづくり	5
・アンケートによって町政に関心をもつ契機となった	3
・緑の豊かなまちづくりが理想	2
・夢や希望のあるまちづくり	2
・住みやすくて便利なまちだ	2
・地味で無名だから住みやすいというまちが理想	1
・誰もがぜひ住みたいと思うまちづくり	1
・その他	7

IV 參考資料

三芳町住民意識調査

ご協力のお願い

日頃より町政にご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

三芳町では、10年間のまちづくり指針である「三芳町第4次総合振興計画（平成18～27年度）」を住民参画のもとで策定し、現在、「みんながつくる みどり いきいき ぬくもり のまち」を将来像として、各分野の施策・事業を進めているところです。このたび、本計画が後半にさしかかることから、社会動向や住民意識の変化を踏まえ、後期5年の計画見直しについて検討することとなりました。

そこで、検討の基礎資料※として、施策への住民満足度や地域課題の現状を把握するため、「三芳町住民意識調査」を実施することにいたしました。

つきましては、町内にお住まいの20歳以上の方、2,000人を三芳町住民基本台帳より無作為に選ばせていただきましたところ、あなた様にご回答をお願いすることになりました。

なお、この調査は無記名で行い、ご回答は、すべて統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしませんので、お考えのままをご記入ください。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、より多くの皆さまのご意見を反映いたしたく、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成22年4月1日

三芳町長 鈴木 英美

※一部調査結果は下位計画である「三芳町都市計画マスタープラン」見直しの資料としても活用いたします。

《ご記入にあたってのお願い》

1 調査の対象者

- ◇ 三芳町に居住する20歳以上の住民2,000人を無作為に選び、実施するものです。
- ◇ 封筒の宛名の方が対象者ですので、ご本人が回答して下さい。（ご本人の記入が困難な場合は、身の回りの世話をしている方が聞き取りするなどして、できるだけ回答にご協力をお願いします）

2 ご記入方法

- ◇ 選択肢の設問については、該当する番号に○をつけてください。
- ◇ 自由回答（記入式）の設問については、あなたのお考えを簡潔にまとめてご記入ください。

3 返送方法と〆切り

- ◇ ご記入後、同封の返信用封筒に調査回答用紙を入れ、お近くの郵便ポストに投函して下さい。
- ◇ **4月20日（火）までに**投函して下さい。

4 お問い合わせ先

- ◇ この調査についてのお問い合わせは、下記へお願いします。

三芳町役場 総合政策課 政策推進係

電話 258-0019（内線422・423）

【問3-①】 前問（問3）で、1または2に回答された方にお聞きします。三芳町が「住みやすい」と感じるのはどのような点でしょうか。次の中から選んで、番号に○をつけてください。（複数回答可）

- 1 家族や親類、友人などがいる
- 2 近隣の住民や地域の人たちとのつきあいが良好
- 3 生活が便利（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）
- 4 住宅（居住）環境が良い
- 5 周辺の自然環境が良い
- 6 余暇や娯楽の場に恵まれている
- 7 長年住み慣れている
- 8 教育環境がよい
- 9 歴史・文化的な環境に恵まれている
- 10 その他（ ）

【問3-②】 前問（問3）で、3または4に回答された方にお聞きします。三芳町が「住みにくい」と感じるのはどのような点でしょうか。次の中から選んで、番号に○をつけてください。（複数回答可）

- 1 家族や親類、友人などがいない
- 2 近隣の住民や地域の人たちとのつきあいがうまくいかない
- 3 生活が不便（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）
- 4 住宅（居住）環境が悪い
- 5 周辺の自然環境が悪い
- 6 余暇・娯楽施設がない、又は少ない
- 7 教育環境がよくない
- 8 歴史・文化的な環境が失われている
- 9 その他（ ）

【問4】 以前と比べて、あなたにとって三芳町は住みやすくなりましたか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 非常に住みやすくなった | 2 やや住みやすくなった |
| 3 以前と変わらない | 4 やや住みにくくなった |
| 5 非常に住みにくくなった | 6 わからない |

【問4-①】 以前と比べて、三芳町が住みやすくなったと感じる点、住みにくくなったと感じる点について、あなたのお考えをご記入ください。

住みやすくなったと感じる点
住みにくくなったと感じる点

三芳町における生活環境等項目		満足	ほぼ満足	どちらとも いえない	やや 不満	不満
安全対策	①消防や防火対策	1	2	3	4	5
	②指定避難場所の整備や防災訓練などの防災対策	1	2	3	4	5
	③防犯対策	1	2	3	4	5
	④歩道や信号機などの交通安全対策	1	2	3	4	5
	⑤自転車の放置防止や駐輪場の確保	1	2	3	4	5
福祉	①高齢者や障がい者に対する地域での支えあい	1	2	3	4	5
	②保育所施設や保育内容	1	2	3	4	5
	③児童館や学童保育室のための施設や制度	1	2	3	4	5
	④高齢者のための施設や制度	1	2	3	4	5
	⑤障がい者のための施設や制度	1	2	3	4	5
	⑥ひとり親家庭や低所得者のための援助	1	2	3	4	5
	⑦健康保険や年金制度情報提供・相談	1	2	3	4	5
	⑧介護サービスや相談体制	1	2	3	4	5
	⑨日常の保健・医療サービス	1	2	3	4	5
	⑩救急医療体制	1	2	3	4	5
産業経済	①地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興	1	2	3	4	5
	②商業の振興	1	2	3	4	5
	③新たな産業や地場産業の育成など工業の振興	1	2	3	4	5
	④働く場所の確保や就労支援	1	2	3	4	5
	⑤中小企業支援	1	2	3	4	5
教育・文化	①学習活動やサークル活動など生涯学習の促進や支援	1	2	3	4	5
	②小・中学校の施設や教育内容	1	2	3	4	5
	③子ども会活動の支援や非行防止対策など青少年育成	1	2	3	4	5
	④図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス	1	2	3	4	5
	⑤芸術・文化活動の促進や支援	1	2	3	4	5
	⑥スポーツ・レクリエーション施設や活動支援	1	2	3	4	5
	⑦文化財の保護や活用	1	2	3	4	5
コミュニティほか	①男女共同参画や国際交流などの人権・共生施策	1	2	3	4	5
	②行政情報の公開や提供	1	2	3	4	5
	③町の計画策定や事業の実施等への住民参加	1	2	3	4	5
	④住民の主体的なまちづくり活動への支援	1	2	3	4	5
	⑤公共施設（図書館・火葬場等）の相互利用など周辺市町との広域サービス	1	2	3	4	5
	⑥役場庁舎の施設やサービス	1	2	3	4	5
	⑦出張所の施設やサービス	1	2	3	4	5
	⑧町職員の対応やマナー	1	2	3	4	5

【問 7】 あなたは三芳町に愛着を感じていますか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------|----------|
| 1 非常に感じる | 2 やや感じる |
| 3 あまり感じない | 4 全く感じない |
| 5 どちらともいえない | |

IV 地域内の様子について

【問 8】 あなたのお住まいの地域では、みんなで協力し合ってよりよい地域をつくっていくような雰囲気や土壌はありますか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

- | | | |
|------------|-----------|-------------|
| 1 非常にあると思う | 2 あると思う | 3 どちらともいえない |
| 4 あまりないと思う | 5 全くないと思う | |

【問 9】 あなたは、地域活動や交流に関心がありますか。次の中から1つだけ選んで番号に○をつけてください。

- | | | |
|------------|-----------|-------------|
| 1 非常に関心がある | 2 関心がある | 3 どちらともいえない |
| 4 あまり関心がない | 5 全く関心がない | |

【問10】 あなたは、現在の自治会や町内会について、どのように考えていますか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1 地域のまとまりや問題解決には欠かせない | 2 地域の親睦や相互扶助には欠かせない |
| 3 地域の防災や防犯には欠かせない | 4 祭りや地域行事には欠かせない |
| 5 地域に密着した団体としては欠かせない | 6 わからない |
| 7 その他（具体的に | ） |

【問11】 あなたは、どのような地域活動に参加したいですか。次のうち、あなたの考えに近いものを選んで番号に○をつけてください。（複数回答可）

- | | |
|--------------------------|---|
| 1 スポーツ・レクリエーション活動 | |
| 2 趣味や学習・文化などのサークル活動 | |
| 3 まちの美化・清掃、緑化・自然保護などの活動 | |
| 4 国際交流や男女共同参画のための活動 | |
| 5 祭りや盆踊りなどの行事 | |
| 6 福祉ボランティアなどの活動 | |
| 7 防犯・防災・交通安全などの地域安全活動 | |
| 8 地場産品のPRやブランドづくりなどの観光活動 | |
| 9 学校支援や子ども会などの児童生徒ための活動 | |
| 10 郷土文化の継承や文化財保護などの活動 | |
| 11 特にない | |
| 12 その他（具体的に | ） |

V 町政運営について

【問12】 あなたは町政に関心がありますか。次の中から、1つだけ選んで○をつけてください。

- | | | |
|------------|---|-----------|
| 1 非常に関心がある | } | 【問12-①】 へ |
| 2 関心がある | | |
| 3 あまり関心がない | } | 【問12-②】 へ |
| 4 全く関心がない | | |

【問12-①】 前問（問12）で、1または2に回答された方にお聞きします。関心がある理由としてあてはまるものを選んで、番号に○をつけてください。（複数回答可）

- 1 自分の暮らし向きに直接関係があるから
- 2 町政を身近に感じているから
- 3 政治・行政に興味があるから
- 4 町をもっとよくしたいから
- 5 町民としての義務であると思うから
- 6 その他（具体的に _____）

【問12-②】 前問（問12）で、3または4に回答された方にお聞きします。関心のない理由としてあてはまるものを選んで番号に○をつけてください。（複数回答可）

- 1 自分の暮らし向きにあまり関係がないから
- 2 忙しくて町政のことを考える暇がないから
- 3 政治・行政に興味がないから
- 4 今の町政はうまくいっていると思うから
- 5 個人の意見は行政に反映されにくいと思うから
- 6 その他（具体的に _____）

【問13】 あなたは、町政や町の行事などについて、どこから情報を得ていますか。次の中から選んで、番号に○をつけてください。（複数回答可）

- 1 広報みよし
- 2 議会だより
- 3 三芳町ホームページ
- 4 新聞（地方紙、タウン誌を含む）
- 5 回覧板や掲示板、自治会を通じて
- 6 町議会議員を通じて
- 7 近所の人や家族・友人などから
- 8 その他（具体的に _____）

【問14】 あなたが、ご自分の意向を町政に伝える場合、どのような方法を選びますか。次の中から選んで、番号に○をつけてください。（複数回答可）

- 1 窓口で直接話をする
- 2 役場に電話をかける
- 3 「町長への手紙」「町長へのメール」（町政への意見提案制度）を利用する
- 4 担当課にメールをする
- 5 町議会議員を通じて伝える
- 6 区・自治会役員を通じて伝える
- 7 計画や施策に対する意見公募の機会を利用する（パブリックコメントなど）
- 8 審議会等の公募委員に応募する
- 9 その他（具体的に ）

【問15】 あなたは、三芳町の行政運営に対して特にどのようなことを望みますか。次の中から選んで番号に○をつけてください。（複数回答可）

- 1 地域と行政の連携強化、住民参画や協働の推進
- 2 業務の民間開放（施設の民営化など、企業やNPOによる公共サービス）
- 3 無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営
- 4 行政職員の資質向上
- 5 窓口や電話などの対応・サービスの改善
- 6 窓口業務の迅速化・手続きの簡素化
- 7 閉庁日や時間外などの行政サービスの対応
- 8 親しみのもてる役場の環境づくり
- 9 情報公開の推進
- 10 その他（ ）

【問16】 三芳町を一層住みやすい町にするためには、今後どのような施策に力を入れるべきだと思いますか。それぞれの分野ごとに2つ以内を選んで、番号に○をつけてください。

分 野	選 択 項 目	
環 境	1 景観や街並みの整備 3 公園や緑地の整備 5 環境対策（ダイオキシン、水質、騒音等） 7 その他（具体的に ）	2 自然環境の保全 4 ごみの減量化・リサイクルの推進 6 ごみ・し尿処理などの廃棄物処理
都市整備	1 主要道路の整備 3 上下水道の整備 5 適切な土地利用（区画整理・開発） 7 その他（具体的に ）	2 生活道路の整備 4 バスなど交通網の整備 6 大雨のときの治水対策
安 全	1 防災対策 3 交通安全対策 5 その他（具体的に ）	2 防犯対策 4 消防・救急体制の整備

分野	選択項目	
福祉	1 医療・保健施設の整備 3 子育て支援の充実 5 高齢者福祉の充実 7 ボランティアの育成・支援 9 福祉施設の整備 11 その他（具体的に）	2 医療保健サービスの充実 4 児童・青少年の健全育成 6 障がい者福祉の充実 8 介護保険サービスの充実 10 子育て支援施設の整備
産業経済	1 農地の保全や農業の振興 3 商業・サービス業の振興 5 雇用確保や就労支援 7 その他（具体的に）	2 工業の振興 4 企業の誘致 6 観光施策・町のPR戦略
教育・文化	1 学校教育の充実 3 芸術文化活動の促進や支援 5 文化財の保護や活用 7 その他（具体的に）	2 生涯学習の充実 4 スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援 6 図書館・公民館・文化会館などの学習文化施設の充実
コミュニティ 行財政	1 地域のふれあい 3 男女共同参画・国際交流・人権啓発の推進 5 住民主体のまちづくり活動の支援 7 行財政改革（経費削減など） 9 その他（具体的に）	2 祭り・イベント・各種行事の充実 4 町政への住民参加・協働の充実 6 行政情報の公開や提供 8 職員の意識改革

VI 町の将来イメージ

【問17】 あなたが考える三芳町のイメージとして、「現在のイメージ」と、将来期待する「これからのイメージ」について、それぞれ次の言葉の中から近いものを選んで○をつけてください。（複数回答可）

また、具体的な将来イメージもご記入ください。

	現在の三芳町のイメージ	これからの三芳町のイメージ		現在の三芳町のイメージ	これからの三芳町のイメージ
(例) 美しい	○	○	にぎわいのある		
自立した			魅力のある		
元気な			安心な		
緑豊かな			ぬくもりのある		
活力ある			パートナーシップの		
文化的な			安全な		
支えあいの			健康的な		
便利な			自然環境がよい		
落ち着いたの			調和のとれた		
やさしい			明るい		

町の具体的な将来イメージ

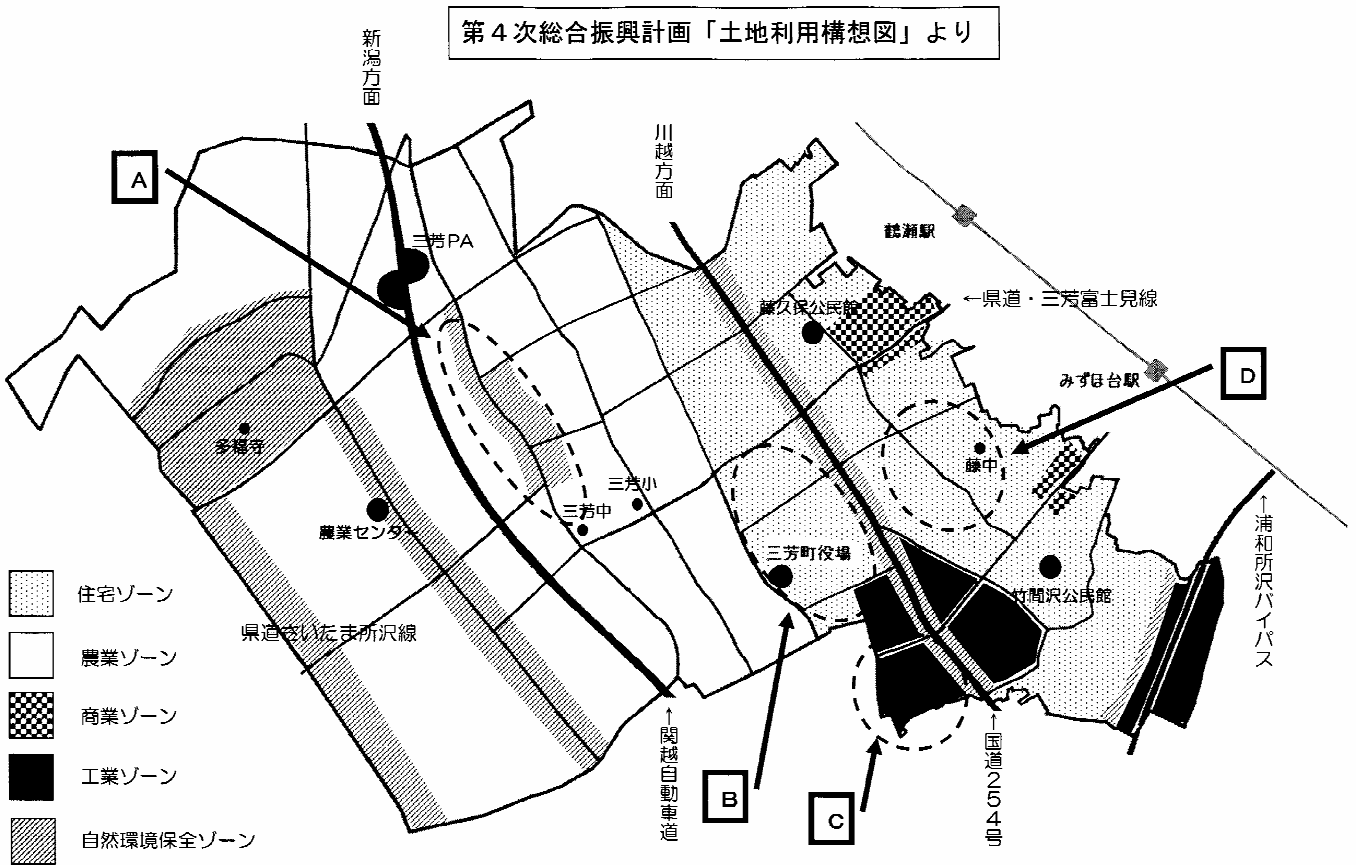
【問18】 三芳町の郷土の誇りや宝、シンボルなどについて、あなたはどのように思いますか。
次の(1)から(5)の項目について、代表的なものを1つずつ回答欄に記入してください。

(1) 三芳町の誇り・宝	
(2) 来訪者を案内する町内の場所	
(3) 三芳町のお土産として利用するもの	
(4) 三芳町の象徴（シンボル）	
(5) 三芳町の色（シンボルカラー）	

【問19】 下記の第4次総合振興計画の重点施策について、どの程度進んでいると感じますか。
それぞれあなたの考えに最も近いものひとつに○をつけてください。

(1)協働プロジェクト (住民参画、民間活力導入、情報公開など)	1 進んでいる 2 少し進んでいる 3 あまり進んでいない 4 進んでいない 5 どちらともいえない・わからない
(2)ぬくもりプロジェクト (地域の健康福祉、子育て支援、住民窓口など)	1 進んでいる 2 少し進んでいる 3 あまり進んでいない 4 進んでいない 5 どちらともいえない・わからない
(3)みどりプロジェクト (公園整備、緑の保全活動、環境美化、リサイクル)	1 進んでいる 2 少し進んでいる 3 あまり進んでいない 4 進んでいない 5 どちらともいえない・わからない
(4)いきいきプロジェクト (産業活性化、都市基盤整備、観光、教育文化など)	1 進んでいる 2 少し進んでいる 3 あまり進んでいない 4 進んでいない 5 どちらともいえない・わからない
(5)あんしんプロジェクト (防犯、防災、交通、バリアフリーなど)	1 進んでいる 2 少し進んでいる 3 あまり進んでいない 4 進んでいない 5 どちらともいえない・わからない

【問20】 次に示す第4次総合振興計画の「土地利用構想図」をご覧ください。(1)～(4)の設問にお答えください。



※自然環境保全ゾーン：自然的歴史的価値のある雑木林や並木の保全を図るゾーン。

(1) 総合振興計画は、将来目標人口を50,000人(市制の要件)に定め、住宅ゾーンや工業ゾーンを拡大して、町の活性化を促す構想となっていますが、今後の土地利用のありかた全体として、あなたの考えに最も近いものひとつに○をつけてください。

- ① 人口が増え、又、地域の経済や雇用が活性化するよう、住宅や工業のゾーンを拡大すべきである。
- ② 「農地や緑を保全する地区」と、「開発を促進する地区」を分け、土地利用を誘導すべきである。人口は緩やかな増加がよい。
- ③ 人口は増えなくていいので、農地や緑の保全を優先し、住宅や工業のゾーンは拡大すべきではない。
- ④ 住宅ゾーンは拡大すべきだが、工業ゾーンは拡大すべきではない。
- ⑤ その他
- ⑥ わからない、又は、どちらともいえない

(2) **A**のエリアは「自然環境保全ゾーン」に位置づけられていますが、現状では倉庫や物流事業者等が多く立地し、近くの三芳PA（パーキングエリア）にはスマートインターチェンジが整備されています。**A**エリア周辺の今後の土地利用のありかたとして、あなたの考えに最も近いものひとつに○をつけてください。

- ① 企業等が立地・事業継続しやすいゾーンとして設定し直し、土地利用規制を緩和するなどして、地域の経済や雇用の活性化を図る。（工業ゾーン）
- ② 開発時に一定の緑地を義務付け、条件を満たせば企業等の立地・事業継続がしやすいゾーンとして新たに設定する。（林間産業活性化ゾーン※）
※林間産業活性化ゾーン：一定の緑地確保を義務付けながら計画的に産業誘致を行うゾーン。
- ③ 土地利用規制を強化するなどして、企業等が立地しにくいゾーンに設定し、緑の保全・再生を図る。（自然環境保全ゾーン）
- ④ その他
（
）
- ⑤ わからない、又は、どちらともいえない

(3) **B**と**D**のエリアは、住宅ゾーンに位置づけられていますが、現在はほとんどが農地です。**B**と**D**のエリア周辺の今後の土地利用のありかたとして、あなたの考えに最も近いものひとつに○をつけてください。

- ① 土地区画整理事業などにより、宅地開発や公共施設整備などの都市化を図る。（住宅ゾーン）
- ② 農地の保全を優先し、宅地開発や公共施設整備はしないよう、構想の見直しを図る。（農業ゾーン）
- ③ その他
（
）
- ④ わからない、又は、どちらともいえない

(4) **C**のエリアは、工業ゾーンに位置づけられていますが、現在はほとんどが農地です。**C**エリア周辺の今後の土地利用のありかたとして、あなたの考えに最も近いものひとつに○をつけてください。

- ① 近隣地区では工場等と住宅・マンションが混在していることから、このゾーンへの工場等の誘導・集積を図る。（工業ゾーン）
- ② このゾーンは農地の保全を優先し、工場等の開発はしないよう、構想の見直しを図る。（農業ゾーン）
- ③ その他
（
）
- ④ わからない、又は、どちらともいえない

【問21】 最後に、三芳町の今後の町政全般に対してご意見、ご提案がありましたら、ご記入ください。

●アンケートにご協力くださりまして、誠にありがとうございました。お手数ですが、この回答用紙（12分）そのものを折りたたんで返信用封筒に入れ、封をして郵便ポストに投函してください。

三芳町住民意識調査報告書

平成22年6月

委託者：三芳町役場 総合政策課

〒354-8555 埼玉県入間郡三芳町大字藤久保1100番地1

電話：049-258-0019（代）

受託者：(株)サーベイリサーチセンター

〒116-8581 東京都荒川区西日暮里2-40-10

電話：03-3802-6724

この冊子は再生紙を利用しています。